

2019 年度
日本語・日本文化研修留学生
研究レポート集 XVII



2020 年 9 月

三重大学国際交流センター

地域人材教育開発機構

＊ 目 次 ＊

2019 年度 日本語・日本文化研修留学生 名簿	1
◇ コロナ後の世界における茶道の可能性 －アンケートとインタビュー調査からの検討－ ゴ コクナン	2
◇ 環境問題における日本とカンボジアの相違点 －人々の意識と知識－ スルン リダヴィッド	20
◇ タイと日本語のオノマトペの比較 －音と意味と翻訳からの理解度－ ソンブーン キッティヤポン	41
◇ 日本の学校教育における英語教育の問題点とその改革 －改善案と実践活動－ シュテーグミュラー トアベン	64
2019 年度 日本語・日本文化研修留学生プログラムの概要	86
編集後記	92

2019年度 日本語・日本文化研修留学生 名簿

(2019年10月～2020年9月)

氏名	国籍 (母国の所属の大学)	性別	専門領域	指導教員
ゴ コクナン WU GUONAN	中国 (延辺大学)	男	日本語	栗田 聡子 (国際交流センター・ 准教授)
スルン リダヴィッド SRUN LYDAVID	カンボジア (王立プノンペン大学)	男	日本語	正路 真一 (地域人材教育開発 機構・助教)
ソンブーン キッティヤポン SOMBOON KITTIYAPORN	タイ (カセサート大学)	女	日本語	福岡 昌子 (地域人材教育開発 機構・教授)
シュテークミュラー トアベン STEGMUELLER TORBEN	ドイツ (ハイデルベルク大学)	男	日本語	松岡 知津子 (地域人材教育開発 機構・准教授)

コロナ後の世界における茶道の可能性 — アンケートとインタビュー調査からの検討 —

ゴ・コクナン

The Possibilities of Tea Ceremony in a Post-Corona World: Considerations from Questionnaire and Interviews

WU, Guo Nan

<要旨>

中国からもたらされた茶葉より始まった日本の茶道は、戦乱の時代に武士の精神的な修練や生き方である「道」として追究され、日本独自の文化・芸術として発展して現代まで受け継がれている。だが、近年には、茶道人口が減少している状況に加え、2020年はコロナウィルス感染症の拡大により、茶道文化は大きな打撃を受けている。そこで、本研究では「コロナ禍の茶道への影響と将来のあるべきかたち」について検討することとした。研究1では、三重大大学の茶道部の学生らにアンケートをとり、茶道からの影響やコロナ後の茶道について意見を集めた。コロナ後に茶道が継続して発展していくためには、「正座のようなものを無くし、気軽なかたちに変わるべき」との提案がされた。研究2では、茶道経験が長く、茶道に対する理解が深い2名を対象にインタビューを実施した。彼らの考えには共通点があり、今後の茶道は「大茶会のような豪華なもてなしから、茶の湯が大成された利休の時代の茶道に戻っていくのでは」との内容であった。アンケートの回答結果とインタビューの内容、そして茶道資料から今後の茶道の役割と可能性について考察する。

キーワード：茶道，新型コロナウイルス，日本，中国

1. はじめに

日本茶道は建築、書道、陶器、茶花、そして料理の要素などの多くの側面を吸収することにより成立した社交性を持つ文化である。著者は、この茶道文化が茶道を学んでいる若者にどのような影響を与えているのか中国で興味を持ち、その調査をするために日研究生として日本の三重大大学に留学して茶道部に入部した。しかし、新型コロナウイルス感

染症の拡大により、世界は大きな被害を受け、大学で茶道活動もできなくなってしまった。そこで、著者は研究テーマを変更し、茶道に関わる人々へアンケートやインタビューを通じて、「コロナ禍の茶道とコロナ後の世界での可能性」について考察することにした。まず、お茶の歴史について母国である中国と日本に分けて記す。

2. 先行研究

2.1. 中国茶文化の歴史

中国唐代(618-907)に茶聖といわれる陸羽が著した『茶経』には、農業の神様である神農の時代からお茶が飲まれてきたと記されている。『茶経』は3巻10章から成っている最古の茶の本であり、茶の起源と歴史から茶道具、いれ方や飲み方、心得まで書かれている。茶の飲用は、魏晋南北朝時代(184-589)に今日の四川省と雲南省の辺りで始まり、三国時代(220~280年)以降、お茶は次第に嗜好品として、主に上流階級の人々に愛飲されるようになった(布目, 2001)ようである。隋・唐代には、お茶を火にかけて煮出す方法や煎茶など、さまざまな楽しみ方があり、同時に茶器の原型といわれるものが多数考案された。唐代には喫茶の風習が北方民族に広まり、茶と馬を交換する茶馬交易が始まるなど、茶は重要な産物として扱われるようになった(高橋, 2013)。

宋代(960-1279)に入り、お茶の新しい製法が次々に考案されて茶の種類が大幅に増えた。この時代、お茶が主要な輸出品となって国家財政に貢献し、わずかしか生産されない初芽を使った新茶は皇帝に献上された。茶は身分の高い貴族から文化人を含めた富裕層の市民に広がり、茶を飲みながら書や詩をたしなみ、哲学が論じられたという(布目, 2001)。明代(1368-1644)に入り、茶を飲む習慣(喫茶)は上流階級から一般市民へと普及した。初代皇帝である洪武帝(朱元璋=しゅげんしょう)が1391年(洪武24年)に福建省において団茶の製造禁止を発令し、散茶をお湯に浸して抽出する泡茶法が主流となった。その独特な茶の淹れ方の作法である「茶芸」が考案され、この頃に烏龍茶が誕生したといわれている。清代(1616-1912)には、茶葉や茶器が完成され、茶文化は最盛期を迎えた(布目, 1995)。清国の崩壊後、中国は列国からの侵略を受けながらも、茶葉の栽培方法や茶壺などの道具は発展していった。中華人民共和国の建国(1951年)後、毛沢東が主導した政治運動である「文化大革命」(1966-1976)の時代に入ると、お茶は贅沢の象徴と考えられ、その栽培は制限された。台湾や香港で茶芸と栽培方法が発展し、現在人気の高山茶(台湾)が生まれた(布目, 1995)。

2.2. 日本茶道文化の歴史

中国で誕生した茶は、平安時代の805年に遣唐使の最澄、空海、永忠らによって日本

にもたらされたと記録されている。禅宗を学んだ栄西（1141-1215）は著書『喫茶養生記』で、お茶の種類や抹茶の製法、薬効などを説いた。華嚴宗（けごんしゅう）の僧である明恵上人（みょうえしやうにん）（1173-1232）は鎌倉時代に京都の高山寺に茶を植え、茶を奨励した。その高山寺は、日本で最古の茶園と考えられている（古田 2000）。

そして、鎌倉時代から南北朝時代には、禅宗寺院に喫茶が広がると共に、社交の道具として武士階級にも喫茶が浸透していった。南北朝時代になると、茶を飲み比べ、産地をあてる「闘茶」が行われ、庶民や武士の間で流行した。室町から安土桃山時代になると村田珠光（1423-1502）が「侘茶（わびちゃ）」を創出し、これを受け継いだ武野紹鷗（たけのじょうおう：1502-1555）、千利休（1522-1591）らによって「茶の湯」が完成した。利休は、茶堂（さじゅう）として天下人の織田信長（1534-1582）に仕えた。茶の湯を政治に利用した信長の政策は「御茶湯御政道」（おちやのゆごせいどう）とも呼ばれ、武家儀礼として扱われた（表千家, 2005）そうである。利休は、本能寺の変(1582年)で信長が没した後は、豊臣秀吉(1537-1598)に仕えた。彼は芸術家というよりも陰で仲介や調停をする黒幕的な政治家（千, 2010）であったとも言われ、秀吉により死に追いやられたと伝えられている。その後、利休の孫である千宗旦の子供たちによって、「表千家」、「裏千家」、「武者小路千家」の「三千家」が流派として作られ、伝統的な日本文化の一つとして茶道は現在も継承されている（谷端, 2010）。次に、茶道の歴史の中で最も重要な「わび茶」に焦点をあて、成立の過程と意味について補足する。

2.3. わび茶としての茶道の大成

わび（侘び・侘）とは、「飾りやおごりを捨てた、ひっそりとした枯淡な味わい。茶道・俳諧の理念の一つ」（大辞林 第三版, 2006）「貧粗・不足のなかに心の充足をみいだそうとする意識」（日本大百科全書, 1994）と定義されている。美術工芸品を例にとつて説明すると、「余白の多い簡略な筆遣いの絵。割れてヒビが入った茶碗。不完全(Incomplete)」のように表現されるらしい。一方で、さび（寂）（「閑寂さのなかに、奥深いものや豊かなものがおのずと感ぜられる美しさ」（立花, 2012））は「時を経て色味や肌合いが変質した素材。無常(Impermanent)」であるとされ、あわせて日本特有の美意識として理解されている（阪急文化財団, 2020）。

「わび茶」とは、前述したように安土桃山時代に流行し、千利休が完成させた茶の湯として「わび」の精神を重んじたものであるが、「わび茶」という言葉は江戸時代に出来たものである（千, 2010）。室町時代、公家や武士らが集う上流社会では、中国製の茶道具である豪華な「唐物」が飾り立てられ、にぎやかな宴会の中に喫茶の文化があった。15世紀後半に、その文化は大きく変容する。唐物道具にかわり、日本独特の不足の美(わ

び)を追究する茶の湯が生まれたのである。それが、「わび茶」すなわち「茶道」の成立であった(表千家, 2005)。

元僧侶である村田珠光が「わび茶の祖」とされるゆえんは、のちの茶人に大きな影響を与えた「心の文(ふみ)」にある。その中で、珠光は茶の湯を人間の生き方の「道」としてとらえ、心の修養にふれたのである(表千家, 2005)。

珠光の茶道を深めたのが堺の豪商で禅僧でもあった武野紹鷗であり、和歌の思想(稽古や創意工夫)や美意識を茶道に取り入れた。同じく堺の町衆であった千利休は紹鷗から茶の湯を学んだ。利休が目指したのは、「遊びの要素をできるかぎり拭い捨て、人びとの心の交流を中心とした緊張感のある茶の湯」(表千家, 2005)であった。利休は卓越した審美眼により、楽長次郎(楽焼の陶工)の茶碗をはじめ、わびの美にふさわしい道具を創造させ、わび茶の世界を大成した(林屋, 2011)。茶の精神として現代に受け継がれている「一期一会」は、もとは利休の言葉とされており、弟子の山上宗二(1544-1590)によって記された。一生(仏教用語の一期)に一度(一会)の出会いであることを心得ることで、亭主と客は互いに誠意をもって思いやり、充実した今という時間を過ごすことができる、という考え方である(裏千家, 2020)。

当時、このわび茶(茶の湯)に魅せられた武将は数知れず、織田信長、豊臣秀吉をはじめとし、明智光秀、前田利家など錚々たる歴史的人物が存在した(矢部, 2014)。密談など政治的な目的だけでなく、茶の湯は常に「死」と隣り合わせの日常を生きる武将らの心、武士の精神と結びついていた。彼らの心を穏やかにさせ、静かに人との交流(一期一会)を楽しむことのできる時間と空間を与える役目が、茶の湯にあったと考えられている(立花, 2012)。「一期一会」の思想は、江戸時代末期の彦根藩主であった井伊直弼(1815-1860)による「茶湯一会集」により広められた(彦根城博物館, 2015)。

2.4. 近年の茶道における状況

このように、日本における茶の文化は、もともとは中国からもたらされた茶葉によるものであるが、わび茶としての茶の湯は、戦乱の時代に精神的な修練や生き方である「道」として追究され、日本独自の文化・芸術として発展した。その独特の伝統文化は、現代においてアニメやマンガを通じ、日本の若者だけでなく、中国をはじめとした海外の多くの若者にも紹介されている。著者が茶道に興味を持った理由も、「私は利休」(早川, 2012)というマンガを中国で読んだことからであった。「私は利休」では、お茶を点てる描写があり、道具や茶道のルールも解説されている。千利休が主要人物に憑依する場面や、茶道具を鑑定するような興味深い場面も多く、マンガをきっかけに茶道に興味を持った海外の若者も多いと考えられる。

近年の茶道に関係した映画では、人気のエッセイ集である『日日是好日（にちにちこれこうじつ）「お茶」が教えてくれた 15 のしあわせ』（森下典子, 2002）を原作にした『日日是好日』が 2018 年に大ヒットした。主演は黒木華で、茶道教授役を国民的な人気女優であった樹木希林（2018 年逝去）が演じている。

『日日是好日』の茶会シーンでは、茶室の席を求める女性が大勢つめかけるが、実際の茶道人口は徐々に減少している。2016 年の社会生活基本調査によると、25 歳以上人口の 100 人あたりの茶道人口は 1.38 人のみにとどまっている。

その中で、昨年末に発生した新型コロナウイルス感染症の影響を受け、茶道業界は大きな打撃を受けている。なぜなら「一期一会」と関係して「一座建立（いちざこんりゅう）」（主格がひざを付き合わせる空間で一体感を生じさせる充実した茶会とすることを意味）を心得とする茶道は、コロナで避けるべき 3 密（密閉空間・密集場所・密接場面）の環境を基本としているからである。

各流派の HP はその影響の大きさを伝えている。日本政府の基本方針に基づき、裏千家は感染予防および感染拡大防止を優先して春の宝松庵茶会（3 月 29 日）をはじめ、茶会だけでなく直門稽古まで全て中止とした（裏千家, 2020）。武者小路千家も、9 月以降に予定されていた献茶式や茶会を全て中止すると告知している（武者小路千家, 2020）。

次に、このように甚大な被害を茶道会にもたらした新型コロナウイルス感染症が世界中にもたらした被害について記す。

2.5. 新型コロナウイルス感染症による被害と影響

2019 年の 12 月に発生した新型コロナウイルス感染症は、中国から発生して以来世界中に広がり、8 月 9 日の現時点で感染者は約 1940 万人、死亡者数は 72.2 万人にも昇っている。最も被害が大きい国はアメリカ合衆国であり、502 万人が感染して感染拡大が止まらず、1 日に 7 万人を超える新規感染者数が報告されている。日本では、4.8 万人の感染が確認されており、死亡が 1043 名（クルーズ船以外）、7 月に入り感染者が再び増加、本日（8 月 9 日）では約 1500 名以上が感染した（NHK, 2020）。

目に見えないウイルスが蔓延するコロナ禍で、世界の人々の暮らしは一変し、経済から教育にいたるまで深刻な影響を与えている。株価は暴落し、日本では観光や飲食業を含む「生活娯楽関連サービス」の甚大な損害は生活に困窮する人々の数を増やしている（経済産業省, 2020）。また、外出の自粛要請や休業要請、そして教育までが制限される状況が続いている。日本人 500 名を対象にした調査によると、全ての年代の約 5 割がストレスを感じており、特に若い年代（20・30 代）では、約 6 割がストレスを感じている（ファンケル, 2020）との報告もある。

日本では、各地で感染者、医療者に対する差別発言、差別行為も発生した。三重県では、感染が確認された市民の家に石が投げ込まれてガラスが割られたり、壁に落書きされる事件が起きている（永山, 2020）。

2. 6. 新型コロナウイルス感染の責任と国際関係

コロナの拡大は、最も深刻な被害を受けたアメリカ社会が従来から抱えてきた問題である「人種差別」に対する抗議を世界的なレベルにまで広げるきっかけにもなった。5月25日に黒人のジョージ・フロイド氏が、首を白人警官に押さえつけられ、後に死亡する事件が発生。その事件に対する抗議デモ BLM(Black Lives Matter)運動は、国内から世界にまで拡大し、一部の過激派が本来の目的から逸脱した略奪放火などの犯罪行為を行い、問題化した。コロナ感染による死亡率が白人や富裕層と比べて有色人種や貧困層で格段に高く、その事実がメディアで明らかになったことも原因と考えられている（向井, 2020）。

コロナ後の世界において、中国は孤立する危険性があるともいわれている。トランプ大統領は11月の次期大統領選で再選を狙う目的もあり、コロナによるパンデミックから経済不振に至る国内の問題に対して中国に責任をとらせようとする動きがみられる。ドイツのメルケル首相は、4月20日、「中国が新型ウイルスに関する情報を早く開示していれば、このような結果にならなかった」と批判し、イギリスやフランス、オーストリアを含む国々が中国に対して賠償責任を求める動きをはじめている（野口, 2020）。

このように、世界に大きな打撃を与えた新型コロナウイルスは、人々の暮らしや心、経済だけでなく、国家間の関係に悪影響を与えており、米中の対立にあたっては「新冷戦」とも呼ばれる局面を迎えている（パウエル, 2020）。

3. 研究課題

コロナの感染が拡大する前、著者がレポートで選んでいたテーマは「茶道が与える若者への影響」であった。そのため、現在所属する三重大学の茶道部（裏千家）に所属し、稽古に参加する毎日であったのだが、2020年に入ってから部活動も禁止され、部員と会うこともできなくなった。そこで、テーマを変更することに決め、「新型コロナウイルスと茶道」に関係した内容とした。前述してきたように、コロナは人の暮らしや社会のあり方を大きく変え、国際情勢にまで影響を与えている重要な出来事だからである。

研究1では、コロナ禍が茶道をしている若者にどのような影響を与えているのか、そして今後の茶道についてどのような考えを持っているのか、等について調べた。

研究2では、コロナ後の茶道について考えるため、茶道に対する理解が深く、経験も長

い方々を対象に、学生とは異なる観点から「コロナが茶道にもたらした影響、そしてコロナを経て茶道が変わるべき方向性」等について意見を伺った。

4. 研究方法（研究1）

新型コロナウイルス感染症が、茶道を稽古している人々にどのような影響を与えているのかを明らかにするため、アンケート調査を行った。調査対象者は、三重大大学の茶道部員らであった。アンケートは Google フォームで作成し、2020年7月7日から13日の間に上記の対象者16名にメールにて送付し実施した。

5. アンケート調査結果

5.1. 参加者

アンケートを上記の対象者に送付した結果、協力を依頼した全員の16名から回答が得られた。参加者全員が日本国籍の女子学部生であり、平均年齢は20.7歳であった。所属は人文学部が12名、教育学部が3名、生物資源学部が1名であった。茶道を始めてから3年未満が7名で一番多く、ついで2年未満が4名、1年未満が3名であった。3年以上と答えた学生は2名おり、一人は4年で、もう一人は最長の8年であった。大半の14名が裏千家、2名は表千家であった。

5.2. 茶道部に入部した理由（自由記述）

一番多かったのは、「抹茶や和菓子が好きだから」（4名）であり、若い女子学生らしい回答であった。その他、「日本の伝統文化だから学んでみたかったから」が2名、「作法を学び、姿勢や居住まいを綺麗にしたかったから」、という具体的な理由も見られた。

5.3. 茶道がもたらした良い影響

「茶道を習ったことで、あなたに良い影響はありましたか？」という質問に対して、16名全員が、「はい（良い影響があった）」と回答した。「その良い影響とは何ですか？」という質問に対しては、「礼儀が身につく、姿勢に気を付けるようになった、お辞儀を丁寧にするようになった」のような礼儀や姿勢に関する良い影響が最多の8名であり、ついで「心が落ち着けるようになった」や「集中力が以前よりも増した」「おもてなしの心を学んだ」のような心理面での影響をあげた回答者が5名いた。その他、「あたらしい友達ができたとの回答（1名）もあった。

5.4. 自分にとっての茶道（自由記述）

「あなたにとって茶道とは何ですか？」との質問に対しては、「教養の場、礼儀を学び成長させてくれるもの」と答えた学生が最多の7名、「コミュニケーションや憩

いの場」が 5 名，その他「生活の一部」「日本文化・精神に触れるツール」「趣味」という回答も見られた。

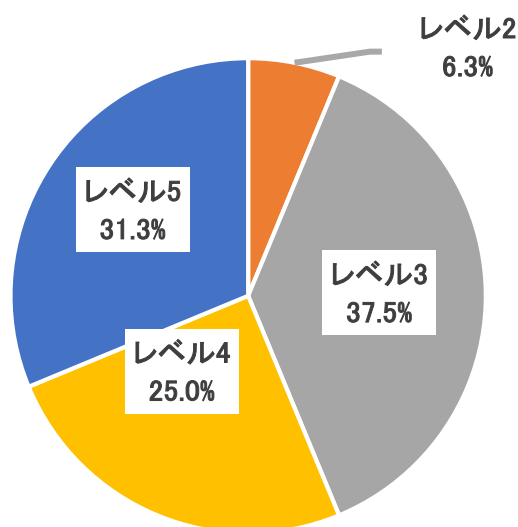
5.5. コロナがもたらした日常生活への影響（自由記述）

「コロナ禍の影響で，あなたの日常生活はどのように変わりましたか？」という質問に対して，「外出が極端に減った」が最多の 9 名であり，「友人と会えない日々が続いて苦しくなった」と心理面でのストレスを記述した学生が 5 名いた。

5.6. 茶道部の活動ができなくなった事からのストレス

「コロナ禍で茶道部の活動ができなくなりました。そのことでどれほどストレスがたまりましたか？」の質問について，参加者は 1（全くストレスがたまらなかった）から 5（大変ストレスがたまった）のリッカート尺度で回答した。最多の回答は 6 名（38%）のレベル 3（まあまあ）で，次いで多いのは最もストレス度が高いレベル 5（5 名，31%），レベル 4 は 4 名（25%）であった。レベル 1 の「全くストレスがたまらなかった」と回答した参加者は皆無であった（Figure1.参照）。

Figure 1. 茶道ができない事に対するストレスのレベル



5.7. コロナ後の社会において：茶道の重要性について

「コロナ後の社会にとって，茶道は重要な文化だと思いますか？」の質問について，参加者は 1（全くそう思わない）から 5（大変そう思う）のリッカート尺度で回答した。

Figure2. コロナ後の茶道の重要性

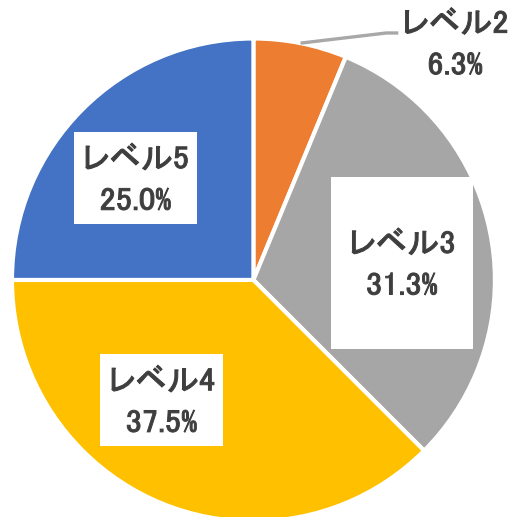


Figure 2 が示すとおり、最多はレベル 4（38%）であり、コロナ後の社会にとって、茶道を（大変）重要な文化だと考えている茶道部員は、半数以上の 10 名(63%)であった。「まあまあ」（回答 3）を選んだ部員は 3 名（31%）であった。

「上記の回答について、どうしてそのように思うのですか？」の質問に対する自由記述では、「日本の伝統文化はどんなことがあっても守り、後に世代に引き継いでいくべきであると思うから」のような回答が最多の 5 名で、「対面でのコミュニケーションの重要性を認識させられたから」と答えた回答者は 4 名であった。その他、礼儀や姿勢について言及した答えは 4 名、心理面での有効性（落ち着く）と答えた部員は 2 名であった。

5.8. コロナ後の社会において：茶道の変容

最後に、「もっと多くの人々に茶道を学ぶようにするためには、どうしたらいいと思いますか？」の質問に対し、回答者らは自由記述で回答した。最多である 6 名は「気軽に皆が楽しめるようなイメージを持ってもらうことが大切」のような内容を記述した。

「正座をしなくてもいい、今の生活になじむような様式にする」（2 名）「もっと身近な場所で開催」（2 名）「稽古に必要な道具が簡単に揃えられるようにする」（1 名）との回答が見られた。「YouTube などの SNS を用いて茶道の良さを発信していくべきだと思う」と広報面での努力を解決策としてあげた部員らも 3 名いた。「目を引くような茶碗などの茶器を使用する」と道具についての提案も見られた（2 名）。

6. 研究結果のまとめ（研究 1）

アンケート調査の結果から見ると、回答者全員が「茶道を学んでいい影響を受けている」と答えた。たとえ茶道部へ入部した動機が「抹茶や和菓子」であっても、彼女らは「礼儀が身につく、姿勢に気を付ける」ようになり、「おもてなしの心」を学び、「集中力」や「心の落ち着き」など心理的にも良い影響を受けていることが報告された。コロナ禍の影響で、「外出が減り」「友達と会えないストレス」をかかえており、茶道部の活動ができないことに対しても、半数以上がストレスを感じていることがわかった。

茶道は、皆で集まって茶を点て、会話を楽しめるものであることから、リラックスできる時間である。しかし、コロナの影響を受けて外出が減り、茶道での交流もできずストレスがたまっている人が少なくなかったことがわかった。

コロナ後の社会における茶道文化の重要性については、約 63%の回答者が「（大変）重要である」と答えており、「日本の伝統文化であるから」が最多の理由であった。人との交流ができないコロナ禍の影響もあり、「対面でのコミュニケーションの重要性」と答えた部員も多く、「落ち着くから」と心理面での重要性についての答えも見られた。

「もっと多くの人々に茶道を学ぶようにするためには、どうしたらいいと思いますか？」の質問に対して、茶道部に所属する女子学生らの提案は、「気軽に皆が楽しめるようなイメージ」に変化させることであり、「今の生活になじむように、身近な雰囲気の中で正座をしない」新しいスタイルであった。逆に言うと、茶道をたしなむ若者にとって、今の茶道のあり方が「気軽に楽しめないイメージ」であることがわかる。

それでは、大学の茶道部員よりも長く茶道にかかわり、茶道への造詣が深い方々は、コロナ禍の茶道について、またコロナ後の茶道についてどのような考えを持っているのだろうか。その疑問について調べるため、インタビューを実施することにした。

7. 研究方法（研究 2）

大学の茶道部員とは異なる観点から茶道について語れる 2 名の方々に依頼し、インタビューを実施した。

7.1. 松原早苗氏（津松菱美術画廊マネージャー）へのインタビュー

インタビュー実施日：2020 年 7 月 2 日

津松菱デパートは津市東丸之内に位置しており、1955 年に創業した津市唯一の百貨店である。6 階の美術画廊横には、江戸時代末期に京都で建てられた「松南軒」が移築されている。「松南軒」（写真 1）は、もともと津松菱創業家であり裏千家の老分（重要役職）でもあった谷政次郎の茶室であり、薩摩屋敷の裏に位置していたという。津松菱で

配布されている資料によると、薩摩屋敷に近いこともあり、裏千家十一代家元である玄々斎(1810-1877)のお点前で西郷隆盛(1828-1877)や富岡鉄斎(1837-1924)などの勤皇の志士らが客となってお茶を楽しむこともあったそうである。

写真 1.津松菱美術画廊茶室「松南軒」



伺った7月2日は、ちょうど松菱美術画廊で「近現代巨匠陶芸展」が開催されており、ソーシャル・ディスタンスをとりながら、画廊の松原早苗氏から作品の数々について説明を受けた。三重県出身の陶芸家で、実業家、政治家でもあった川喜田半泥子や北大路魯山人をはじめとする巨匠の手による茶器や書画までが沢山展示されていた。利休の時代の茶道具なども実際に拝見しながら、村田珠光が和物(国産品)を唐物(中国からの名品)と調和させて新しい美をつくることに関心があったこと、等について学ぶ機会を得ることができた。

その後、「松南軒」のにじり口から茶室の内部に入らせていただいた(写真2)。にじり口を茶室に初めて取り入れたのは利休だといわれている。戦後時代、茶室の中では全ての人を平等にするため、入口が低くなっている。身分が高い武将であっても刀を外して刀掛けに預け、にじり口では頭を下げて膝をつき、体を縮めたままでないと茶室には入ることができない。その事を、実際のにじり口から入ることで経験することができた。

写真 2. 「松南軒」 躰り口体験



お茶室では、抹茶とお菓子のもてなしをいただきながら茶道について松原氏からお話を伺った。松原氏は大学で芸術を専攻、茶道（裏千家）は結婚前に日本の文化や礼儀作法を学ぶために始められたとのこと。松原氏にとって茶道の魅力は、歴史的な背景と「所作を含めすべてにわたり合理的」なところであり、合理的であるから客を待たせることもなく、普段の生活にも役立つとのことである。

「新型コロナウイルス感染症で茶道文化はどのような影響を受けたと思いますか？」の質問に対して、松原氏は以下のように返答してくれた。「コロナの影響で、何十人もの人々が大広間で一緒にお茶を飲むような茶会を開くことは出来なくなりました。千利休の目指していた茶道は、大広場でお茶を飲むのではなく、わびた空間の中での少人数によるお茶です。当時利休さんは政治の中枢にあり、様々な密談があったわけですが、茶室は狭い空間で刀を持って入れませんので、皆が対等に話をする事が出来ました。利休さんは普段は騒がしい環境にいて、雑踏の中の静けさを求めています。「市中の庵（いおり）」としての茶室で、少人数の人々が静かな空間で過ごすような、利休さんの時代の茶道、本来の茶道の姿に立ち返る時代であるように感じます。それに、お濃茶のように3人から5人が回しながら飲む行事は無理ですので今後は変わると思います。もしかしたら自分と向き合うようになり、精神修養などのほかの楽しみ方になるかもしれません。茶道の中で、無駄なものを切り捨て、今の社会に合うように変化するかもしれません。ただし、人と話すことではじめて創造され、発展できるものはあると思います」とのことであった。

7.2. 新田貴士教授（三重大学教授・武者小路千家師範）へのZoomによるインタビュー インタビュー実施日：2020年7月3日

新田教授は三重大学教育学部の教授（数学教育）であるが、武者小路千家流の師範でもある。教授の母親もお茶の先生であり、生まれた故郷にあった武者小路千家の稽古場で茶道を学ばれたとのこと。

新田先生によると、新型コロナウイルス感染症と茶道精神である「和敬清寂」は関係しているという。武士の時代、茶室の中に刀を持ち入れない「和」の精神が尊ばれたが、現在はコロナの関係で会えなくても情報伝達やコミュニケーション（和）が容易にできる。「敬」の意味でいえば、現在教育で実施されているオンライン上の授業や試験は、教員と学生間の信頼関係（敬）がなければ成り立たない。「清」は、今の感染症対策とまったく同じものである。茶道のお点前では何度もお茶道具を拭くのだが、日本人の清潔感には、他の人が使ったものは不潔であるという感覚があるからである。それは、日本はもともと多民族国家で、他の民族が入って来るたびに新しい病気が入ってきた、という歴史があるからだ。ゆえに、日本人は根本的に清潔感が強く、茶道精神の「清」の部分が感染症対策に通じるのである。「寂」はコロナにより大学や学校だけではなく、様々な場所が静かになったから、と話された。

また、新田教授にとって「茶道の魅力」とは、飲むだけでなく「飲んだものを洗って片付ける一連までが茶道であること」であり、海外と違い教室を学生らが自ら掃除するように、日本独特の文化であるという。

「コロナが茶道に与えた影響と今後の茶道について」の質問には、以下のような回答をされた。「茶道は、昔は武士、男性のものであったが、明治以降は女性もするようになり、爆発的に茶道を学ぶ人達が多くなった。もともと茶道で武士は正座をしなかったし、情報伝達のために少人数で茶道をしていた。現代では畳の生活もだんだん少なくなっていて、コロナで学校や町の中も静かになった。茶道は賑やかな茶会のようなものではなく、本来の茶道へと帰って行くと思う」とのこと。さらに、新田教授によると、茶道は形ではなく、茶道の文化は時代に合うように変化していくものであるという。例えば、「もともと茶道は濃茶だけで、後に薄茶ができ、今はスターバックスでも抹茶オーレなどがある。スターバックスは清潔でシンプル、無駄がないところが茶室と非常に似ていて、現代の茶室とも考えられる。そのような環境でお茶を飲んで楽しむことができるということは、これも新しい茶道の形であり、その文化が広がっている。また、武士の時代、静かな茶室は情報伝達の間でもあった。現在、スターバックスでは、人々は携帯からメールを送りながら静かにコーヒーや抹茶オーレを楽しむことができる。このように、茶道

は時代に合う文化として常に変化しており、無駄なものを切り捨てながら世界に広がっているのだと思う。スターバックスもそうだが、世界のトップは茶道の特性と大切さに気づいているのだろう。」

8. インタビュー結果のまとめと考察

津松菱美術画廊の松原氏と、武者小路千家の師範として茶道も教えている本学教育学部の新田教授からコロナ禍の茶道、そしてコロナ後の茶道のあり方や変容についてお聞きした。性別と流派、職業も異なるお二人であるが、興味深いことに話された内容には大きな共通点があった。それは、「大勢の客を広間で招いてもてなすような大茶会から、茶の湯が大成された利休の時代の茶道に戻っていくのでは」、という予測であった。それは、外部からの喧騒からはなれた「市中の庵（いおり）」であり、無駄なものを取り去ることで「寂」（静けさ）をとり戻した空間と時間のようなものであると理解した。

また、新田教授による、コロナ感染症と茶道精神の「和敬清寂」には共通点があるという考え方は、コロナ後の社会に茶道文化が自然なかたちで溶け込んでいくことを予測しているのかもしれない。また、新田教授は、茶道は時代に合わせて変化するものであり、スターバックスは現代の茶室のようなものであるとも話された。研究1で回答者の茶道部員らが提案した「正座をしなくてもよく、皆が気軽に楽しめるような茶道」とは、極端なレベルで言えばスターバックスですでに実現されているのかもしれない。少なくとも、コロナ後の茶道は、利休の時代にはなかったと思われる正座や豪華なしかけのような無駄を排除し、人々が静かな空間で、気軽に心穏やかに過せるようなものになる（戻っていく）のではないか。そのことを、茶道部員へのアンケートとお二人のインタビューから感じることができた。

9. さいごに

「和敬清寂」の「和」は、裏千家の千玄室（15代宗室）の言葉を借りれば、「平和、調和」を示しており、「敬」は、「人間はお互いに差別や区別があってはいけない、お互いに敬いあう」ことを意味し、「清」は「清らかな気持ちを持つこと、自分を清らかにすること」、「寂」は一服のお茶によって自分が「落ち着いた気持ち、動じない心」を持つことを示している（千玄室, 2014）。

上記の「和敬清寂」の解釈は、コロナ禍にある今の世界がかかえている問題と関係しているような気がする。例えば、米中に代表されるような国家間の争いは「和」に反しており、日本における感染者や医療者に対する差別発言、そして人種差別は「敬」のな

い行為である。そして、まだ感染拡大が続くコロナ禍の社会では衛生面だけでなく「清しく、凜とした心」を保つことは大切で、それによって自粛生活や経済の落ち込みにより乱れた心を落ち着かせる「寂」にもつながるのではないだろうか。

コロナ禍で先行きが見えない混乱した社会にこそ、相手を敬い、今という一瞬に集中し、人や花、茶器との出会い（一期一会）に心を尽くし、何事にも動じない心を持つことが大切なのである。そして、茶道の「お先にどうぞ」という心は、コロナ後の社会で鍵になると考えられている「利己主義から利他主義の精神へ方向転換」と関係しているような気がする。他人のために尽くすことが、めぐりめぐって結局は自らの利益になる（アタリ, 2020）のである。

「和敬清寂」や「一期一会」のような精神を持つ日本の茶道文化や美意識が、正座などを排除したかたちでコロナ後の世界に拡がって人々の心を癒す日がくることを希望してやまない。

謝辞

調査に協力してくださった本学茶道部の皆様、松菱美術画廊の松原早苗様と本学教育学部の新田貴士教授に厚く御礼を申し上げます。特に新田先生は、毎週朝早い時間に茶道を教えて下さり、とても勉強になりました。

参考文献

アタリ, ジャック (2020) 「「命の経済」に転換へ国際社会は総力を」『東京新聞ホームページ』2020年8月11日アクセス

<<https://www.tokyonp.co.jp/article/44841>>.

裏千家 (2020) 「初めてのお茶」『裏千家ホームページ』2020年8月11日アクセス

<<http://www.urasenke.or.jp/textb/beginer/index.html>>.

裏千家 (2020) 「新型コロナウイルス感染症に伴う行事開催について」『裏千家ホームページ』2020年8月11日アクセス

<<http://www.urasenke.or.jp/temp01/notice004.html>>.

NHK (2020) 「世界の感染者数」『NHK ホームページ』2020年8月11日アクセス

<<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/world-data/>>.

表千家 (2005年) 「利休と信長, 秀吉」『表千家ホームページ』2020年8月11日アクセス

<<http://www.omotesenke.jp/list3/list3-1/list3-1-2/>>.

千玄室 (2014) 『茶の心を世界へ平和への祈り』株式会社 PHP 研究所.

経済産業省（2020）「新型コロナウイルスの影響を最も受けた「生活娯楽関連サービス」とは」『経済産業省ホームページ』 2020年8月11日アクセス
<https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto_kako/20200728hitokoto.html>.

千玄室（2014）『茶の心を世界へ平和への祈り』株式会社 PHP 研究所.

千宗守（2010）「お茶と日本人の心」『畑田家住宅活用保存会出版シリーズ No.8』
2020年8月11日アクセス <<http://culture-h.jp/hatadake-katsuyo/Cha-to-Kokorobun50.pdf>>.

総務省統計局（2017）「2016年社会生活基本調査」『総務省統計局ホームページ』
2020年8月11日アクセス<<https://todo-ran.com/t/kiji/22379>>.

大辞林第三版（2006）「わびとは？」『大辞林第三版ホームページ』2020年8月13
日アクセス<<https://www.weblio.jp/content/侘び?dictCode=SSDJJ>>.

谷端昭夫（2010）『日本史のなかの茶道』株式会社淡交社.

高橋忠彦（2013）『茶経・喫茶養生記・茶録・茶具図賛』株式会社淡交社.

立花大亀（2012）『利休の茶を問う』株式会社世界文化社.

永山悦子（2020）「恐怖の亡霊」『毎日新聞』2020年8月11日アクセス
<<https://mainichi.jp/articles/20200427/dde/012/070/012000c>>.

日本大百科全書（1994）「わびとは？」『日本大百科全書ホームページ』2020年8月
13日アクセス<<https://kotobank.jp/word/わび-154286>>.

布目潮颯（1995）『中国喫茶文化史』岩波現代文庫.

布目潮颯（2001）『茶経詳解』株式会社淡交社.

野口悠紀雄（2020）「日本が選択すべき「孤立する中国」への態度」『東洋経済ホーム
ページ』2020年8月11日 アクセス<<https://toyokeizai.net/articles/-/350263>>.

パウエル, ビル（2020）「限界超えた米中「新冷戦」 コロナ後の和解は考えられな
い」『Newsweek ホームページ』2020年8月11日アクセス
<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2020/06/post-93666_1.php>.

早川光（2012）『私は利休』集英社.

林屋晴三（2011）『名碗を観る』株式会社世界文化社.

阪急文化財団（2020）「わびとサビとはどう違う？」『阪急文化財団ホームページ』
2020年8月13日アクセス<<http://www.hankyu-bunka.or.jp/itsuo-museum/exhibition/2402/>>.

彦根城博物館（2015）「「シリーズ 直弼のころ」一期一会の世界大名茶人 井伊直弼のすべて」『彦根城博物館ホームページ』2020年8月13日 アクセス

<http://hikone-castle-museum.jp/exhibition_old/3017.html>.

ファンケル（2020）「「緊急事態宣言期間中の健康管理とテレワーク業務」に関する意識調査」『株式会社ファンケルホームページ』2020年8月13日アクセス

<<https://prt看imes.jp/main/html/rd/p/000000600.000017666.html>>.

古田紹欽（2000）『栄西 喫茶養生記』古田紹欽全訳註 講談社学術文庫.

武者小路千家(2020) 事務局からの「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」に伴うお知らせ」『武者小路千家ホームページ』2020年8月13日アクセス

<<https://www.mushakouji-senke.or.jp/news/?id=1488207378-341407>>

向井麻里（2020）「BLM はなぜイギリスで「自分ごと」になったのか」『NHK ホームページ』2020年8月11日アクセス

<<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200713/k10012511971000.html>>

森下典子（2002）『日日是好日ー「お茶」が教えてくれた15のしあわせ』株式会社飛鳥新社.

矢部良明（2014）『エピソードで綴る戦国武将茶の湯物語』群宮帯出版社.

<要約>

从中国传入日本的茶叶在战乱时代作为武士精神修炼，逐渐发展成茶道，日后被作为日本独特的文化艺术，发展并传承至今。但是，近年来，茶人减少，加上2020年新型冠状病毒疫情的扩大，茶道文化受到了很大的打击。因此，本研究探讨了“新型冠状病毒疫情对茶道的影响和将来茶道应有的形态”。研究1中，对三重大学茶道部的学生们进行了问卷调查，收集了他们对茶道的影响和新型冠状病毒疫情后茶道的意见。年轻的他们总结出了以下意见：为了让茶道在新型冠状病毒疫情之后继续延续下去，“应该去掉像跪坐那样的东西，改为更加贴近现代生活的形式”。在研究2中，对茶道经验长，茶道理解深的二位进行了采访。他们的想法有一个共同点，那就是今后的茶道“将从大茶会那样的豪华接待，回归到茶道大成的千利休时代的茶道”。本稿将从问卷调查的回答结果和采访内容，以及茶道资料中考察今后茶道的作用和發展可能性。

環境問題における日本とカンボジアの相違点

—人々の意識と知識—

スルン・リダヴィッド

Difference of environmental issues between Japan and Cambodia:

People's Awareness and Knowledge

LYDAVID, Srun

<要旨>

環境問題が地球にとっても大きな問題をもたらすことは明らかである。現在、この世界では、技術が発展すると共に、環境問題が発生し続け、その環境問題は解決できないほどの大きな問題になっている。その中でも地球温暖化、汚染という環境問題は世界問題のランキングの中で上位になっている。それを解決するために、多くの先進国では様々な対策が作成された。例として、日本にはゴミを分別するというシステムが作成され、環境の保護のための一つの役割を果たす。それに対し、途上国のカンボジアは、ゴミの種類によってゴミ箱を分けるなどの対策をしても、ゴミを分別して捨てる人は比較的少ない。本レポートは先進国の日本と途上国のカンボジアを対象にし、両国がどんな環境問題に直面しているか、その問題に対してどんな対策を使っているか、そして、両国の人がどの程度環境問題についての意識や知識があるかを調査する。

キーワード： 環境保護、廃棄物管理問題、意識、知識

1. はじめに

一般的に、どの国でも、環境問題に直面している。しかし、どのような環境問題があるか、どのような対策があるかは、国によって異なる。本レポートでは、環境問題について、先進国と途上国の相違点を明らかにする。特に、環境問題の解決に必要な技術と市民が環境保護に対して持っている意識や知識レベルとの二つの要素について、その違いを調査した。また、全ての環境問題を挙げることは困難であるので、本レポートでは特に、いくつかの重大な環境問題だけを例に挙げる。具体的には、先進国の一つとして日本を、そして途上国の一つと

してカンボジアを取り上げ、両国の人がそれぞれの国の重大な環境問題に対し、どのぐらい意識や知識を持っているか調べるために、日本在住の日本人とカンボジア在住のカンボジア人を対象にアンケートを実施しその結果を報告する。

2. 環境問題の解決に必要な技術

環境問題は、すべての国が直面している最大の問題の1つである。また、世界中のすべての国がその問題に対処するのに苦勞している。さらに、各国は一つの環境問題だけを直面しているのではなく、数え切れないほど多くの問題を扱っている。そして、各国が直面している問題の全てが完全に同じ問題であるわけではない。例えば、先進国である日本と途上国であるカンボジアは、異なる種類の環境問題に直面している場合もある。そのため、その問題の対処法も異なっている。

2.1. 日本とカンボジアが直面している環境問題

2.1.1. 日本

日本は衛生環境が整備された国とされているが、環境に関しての問題が全くないわけではない。数ある問題の中でも、Smith (2018)は、現在の日本は2つの主要な環境問題に直面していると主張している。それは廃棄物管理問題と2011年の福島第一原子力発電所事故の余波の汚染である。

廃棄物管理問題については、現在、社会の現代化が進むと共に、ゴミ量も増加している。小さな島国である日本は全てのゴミを配置できるスペースが十分ではない。ある報告によると、2016年には43百万トンぐらいのゴミが発生したと言われている。しかし、日本全国の廃棄場は1661しかなく、99.963百万立方メートルのスペースしかない。ゴミ量の増加が今のペースで進むと、20.5年後にはこのスペースが埋め尽くされるはずである (Nippon.com 2018)。そのため、環境省は対策を作成しなければならない。

Smith が主張する日本の二番目の主要な環境問題は2011年の福島の原発事故後の放射線問題である。その事故は世界の歴史の中でも非常に重要な原発事故の一つである。2011年3月11日に、マグニチュード9.0の地震が起き、続いて大津波が日本の東北地域を襲った。ある記事によると、襲われた所の中に福島のTEPCO's 福島第一という原子力発電所があり、高さ15メートルの津波に襲われ、6原子炉のうちの3原子炉の冷却システムが故障し、核溶解の要因になった。その結果、放射性物質が周囲30kmに放出され、重要な水質汚染と大気汚染の原因になったと言われている (Sarkisian 2017; The Sasakawa Peace Foundation 2012, p.9)。

2.1.2. カンボジア

Moll (2017) は、カンボジアの環境問題は天然資源の誤った管理と都市部の公衆衛生問題という二つの重要な要素に分類されると主張している。天然資源の誤った管理の中では森林伐採が最も大きな問題になり、それが大気汚染の要因であると考えられている。以下では、環境金融研究機構 (RIEF) による報告 (2017) に基づき、カンボジアの現状を概観する。RIEFによると、2001年から2015年にかけて、14年間の間でカンボジアの森林は144万ヘクタール消失したとなっている。それは東京の3分の2の面積と同じである。このデータは米航空宇宙局 (NASA) の衛星から撮られたイメージに基づく。かつて、カンボジアは森林資源の豊かな国として知られていたが、ゴムの値段が高くなり、熱帯雨林がゴム植林地に変換され、森林伐採の原因になった。2015年の森林伐採率は14.4%であり、この割合は2001年の約10倍である。その割合は他国と比較してより高いものである。例として、シエラレオネの年間の森林伐採率は12.6%、マダガスカル8.3%、ウルグアイ8.1%、パラグアイ7.7%で、カンボジアの森林状態はこれらよりも高く、危険なレベルであると言える。そして、2001年から2015年の14年間で144万ヘクタールの森林が伐採されたため、5億3300万トンの二酸化炭素 (CO₂) が排出される原因になり、その量をカナダに比べると、一年のエネルギー消費からの排出した二酸化炭素量に等しいものである。以上の情報に鑑みると、カンボジアは重大な大気の問題に直面していることは明らかである。

カンボジアのもう一つの環境問題は都市部での公衆衛生問題である。その主な要因は都市部での公衆衛生問題である。カンボジアでは、都市部の人口が増加しているため、廃棄物量が急増しつつある。Bual (2018) によると、首都のプノンペンだけで一日に3000トンのゴミが発生し、2017年の全国の一年の廃棄物の発生量は365万トンにもなったと言われている。それを一日の発生量にすると一万トンにもなる。同じレポートによると、11%の廃棄物だけが再生利用され、41%の廃棄物は廃棄場に配置され、残りの48%は燃やされるか、水域に捨てられている。それは大気汚染と水質汚染をもたらすだけでなく、新しい病気の原因にもなっている (Bual 2018)。

2.2. 問題の対策

2.2.1. 日本

日本の政府は、廃棄物管理問題について、1940年代から3R活動をしていると共に、色々な廃棄物管理についての法制度を作成している。3RはReduce (低減)、Reuse (再利用)、Recycle (再生利用) の三つの略語である。言い換えるならば、3R活動は不必要なゴミなどを減らし、再利用可能な物を再利用し、プラスチックの使用を減らし、ゴミを新しい物に再生利用し、廃棄物の量を減らす活動である (環境省)。3R活動は日本の全国でどこでも実

地されており、大学、高校、中学校、小学校でもこの活動に取り組むように促されている。例えば、2007年から三重大学では全学で3R活動が行われている。三重大学には環境ISO学生委員会というグループがあり、色々な活動が行われている。低減活動（Reduce）としてはプラスチックバッグを減らすため、2007年の12月から環境ISO学生委員会がレジ袋削減という活動を行い、三重大学オリジナルエコバッグを作成し、全学生と教職員に配布している。この活動で、三重大学で3年間で使用されたレジ袋は20万枚から2900枚になり、98.5%削減された。また再利用活動（Reuse）として、毎年、環境ISO学生委員会が学内に放置された自転車や要らなくなった家電を回収し、再利用可能な物を選択し、修理し、新入生に無料で配布しているという活動がある。また、再生利用活動（Recycle）としては2007年から三重大学がチラシや新聞紙等の古紙を回収し、三重大学のオリジナルトイレットペーパーに還元している。この活動で、2008年に三重大学は「3R活動を促進する環境大臣賞」を受賞した。また、3Rの再生利用（Recycle）活動が効果的に機能することを目指し、1970年代の下旬に日本の政府はゴミの分別規則を作成し、全国の市民が従わなければならないようになった。しかし、3R活動は環境の保護に大きな役割を果たしている一方で、依然として多くの問題が潜んでおり、政府はそれに対する対策をさらに検討しなければならない。

福島原発事故による放射線問題に対処するため、日本の環境省は様々な対策を組み立てている。そのうち、汚染された土を使って道路を作るという計画がある。Kyodo (2018) には、「The Environment Ministry plans to use radiation-tainted soil to build roads in Fukushima Prefecture.」という記事が掲載されている。その計画は放射性がある土壌を回収し、その土壌を使って道路を作るという計画である。同じレポートでは今まで福島にある2200万立方の汚染土が回収され、ビニール袋に入れ、福島にある一時保管の場所に置いていると報告されている。その計画には、環境省は回収した汚染土壌を道路の下に深さ50センチに埋め、放射線を遮断するためにきれいな土で覆い、それから、アスファルトで舗装する。しかし、政府は計画が安全だと主張しても、まだ多くの市民が抗議しているので、その計画を進めることが困難である。

2.2.2. カンボジア

カンボジアでは森林伐採の問題を防止するため、政府が様々な対策をしている。RIEF (2017) は「カンボジア政府は、森林伐採で残された半月状地帯の森林保護を2016年に公式に始めている。同時に、新たな自然国立公園の指定も行われ始めた。」と報告している。しかし、ゴムと森林の需要が上がり、同国の森林伐採に対する規制がまだ厳しくないため、このような対策が行われても、残っている森林を保護できるかどうか不明である。

廃棄物管理の問題については、現在まで、また主な対策が組み立てられていない。しかし、2016年から色々なリサイクル工場の構築計画が始まっている。Cleangreencambodia という団体の報告によると、2016年に Gomi Recycle 110 という日本の会社がプラスチックのリサイクル工場を組み立てる計画を発表し、2019年の4月に開くと報告されている。また、シェムリアップ州では GAEA (Global Action for Environment Awareness) 会社と Naga Earth 会社が協力し、2019年の7月からビンを回収し、再生利用している。さらに、多くの若者のグループが環境保護を活躍している。例えば、2019年に様々な若者が集合し、ブンコックという運河の清掃活動を始めている。その結果、Long (2019) は12日間だけで、40トンの廃棄物が集められたと報告している。この活動は運河にある廃棄物を減らし、水質汚染の問題の解決のために役割を果たすだけでなく、市民がゴミを適正に処理する意識を高めている。

以上の民間の活動以外にも、現在カンボジア政府は海外からの支援を受け、3R活動も実行している。OpenDevelopmentCambodia (2018) によると、今まで、カンボジアでは二つの3R活動が実行されていた。一つ目の活動は穀物から電気を発生させる「廃棄物からエネルギーへ」というプロジェクトであった。このプロジェクトはカンボジアの米産業の環境を清潔にし、他の国と比べての競争力を上げることが目指し、2012年から2015年にかけて、EU、SWITCH-Asia、SNV Cambodia という団体によって資金を提供され、カンボジアの九つの州において実行された。もう一つの活動は市民の意識を環境保護に向けさせてプラスチック廃棄物の処理の効果を上げるため、カンボジアユネスコ、環境省、観光省とカンボジアの青年連合が協力して2016年に行った「カンボジアのプラスチック袋キャンペーン」である。このキャンペーンは市民の意識を高めるだけでなく、カンボジア社会の行動の変化にも影響があった (OpenDevelopmentCambodia 2018)。

以上、日本とカンボジアの、環境問題への対策を確認した。これらの対策が効果を発揮するには、人々の環境問題への知識と意識が必要である。なぜなら、人々の知識が不足していれば、現在環境問題が深刻であることが分からないため環境を守るために行動することはないのであろうし、また人々の意識が不足していれば、環境問題について知ろうともせず、また環境を守るための対策に従わない人が多くいると考えられるからである。前段で、カンボジアの若者による運河の清掃活動の例などを挙げたが、現実の社会ではこうした意識の高い人々ばかりとは限らない。そこで、本研究では、日本とカンボジアの人々の、環境問題に対する知識と意識を調査した。

3. 調査：市民が環境保護に対して持っている意識と知識レベル

3.1. 調査を行う目的

環境問題が起こる主な原因は人間の行動である。人間は自分がこの世界に存在するため、環境の資源の間違った使い方をし続けてきた。結果として、環境の状態がだんだん悪くなり、色々な問題が起こっている。その問題の対処も人間の責任である。したがって、市民が環境保護に対して持っている意識と知識レベルは国の環境問題の解決のための一つの重要な要素である。そのレベルが高ければ、国の環境保護対策が有効になる。他方では、そのレベルが低くなると、環境省がどんな対策を出しても、その対策に従わない人が多いため、効果があまりない。そこで、本研究では、人がどの程度環境のことを考えているかまた知っているかについての情報を得ることを目的として調査を行った。

前述の通り、それぞれの国が直面する環境問題は国によって違い、また環境問題に対する市民の意識や知識レベルも国によって違う。例えば先進国と途上国の間には、環境問題の種類や市民の知識、意識のレベルが違うと考えられる。この調査では、特に先進国の一つとして日本を、途上国の一つとしてカンボジアを取り上げ、両国の市民の意識と知識レベルを比較する。また、日本とカンボジアの両方が直面している廃棄物（ゴミ）問題を取り上げ、これに関する両国の意識と知識レベルを比較する。

3.2. 調査の方法と調査協力者

市民の意識と知識レベルを調べるためには、直接市民にアンケート調査をするのが最も適切な方法であると考えた。この調査では年齢を問わず、80人（カンボジア人40名・日本人40名）を対象にアンケート調査を行った。さらに、このアンケート調査は日本に在住している日本人とカンボジアに在住しているカンボジア人にすることが必要である。なぜなら、その人は自分の国に在住していない場合は、自分が環境保護に対して持っている意識と知識レベルが高くても、自分の国の環境を保護していないからである。

アンケート調査は2020年05月13日から19日にかけて7日間で実施した。この調査は自分の国に住んでいる人を対象とするため、同時に日本人とカンボジア人にアンケート用紙を配ったり回収したりするのは不可能である。したがって、この調査は全て Google forms で行い、日本語と英語の2つの言語で作成し、日本人に日本語のアンケート調査、カンボジア人に英語のアンケート調査を配った。

3.3. 調査の内容

このアンケート調査では、日本人とカンボジア人の廃棄物（ゴミ）問題に対する意識と知識を調べるために、次のページに示すような質問をした。また、協力者の基本的な情報を得るために、年齢と性別、そして協力者が居住する地域も質問として出した。

<アンケート調査の質問>

1)今の世界で、あなたが特に重要だと思う問題を三つ選んでください。

- ア. 貧困
- イ. 飢餓
- ウ. 健康・福祉
- エ. 教育
- オ. ジェンダー間の平等
- カ. 水質・衛生
- キ. エネルギー問題
- ク. 働き方・経済成長
- ケ. 産業・技術革新・インフラ
- コ. 国内または国家間の不平等
- サ. 住みやすいまちづくり
- シ. 持続可能な消費と生産
- ス. 気候変動
- セ. 海洋資源
- ソ. 生態系・森林保全
- タ. 平和・公正
- チ. 世界の協力関係
- ツ. その他 (自由記述)

2)グレタ・トゥーンベリ (Greta Thunberg) を知っていますか。

- ア. 知っている
- イ. 聞いたことはあるがよく知らない
- ウ. 知らない

3)あなたはゴミを正しく分別していますか。

- ア. いつも分別している
- イ. だいたいいつも分別している
- ウ. どちらとも言えない
- エ. あまり分別していない
- オ. 全然分別していない

4)シャンプーや洗剤などを買うときに、詰め替えパックを買いますか。

- ア. いつも買う
- イ. 時々買う
- ウ. どちらとも言えない
- エ. あまり買わない
- オ. 全然買わない

5)あなたは買い物をする時、店でレジ袋をもらいますか。

- ア. いつももらう
- イ. 時々もらう
- ウ. どちらとも言えない
- エ. あまりもらわない
- オ. 全然もらわない

6)あなたは地域の清掃活動など、環境に関する活動に参加したことがありますか。

- ア. いつも参加している
- イ. 時々も参加している
- ウ. どちらとも言えない
- エ. あまり参加しない
- オ. 全然参加しない

7)SDGs (Sustainable Development Goals)が環境問題にも関係があると知っていましたか。

- ア. 知っていた
- イ. 知らなかった
- ウ. SDGsという言葉も知らなかった

8)環境に関する「3R」という言葉を知っていますか。

- ア. 知っている
- イ. 知らない

9)「3R」という言葉が表すものを全て下から選んでください。

- ア. Recycle
- イ. Remind
- ウ. Responsibility
- エ. Reduce
- オ. Recall
- カ. Reuse
- キ. Retire
- ク. Reprint
- ケ. Redo

10)あなたの国の現在の環境状態についてどう思っていますか。

- ア. とても汚い
- イ. まあまあ汚い
- ウ. どちらとも言えない
- エ. まあまあきれい
- オ. とてもきれい

11)あなたは全国の市民が環境保護の活動に参加しなければならぬと思っていますか。

- ア. とてもそう思う
- イ. そう思う
- ウ. どちらとも言えない
- エ. そう思わない
- オ. 全然そう思わない

12)環境問題を解決するのがもっとも難しい理由は何だと思いますか。

- ア. 人々の意識不足
- イ. 人々の知識不足
- ウ. 技術的な問題
- エ. その他 (自由記述)

質問 1、10、11 は、協力者の意識を問う質問である。質問 1 の選択肢は、SDGs の 17 項目を書いた。この選択肢の中で、「水質・衛生」と「持続可能な消費と生産」が、廃棄物（ゴミ）問題に関するものである。これらの選択肢を選んだ協力者は、廃棄物（ゴミ）問題への意識が高いということになる。その他の質問 10、11 は、協力者の環境問題への意識を直接的に質問したものである。

質問 3、4、5、6 は、協力者が実際に環境を守る活動に参加しているかどうかを確認する質問であり、これは協力者の意識の高さを調べた質問 1、10、11、12 をさらに発展させて調べたものである。この質問を設定したのは、実際に環境を守る活動に参加していなければ、その協力者の意識レベルは低いということになるからである。実際に環境を守る活動（行動）として、ここでは、ゴミを正しく分別する頻度（質問 3）、シャンプーや洗剤などの詰め替えパックを買う程度（質問 4）、レジ袋をもらう頻度（質問 5）、環境保護の活動に参加する程度（質問 6）の四つの要素を質問した。なぜなら、まず、質問 3 のゴミの分別制度は環境問題の重要な対策であり、この対策が効果的であるためには、全国の市民の行動が必要だからである。そして、質問 4 質問 5 に関しては、プラスチックは環境に悪い影響を与えているのは広く知られていることであり、環境汚染の一つの原因の大きな部分を占めているため、この質問を設定した。ここでは、買い物する時、詰め替えパックを買うことや店でレジ袋をもらわないことをプラスチック削減のための市民の行動として挙げた。また質問 6 では特に、地域の清掃活動を質問として出した。地域の清掃は環境保護に良い影響を与えており、子どもでも老人でも誰でも参加できる。これらの質問 3、4、5、6 では、協力者が環境を守るため、実際にその四つの活動をしているかをまとめて、協力者の環境保護に対する意識を明らかにすることができる。

質問 2、7、8、9 は、協力者の知識レベルを問う質問である。質問 2 は、グreta・トゥーンベリというスウェーデン人の若い環境活動家に関するものである。10 代の女性でありながら 2018 年に国連気候変動会議で演説しており、世界中で注目されている。現在、世界の環境保護の活動に大きな影響を与えているため、アンケート調査の協力者が環境問題についての知識があるなら、必ずグreta・トゥーンベリのことについて知っていると考えた。その他の質問 7、8、9 は、協力者の環境問題に関する知識レベルを直接的に質問したものである。質問 7 は現在世界中でその重要さが主張されている SDGs に関するものである。質問 8、9 は第 2 章で述べた 3R に関するものである。

アンケートの最後のまとめの質問として、質問 12 「環境問題を解決するのがもっとも難しい理由は何だと思いますか」と質問した。この質問の回答選択肢には意識と知識の両方の要素が含まれている。

なお、このアンケート調査の質問の種類が順番に並んでいない理由は協力者にアンケート調査の内容と目的をできる限り隠すためである。（特に質問 1、2 は、協力者がこのアンケートが環境問題に関するものだと知らずに回答することが期待される。）なぜなら、協力者が最初から調査の内容が環境問題に関するものであると分かっている場合は、自然で無意識の回答が得られない可能性があるからである。そうすると、調査の結果が不正確になる可能性もある。

4. 調査の結果

4.1 協力者の基本的な情報

以下の表 1～3 を見ると、日本人もカンボジア人も共通して、多くの協力者が 20 代の人であると分かる。また、日本人の協力者は 20 人が男性で 20 人が女性であり、カンボジア人の協力者は 17 人が男性で 23 人が女性である。さらに、日本人の協力者が住んでいる地域は様々である一方、カンボジア人の協力者はすべて首都プノンペン在住だった。

表 1 アンケート調査の協力者の年齢

	10代	20代	30代	40代	50代	60代
日本人	3人 (7.5%)	24人 (60%)	6人 (15%)	5人 (12.5%)	0人 (0%)	2人 (5%)
カンボジア人	5人 (12.5%)	35人 (87.5%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)

表 2 アンケート調査の協力者の性別

	男性	女性
日本人	20人 (50%)	20人 (50%)
カンボジア人	17人 (42.5%)	23人 (57.5%)

表 3 アンケート調査の協力者の居住地

日本人	三重県	13人 (32.5%)
	大阪府	3人 (7.5%)
	愛知県	3人 (7.5%)
	東京都	7人 (17.5%)
	神奈川県	3人 (7.5%)
	京都府	8人 (20%)
	埼玉県	2人 (5%)
	兵庫県	1人 (2.5%)
カンボジア人	プノンペン	40人 (100%)

4.2. 協力者の意識を問う質問の結果（質問 1、10、11）

この節では、日本人とカンボジア人の協力者が環境問題に対してどのような意識を持っているかを調べた質問 1、10、11 の結果を報告する。まず、質問 1「今の世界で、あなたが特に重要だと思う問題を三つ選んでください」の結果は表 4 のように表されている。協力者が様々な回答を選び、世界の問題に対して色々な意見を持っていることがわかるが、日本人は主に「教育」、「気候変動」、「貧困」と「平和・公正」が世界で最も重要な問題だと思っている。一方、カンボジアでは「気候変動」、「健康・福祉」と「平和・公正」が最も重要な問題と考えている。これを見ると、日本人もカンボジア人も「気候変動」項目を選んだ人が多いと分かるが、ここでは、廃棄物（ゴミ）問題に関することに注目し、「水質・衛生」と「持続可能な消費と生産」の二つの選択肢の両国の回答を比較する。「水質・衛生」を選んだ人は日本人が 4 人、カンボジア人が 8 人いる。「持続可能な消費と生産」を選んだ人は日本人が 10 人と、カンボジア人が 3 人しかいない。

表 4 質問 1「今の世界で、あなたが特に重要だと思う問題を三つ選んでください」の結果

	日本人	カンボジア人
貧困	14 人 (35%)	11 人 (27.5%)
飢餓	6 人 (15%)	11 人 (27.5%)
健康・福祉	6 人 (15%)	14 人 (35%)
教育	16 人 (40%)	10 人 (25%)
ジェンダー間の平等	7 人 (17.5%)	3 人 (7.5%)
水質・衛生	4 人 (10%)	8 人 (20%)
エネルギー問題	4 人 (10%)	6 人 (15%)
働き方・経済成長	6 人 (15%)	6 人 (15%)
産業・技術革新・インフラ	3 人 (7.5%)	3 人 (7.5%)
国内または国家間の不平等	1 人 (2.5%)	0 人 (0%)
住みやすいまちづくり	3 人 (7.5%)	3 人 (7.5%)
持続可能な消費と生産	10 人 (25%)	3 人 (7.5%)
気候変動	15 人 (37.5%)	18 人 (45%)
海洋資源	2 人 (5%)	2 人 (5%)
生態系・森林保全	8 人 (20%)	12 人 (30%)
平和・公正	14 人 (35%)	14 人 (35%)
世界の協力関係	13 人 (32.5%)	2 人 (5%)
その他	0 人 (0%)	1 人 (2.5%)

質問 10「あなたの国の現在の環境状態についてどう思っていますか」の結果を表 5 に示す。これを見ると、日本人の 40 人に 17 人が「まあまあきれい」と 2 人が「とてもきれい」を選んだ。しかし、1 人が「とても汚い」、12 人が「まあまあ汚い」と回答した。それ以外、日本人の 8 人は「どちらとも言えない」と回答した。日本人の回答は「きれい」

の方も「汚い」の方もあるが、「きれい」と回答した方が多い。一方、カンボジア人の40人中25人が「とても汚い」、7人が「まあまあ汚い」を選び、汚いという答えの方を選んだものが多い。また、「まあまあきれい」と「とてもきれい」を選んだ協力者はいなかった。その他に8人が「どちらとも言えない」を選んだが、大部分の人はカンボジアの環境は汚いと回答したと言える。

表5 質問10「あなたの国の現在の環境状態についてどう思っていますか」の結果

	とても汚い	まあまあ汚い	どちらとも言えない	まあまあきれい	とてもきれい
日本人	1人 (2.5%)	12人 (30%)	8人 (20%)	17人 (42.5%)	2人 (5%)
カンボジア人	25人 (62.5%)	7人 (17.5%)	8人 (20%)	0人 (0%)	0人 (0%)

質問11「あなたは全国の市民が環境保護の活動に参加しなければならないと思っていますか」の結果を表6に示す。この表を見ると、両国とも「とてもそう思う」と「そう思う」を選んだものが多い。日本人の中で「とてもそう思う」を選んだのは9人であり、「そう思う」を選んだのは14人であった。質問11に対する日本人の回答は、「そう思う」が最も多い。それ以外、5人が「そう思わない」、1人が「全然そう思わない」と回答した。

それに対して、カンボジア人は全員「そう思う」と回答した。そのうち「とてもそう思う」を選んだのは25人であり、「そう思う」を選んだのは15人であった。質問2に対するカンボジア人の回答は、「とてもそう思う」が最も多い。しかし、日本人の中に「どちらとも言えない」と回答した人が11人もいるので、環境状態の活動に参加しなければならないと考えている意識はカンボジア人の方が優れている。

表6 質問11「あなたは全国の市民が環境保護の活動に参加しなければならないと思っていますか」の結果

	とてもそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全然そう思わない
日本人	9人 (22.5%)	14人 (35%)	11人 (27.5%)	5人 (12.5%)	1人 (2.5%)
カンボジア人	25人 (62.5%)	15人 (37.5%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)

4.3. 協力者が実際に環境を守る活動に参加しているかどうかを確認する質問の結果（質問3、4、5、6）

この節では、日本人とカンボジア人の協力者が環境を守る活動に参加しているかを調べた質問3、4、5、6の結果を報告する。質問3「あなたはゴミを正しく分別していますか」の結果を表7に示す。表7を見ると、ゴミを全然分別していない日本人が1人、あまり分別していない日本人が2人いるが、17人は「いつも分別している」、またその他の19人は「だいたいいつも分別している」と回答した。「どちらとも言えない」と回答した人が1人いるが日本人のほとんどの人はゴミを分別している人が多いことが分かる。それに対して、カンボジア人は「あまり分別していない」と回答した人が8人と「全然分別していない」と回答した人は3人いる。そして、10人は「いつも分別している」、17人は「だいたいいつも分別している」である。

表7 質問3「あなたはゴミを正しく分別していますか」の結果

	いつも分別している	だいたいいつも分別している	どちらとも言えない	あまり分別していない	全然分別していない
日本人	17人 (42.5%)	19人 (47.5%)	1人 (2.5%)	2人 (5%)	1人 (2.5%)
カンボジア人	10人 (25%)	17人 (42.5%)	2人 (5%)	8人 (20%)	3人 (7.5%)

質問4「シャンプーや洗剤などを買うときに、詰め替えパックを買いますか」の結果を示した表8を見ると、日本人の40人に25人が「いつも買う」を、7人が「時々買う」を選んだ。それ以外に、2人が「あまり買わない」を、2人が「全然買わない」を選んだが、全体的に見て、大部分の日本人は詰め替えパックを買っていると回答した。一方、カンボジア人の40人中8人が「いつも買う」、10人が「時々買う」を選び、6人が「あまり買わない」、11人が「全然買わない」と回答しており、詰め替えパックを買う人も買わない人も同じくらいいるという結果になった。

表8 質問4「シャンプーや洗剤などを買うときに、詰め替えパックを買いますか」の結果

	いつも買う	時々買う	どちらとも言えない	あまり買わない	全然買わない
日本人	25人 (62.5%)	7人 (17.5%)	4人 (10%)	2人 (5%)	2人 (5%)
カンボジア人	8人 (20%)	10人 (25%)	5人 (12.5%)	6人 (15%)	11人 (27.5%)

質問5「あなたは買い物をする時、店でレジ袋をもらいますか」についての結果が表9に示されているように、日本人は、レジ袋を「もらう」と回答した人と「もらわない」と回答した人が両方いる。その内、「いつももらう」人が3人、「時々もらう」人が18人もいる。しかし、15人が「あまりもらわない」、3人が「全然もらわない」と回答したので、レジ袋を「もらう」人も「もらわない」人も両方同じくらいいると分かる。それに対して、カンボジア人の方は12人が「いつももらう」、16人が「時々もらう」と回答し、8人が「あまりもらわない」、3人が「全然もらわない」と回答したので、「もらう」人の方が多いと考えられる。それ以外に、日本人もカンボジア人も「どちらとも言えない」と回答した人が1人である。

表9 質問5「あなたは買い物をする時、店でレジ袋をもらいますか」の結果

	いつももらう	時々もらう	どちらとも言えない	あまりもらわない	全然もらわない
日本人	3人 (7.5%)	18人 (45%)	1人 (2.5%)	15人 (37.5%)	3人 (7.5%)
カンボジア人	12人 (30%)	16人 (40%)	1人 (2.5%)	8人 (20%)	3人 (7.5%)

質問6「あなたは地域の清掃活動など、環境に関する活動に参加したことがありますか」は協力者が環境に関する活動に参加したことがあるかを確認する質問である。質問6の結果を表10に示す。これを見ると、日本人は時々参加している人は9人で、いつも参加している人は1しかいない。それ以外、14人が「あまり参加しない」、14人が「全然参加しない」を選び、多くの日本人の協力者があまり環境に関する活動に参加しないことが明らかになった。反対に、カンボジア人の40人中4人が「いつも参加している」、24人が「時々参加している」を選び、多数の人が環境に関する活動に参加している。

表10 質問6「あなたは地域の清掃活動など、環境に関する活動に参加したことがありますか」の結果

	いつも参加している	時々参加している	どちらとも言えない	あまり参加しない	全然参加しない
日本人	1人 (2.5%)	9人 (22.5%)	2人 (5%)	14人 (35%)	14人 (35%)
カンボジア人	4人 (10%)	22人 (55%)	1人 (2.5%)	5人 (12.5%)	8人 (20%)

4.4. 協力者の知識レベルを問う質問の結果（質問2、7、8、9）

この節では、日本人とカンボジア人の協力者の環境問題に対する知識を調べた質問2、7、8、9の結果を報告する。質問2「グレタ・トゥーンベリ（Greta Thunberg）を知っていますか」の結果は表11に表されている。日本人は28人がグレタ・トゥーンベリという人を知っていると回答したが、12人が知らないと回答した。一方で、カンボジア人は22人も「知らない」と回答しており、8人しか「知っている」と回答しなかった。その他、10人のカンボジア人はグレタ・トゥーンベリという人のことを聞いたことはあるがよく知らないと回答した。

表11 質問2「グレタ・トゥーンベリ（Greta Thunberg）を知っていますか」の結果

	知っている	聞いたことはあるがよく知らない	知らない
日本人	28人 (70%)	0人 (%)	12人 (30%)
カンボジア人	8人 (20%)	10人 (25%)	22人 (55%)

質問7「SDGs（Sustainable Development Goals）が環境問題にも関係があると知っていましたか」の結果は表12のように表れている。日本人は29人がSDGs（Sustainable Development Goals）が環境問題にも関係があると知っているとして回答したが、5人が「知らなかった」、6人が「SDGSという言葉も知らなかった」と回答した。一方で、カンボジア人は16人が「知っている」と回答しており、13人が「知らなかった」、11人が「SDGSという言葉も知らなかった」を選んだ。この点では比較的日本人の知識の方がレベルが高いと考えられる。

表12 質問7「SDGs（Sustainable Development Goals）が環境問題にも関係があると知っていましたか」の結果

	知っている	知らなかった	SDGSという言葉も知らなかった
日本人	29人 (72.5%)	5人 (12.5%)	6人 (15%)
カンボジア人	16人 (40%)	13人 (32.5%)	11人 (27.5%)

質問8「環境に関する「3R」という言葉を知っていますか」の結果は表13に表わされている。日本人は38人が3Rという言葉を知っていると回答したが、2人しか知らないとして回答しなかった。一方で、カンボジア人は25人が「知っている」と回答したが、15人も「知らない」と回答した。3Rという言葉は比較的日本人の方が浸透しているようである。

表 13 質問 8 「環境に関する「3R」という言葉を知っていますか」の結果

	知っている	知らない
日本人	38 人 (95%)	2 人 (5%)
カンボジア人	25 人 (62.5%)	15 人 (37.5%)

質問 9 「「3R」という言葉が表すものを、全て下から選んでください」は協力者が 3R という言葉の意味を知っているかどうかを明らかにするための質問である。質問 9 の結果は以下の表 14 に表わされている。表 9 に見られるように、だいたいの日本人は正解の「Recycle」、「Reduce」と「Reuse」を選んだ。しかし、一人が Reduce の代りに、Recall を選ぶ誤答があった。それに対して、カンボジア人は、比較的様々な答えを選んだ。「Recycle」は全員が正しく回答したが、「Reduce」は 35 人、「Reuse」は 32 人回答した。この結果を見るとカンボジア人も正解率は高いが、日本人に比べると低い。そして、カンボジア人の中には Redo、Remind、Recall、Responsibility を選ぶ誤答もあった。

表 14 質問 9 「「3R」という言葉が表すものを、全て下から選んでください」の結果

	Recycle (正解)	Remind	Responsibility	Reduce (正解)	Recall	Reuse (正解)	Retire	Reprint	Redo
日本人	40 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	39 人 (97.5%)	1 人 (2.5%)	40 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
カンボジア人	40 人 (100%)	1 人 (2.5%)	5 人 (12.5%)	35 人 (87.5%)	2 人 (5%)	32 人 (80%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	1 人 (2.5%)

4.5. まとめの質問の結果 (質問 12)

質問 12 「環境問題を解決するのがもっとも難しい理由は何だと思いますか」の結果は表 15 に表わされている。表 12 を見ると、29 人の日本人が「人々の意識不足」が一番難しい理由だと回答し、最も多かった。一方、カンボジア人の回答は「人々の意識不足」も「人々の知識不足」も両方多いが、「人々の知識不足」を選んだ人の方が少し多い。

表 15 質問 12 「環境問題を解決するのがもっとも難しい理由は何だと思いますか」の結果

	人々の意識不足	人々の知識不足	技術的な問題	その他
日本人	29 人 (72.5%)	4 人 (10%)	2 人 (5%)	5 人 (12.5%)
カンボジア人	17 人 (42.5%)	19 人 (47.5%)	3 人 (7.5%)	1 人 (2.5%)

また、「その他」を選んだ人は日本人が 5 人とカンボジア人が 1 人である。日本人が挙げた「その他」の理由は「資本主義経済」、「利権が絡んでいる」、「他の人がやりたくない

いから自分のやりたくないという考えがある」、「生活に密接した産業や産物が環境へ打撃を与えているため。またその産業が各国において非常に大きな雇用を生んでいるため。」、「貧困や経済状況でそもそもの前提が違うため、一概に言えない」の五つであった。また「その他」を選んだカンボジア人は「奨励不足」だと回答した。

5. 考察

5.1. 環境保護に対する意識レベル

前述の通り、環境保護に対する意識というのは自分の国の環境状態について考えているかということである。日本人とカンボジア人の環境問題についての考え方は質問 1、10、11 で調べた。また、質問 3、4、5、6 で、環境を守るために実際にどの程度環境保護活動をしているかを質問することによって、その意識レベルの高さを調べた。本当に環境保護に対する意識が高ければ、実際に環境保護活動に参加しているはずである。

質問 1 の結果、日本人もカンボジアも少数の協力者しか「水質・衛生」と「持続可能な消費と生産」の廃棄物に関する項目を選ばなかったのも、両国の人は世界の他の問題をもっと注視し、あまり環境問題に目を向けていないと言える。しかし、「水質・衛生」が重要な問題だという回答は日本人よりもカンボジア人の方が多く、「持続可能な消費と生産」が重要な課題だという回答はカンボジア人よりも日本人の方が多い。この結果から分かるのは、カンボジア人にとっての課題は汚れた町を綺麗にすることであり、日本人にとっての課題は町の環境状態を維持するためにゴミを出さないようリサイクルなどに力を入れることであると推察される。この点に、両国の違いが見える。

質問 10 の結果、多くの日本人の自分の国の環境がきれいだと回答した。一方、大部分のカンボジア人は自分の国の環境が汚いと回答した。言い換えるならば、日本人は自分の国の環境状態に関して肯定的に評価しており、カンボジア人は否定的に評価している。質問 11 の結果、日本人もカンボジア人も、たいていの人は全国の市民は環境保護の活動に参加しなければならないと回答したが、日本人の中に「どちらとも言えない」と回答した人が 11 人もいるので、この点ではカンボジア人の方が優れている。質問 10 と質問 11 の結果から、日本人は国が綺麗だと思っているので環境保護活動に参加する必要をあまり感じておらず、カンボジア人は国が汚いと思っているので環境保護活動に参加する必要を強く感じているという傾向があると推察される。

では、日本人とカンボジア人は実際に環境を保護するための行動をしているだろうか。質問 3 の結果、日本人もカンボジア人もゴミを正しく分別している人が多いが、日本人の方が多いと明らかになった。また、質問 4 の結果、だいたいの日本人はシャンプーや洗剤な

どを買うときに、詰め替えパックを買っている。そして、カンボジア人は買っている人も買わない人も両方いる。さらに、質問 5 の結果、日本人は買い物する時レジ袋をもらっている人ももらわない人も両方いる一方で、カンボジア人の方が多くレジ袋をもらっているような傾向を示している。言い換えるならば、ゴミの分別やプラスチック削減について、日本人は意識が比較的高いためそれを行動に移しており、カンボジア人は意識が低いいため行動に移していないということである。一方、質問 6 の結果は、日本人は環境に関する活動に参加する傾向があまりないと分かる。一方で、たくさんのカンボジア人は環境の活動に参加する傾向があると分かる。この点ではカンボジア人の方が意識を持ち、実際に行動していると言える。

以上の結果を合わせて考えると、ゴミの分別やプラスチックの削減などの日常生活の中での環境保護活動への意識は日本人の方がやや高いが、地域清掃などの環境に関しての活動に対しての意識はカンボジア人の方が高いと考えられる。

ここまで、日本人とカンボジア人の意識レベルを全体的に比較したが、結果をより深く分析するために調査の協力者を、住んでいる地域によって分けて比較する。カンボジア人の協力者の全員は首都のプノンペンに住んでいるので、分けることができない。しかし、日本人の協力者は様々な地域に住んでいるので、アンケート調査の結果を、都会に住んでいる協力者の回答（東京、神奈川、大阪、京都、兵庫、愛知；計 25 名）と、比較的田舎に住んでいる協力者の回答（三重、埼玉；計 15 名）に分け、その違いを分析する。結果として、日本が綺麗だと思っている人は都会の人の方が多い。そのため、環境問題に対する意識は田舎の人の方が高く、実際に環境を守るための行動をしている人も田舎の方が多かった。この結果から、都会に住んでいる人は、比較的きれいな環境にある現状に満足しているためか、環境問題に対してあまり意識が高くないということが示唆される。

5.2. 環境保護についての知識のレベル

協力者の環境問題に対する知識レベルを問う質問について、質問 2 の結果、大数の日本人はグレタ・トゥーンベリを知っていると回答した。一方で、カンボジア人は 8 人しか彼女のことを知らなかった。また、質問 7 の結果、日本人の半分以上の協力者が SDGs が環境問題にも関係があると知っているとは回答したのに対して、カンボジア人の半分未満の人が知っているとは回答し、多くの方が SDGs という言葉も知らなかったと回答した。さらに、質問 8 の結果に見られるように、だいたいの日本人の協力者人は 3R の言葉を知っているのに対して、カンボジア人の協力者は多くは 3R という言葉を知っているが、日本人に比べると少ない。質問 9 は、質問 8 の回答が本当であるかどうかを確かめる質問である。質問 9 の結果、日本人のだいたいの協力者は正しく、「Recycle」、「Reduce」と「Reuse」と回

答した一方、カンボジア人は「Reduce」と「Reuse」の代わりに、「Responsibility」、「Remind」、「Recall」、「Redo」を選ぶという誤解が多い。以上の四つの質問の結果に鑑みると、「日本人の環境保護について知識レベルはカンボジア人に比べては高い」と考えられる。

また、ここでも、日本人の協力者を住んでいる場所によって分け、比較した。その結果を見ると、グレタ・トゥーンベリと3Rという言葉に関する知識レベルは田舎の人の方が高いが、SDGsに関する知識レベルは都会の人の方が高い。概ね、知識レベルは、都会と田舎の人の間に大きな違いはなかった。

5.3. まとめの質問：環境問題を解決するのが難しい理由

アンケートの最後の質問である質問12の結果から見ると、日本人にとって、環境問題を解決するのがもっとも難しい理由は人々の意識不足の問題であるという意見が多い。他の質問の結果から、日本人は自分の国が綺麗だと思っており、ゴミの分別やレジ袋をもらわなかったりするなどの日常的な行動から、国が綺麗に保たれているようである。しかし、これ以上環境のレベルを上げるには、地域の清掃活動などの環境保護活動に参加するような高い意識が必要であると日本人は考えているようである。

一方、カンボジア人は最も難しい理由は人々の意識不足だと考える人も人々の知識不足だと考える人も両方いるが人々の知識不足の方が比較的多い。カンボジア人は、日本人に比べ、地域の清掃活動などの環境保護活動に参加している人が多く、環境問題に対する意識は高いようである。しかしその一方で、ゴミの分別やレジ袋をもらわないなどの日常的な活動はあまりしていない。環境問題に対する意識が高いのにゴミの分別などをしていないということは、ゴミの分別などが環境を守ることにつながるという知識が低いということだろうか。またグレタ・トゥーンベリ、SDGs、3Rなどに関する知識も、日本人よりも低いことから、このような環境に関する知識を身に付けることが、カンボジアの環境問題の向上に貢献する可能性がある。前述のように、環境保護活動に参加するなどの意識のレベルは高いので、知識レベルが上がれば、カンボジアの環境は大きく向上すると考えられる。

6. 終わりに

日本とカンボジアは色々な環境問題に直面しており、色々な問題がある中でも、同じ廃棄物管理問題を抱えている。しかし、本レポートの結果から、先進国である日本と途上国であるカンボジアには様々な違いがあることが分かった。まず、カンボジア人は綺麗ではない自国を綺麗にすることに意識があり、日本人は綺麗な自国を維持することに意識がある。そのため、日本人はゴミの分別などの日常的な環境保護活動への意識が高いが、カンボジ

ア人は地域の清掃活動などへの意識が高い。また、カンボジア人よりも日本人の方が環境問題に関する知識レベルがやや高いということが示されたため、知識レベルの高さによって、日本の方が環境問題への対処が効果的であることが示唆された。従って、カンボジア人が知識レベルを上げれば、環境問題も向上する可能性がある。両国が抱えるすべての環境問題を解決するためにはまだ長い道のりがある。これは、調査の結果から見ると、両国の市民は環境保護についての知識レベルが高く、環境保護の活動が必要だと考えていても、実際にその活動を実施していない人も多いことから明らかである。私達の子供の世代が明るい人生を送れるようにするためには、私たちの世代に存在する全世界の市民の協力が重要な基盤となる。従って、この世界に存在している私達は誰でも環境保護の活動に参加すべきであると考えます。

最後に、本レポートでは日本とカンボジアの一般的な環境問題と市民が持っている意識と知識だけに焦点を当てている。今後のレポートは両国の問題をさらに具体的に調査することを課題にしたい。

参考文献

- Bual, H. (2018). WASTE MANAGEMENT, *Khmer Times*. <<https://www.khmertimes.kh.com/548828/waste-management/>>2019年11月04日閲覧.
- Cleangreencambodia. *Recycling in Cambodia*. <<https://www.cleangreencambodia.org/en/recycling-in-cambodia/>>2019年11月06日閲覧.
- Kyodo. (2018). Fukushima residents fight state plan to build roads with radiation-tainted soil, *The Japan times*. <<https://www.japantimes.co.jp/news/2018/04/29/national/fukushima-residents-fight-state-plan-build-roads-radiation-tainted-soil/#.Xb5x15ozZPY>>2019年11月10日閲覧.
- Long, K. (2019). Youths band together to clean ‘filthy’ Boeung Trabek canal, *The Phnom Penh Post*. <<https://www.phnompenhpost.com/national/youths-band-together-clean-filthy-boeung-trabek-canal>>2019年11月08日閲覧.
- Ministry of the Environment. (2014). *History and Current State of Waste Management in Japan*. Japan Environmental Sanitation Center. <<https://www.env.go.jp/en/recycle/smcs/attach/hcswm.pdf>>2019年11月01日閲覧.

- Moll, E. (2017). Cambodia's Environmental Problems, *SCIENCING*. <
<https://sciencing.com/cambodias-environmental-problems-7327797.html>> 2019年
 11月01日閲覧.
- Nippon. (2018). Too Much Waste Straining Japan's Limited Landfill Space, *Nippon*. <
<https://www.nippon.com/en/features/h00300/too-much-waste-straining-japan%E2%80%99s-limited-landfill-space.html>>2019年11月13日閲覧.
- OpenDevelopmentCambodia. (2018). Solid Waste. <<https://opendevlopmentcambodia.net/topics/solid-waste/>>2019年11月26日閲覧.
- Sakisian, D. (2017). *Effect of Fukushima Nuclear Disaster on Japanese Ecosystems*,
 Stanford University Term paper. <
<http://large.stanford.edu/courses/2017/ph241/sarkisian1/>>2019年11月11日閲覧.
- Smith, B. (2018). Japan: Environmental Issues, Policies and Clean Technology,
AZOCLEANTECH. <<https://www.azocleantech.com/article.aspx?ArticleID=539>>
 2019年11月2日閲覧.
- Turner, C. THE TOP 10 MOST IMPORTANT CURRENT GLOBAL ISSUES, *THE
 BORGEN PROJECT*. <https://borgenproject.org/top-10-current-global-issues/?fbclid=IwAR0JbZim_62GbultO_9xc-g9eAT1vU649UfCyxQ_fTod48AjkMT-WViV6OA>2019年10月25日閲覧.
- The Sasakawa Peace Foundation. (2012). *The Fukushima Nuclear Accident and Crisis
 Management – Lessons for Japan-U.S. Alliance Cooperation –*. <
https://www.spf.org/en/_jpus_media/img/investigation/book_fukushima.pdf>2019
 年10月25日閲覧.
- 一般社団法人環境金融研究機構 (RIEF) . (2017) . 「カンボジアの森林伐採、14年間で
 144万ha。東京都の3分の2の面積の森林が消失。NASAの衛星写真の時系列分析
 で判明。ゴム植林地などに転用。CO2排出量も急増へ (RIEF)」 . <<https://rief.jp.org/ct4/67230>>2019年11月03日閲覧.
- 環境省. 『3R推進キャンペーンを実施しています』 <
<http://www.env.go.jp/recycle/3r/campaign/campain.html>>2019年11月21日閲覧.

<要約>

Over the past few decades, environmental problems have been an increasing issue and has serious impacts in many parts of the globe. As technology develops, environmental problems continue to increase which indicates that this issue may not be able to be completely solved. Among all environmental issues, global warming and pollutions are ranked high in the global rankings. In order to solve these problems, many developed countries have created various measures e.g. Japan has designed a system for wastes separation, which may play an effective role in protecting the environment. However, in developing countries such as Cambodia, systems like wastes separation may not be as effective as Japan due to people not following the correct waste disposal methods of separation. This report focuses on environmental problems faced by both Cambodia and Japan, the knowledge and awareness, and the measures they are using to tackle these environmental problems.

タイと日本語のオノマトペの比較

—音と意味と翻訳からの理解度—

キッティヤポン・ソムブーン

Comparison of Thai and Japanese Onomatopoeia: Understanding from Sound, Meaning and Translation

SOMBOON, Kittiyaporn

<要旨>

本レポートは、タイ人の日本語学習者が日本語のオノマトペを理解しているかについて調べ、オノマトペはどのようにタイ語に翻訳される傾向があるか調べた。そして、音と意味と翻訳からその理解度を分析した。

調査の結果、タイ人の日本語学習者が日本語のオノマトペを理解する率は低かった。特に、オノマトペだけを見せた場合に低く、オノマトペだけを見ても意味が推測できないことが分かった。一方、オノマトペを含む例文を見せた場合の方が、正解率が高かった。オノマトペの前後の文から意味が推測できると考えられる。また、オノマトペだけを見た場合も、オノマトペを含む例文を見た場合も、擬声語よりも擬態語の方が正解率が高く、擬態語をタイ語に翻訳する時に動詞で表す傾向が強かった。一方、擬声語をタイ語に翻訳する時に副詞で表す傾向が強く、翻訳しない場合は擬態語より擬声語の方が多かった。そして、調査4の結果から、擬態語も擬声語も日本語のオノマトペを推測する時に頭文字と母音から推測した傾向が強いことが分かった。

キーワード：擬声語、擬態語、理解度、オノマトペ、音と意味

1. はじめに

「オノマトペ」とは、状態や感情、あるいは動物の鳴き声や物音を、模倣したものであり、その中には「擬声語」と「擬態語」がある。「擬声語」とは、物音や動物の鳴き声など、人間の発声器官以外のものから出た音を、人間の音声で模倣したものである。「擬態語」とは直接に音響とは関係のない状態を描写するのに用いられる表現である。「擬態語」の語彙が豊富であることが、日本語の大きな特徴の一つである。もちろん世

界中の言語にはオノマトペがあるが、それに対する音感覚は言語によってかなり違ってくる。そのため、外国人の日本語学習者にとって、オノマトペから意味を推測したり、その使い方が難しい。

本レポートは、タイ人の日本語学習者が日本語のオノマトペを理解しているかについて調べる。また、オノマトペはどのようにタイ語に翻訳される傾向があるか調べる。そして、音と意味と翻訳からその理解度を分析する。

2. 先行研究

2. 1. 日本語のオノマトペの研究

日本語のオノマトペの研究では、堀井 (1986: 4) によれば、音形と意味の有契性を「音的有縁性」と言い、音的有縁性には 2 つのタイプがある。1 つは直接的模倣による擬音語の場合である。音などを描写するのは、音形と意味との間に有縁性があるとしている。一方、擬態語は音に直接関係していない擬態語は「その語の音が感覚的印象を現している」という。

また金田一 (1988: 131) によれば、カ行音は乾いた固い感じ、サ行音は快い、時に湿った感じ、タ行音は強く、男性的な感じ、ナ行音は粘る感じ、ハ行音は軽く、抵抗感のない感じ、マ行音は丸く、女性的な感じ、ヤ行音は柔らかく、弱い感じ、ワ行音はもろく、壊れやすい感じがあるという。

阿刀田・星野 (1993: vi -viii) は、同類語の音に関する意味要素として「音・声」「運動の状態」「運動主体」「成立している状態」という 4 つの要素において、清音、濁音、半濁音によってその違いが表されると論じている。例えば「音・声」では「ヒュウヒュウ」がかすかな音・声、「ビュウビュウ」が強い音・声、「ピュウピュウ」が鋭い音・声を表している。また、「運動の状態」では「ヒクヒク」が弱い動き、「ピクピク」と「ピクピク」が鋭く震える動きを表す。「運動主体」では「ほろほろ」が零れ落ちる軽い花、「ぼろぼろ」が大粒の重い涙、「ポロポロ」が普通の軽い涙を表している。「成立している状態」では「ボツボツ」が量の多さを、「ポツポツ」が量の少なさを表すと述べている。このように、清音・濁音・半濁音によって音と意味の関係が分かる。これらを曹 (2016) がまとめたものを表 1 に示す。

タイ語のオノマトペは、副詞としてしか使われないのに対し、日本語オノマトペは、動詞、形容詞、副詞、名詞として使われる (田嶋 香織: 2006) ため、外国人の日本語学習者にとって、「オノマトペ」は漢字を使わず、平仮名と片仮名で表記されるので、意味を推測するのが難しい。

表1 清音・濁音・半濁音の比較に表われるもの(曹, 2016, p.43)

視点	清音	濁音	半濁音
音・声	遅む かすか おたや か 好まし	濁る 強い 荒い 不快	はずむ 鋭い 愛らしい
運動の状態	弱い 静か 小さい なめらか	強い 荒い 大きい 激る	鋭い 弾力的 細かい はずむ
運動主体	軽い 小さい 薄い 細い やわらかい もろい やさしい 少量	重い 大きい 厚い 太い かたい がんじょう 粗悪 多量	軽い 小さい 細かい 細い 愛らしい 少量
成立している状態	平均的 好ましい なめらか 淡い 軽やか 緊密	強烈 ぶざま 荒い 激い 重苦しい 多量 堅牢	刺激的 愛らしい 少量

2. 2. タイ語のオノマトペの研究

タイ語のオノマトペの研究では、Sorabud Rungrojsuwan (2008) によれば、タイ語のオノマトペはタイ語の『王立協会辞書』(1999) のような公式文書では 389 語がある。タイ語に翻訳された日本の漫画本のような非公式文書では 1,822 もある。公式文書ではタイ語のオノマトペが副詞で表されて、1 音節から 6 音節まであり、非公式文書では、タイ語のオノマトペが 1 音節から 11 音節までである。そして、タイ語のオノマトペの形態は疊語(reduplication)、順行同化(Progressive assimilation)⁽¹⁾、順行同化しない形態があると指摘する。

また、タイ語のオノマトペの音と意味の関係もある。タイ語のオノマトペの頭文字から見ると、タイ語のオノマトペの音と意味の関係について、以下のように指摘する。

1. 破裂音(Stop, Plosive)

/p, ph, b, t, tɰ, d, x, xɰ, k, kh, ?/は「あたり」「突き当たる」「閉じ込める」

「爆発」「割れる」という意味と関係がある。

2. 摩擦音(Fricative)

/φ, σ, η/は「擦れる」「介入する」「通る」という意味と関係がある。

3. 鼻音(Nasal)

/μ, ν, N/は「しっとり」「どよめく」「柔らかい」「不明確」という意味と関係がある。

4. 継続音 (continuant)

/ρ, λ, ω, φ/は「連続」「関連」「にちゃにちゃ」という意味と関係がある。

このようなことから、タイ人の日本語学習者が日本語のオノマトペを理解しているかについて調べる。また、オノマトペはどのようにタイ語に翻訳される傾向があるか調べる。そして、音と意味と翻訳からその理解度を分析する。

3. 調査方法

調査は、タイに住んでいるタイ人を対象に行ったので、google forms を使って実施した。

3. 1. 調査協力者

調査に協力して アンケート調査に参加したのは、日本語を勉強しているタイ人のカセサート大学2年生20人である。男性は5人、女性は14人である。なお、調査4の参加したのは日本語を勉強しているタイ人のカセサート大学2年生と3年生20人である。調査協力者の日本語レベルはN3レベルである

3. 2. 調査内容

調査1：オノマトペだけを見せてその意味を問う問題を与えた（調査目的1）。

調査2：問題1と同じオノマトペを含む例文を見せて、その意味を問う問題を与えた（調査目的2）。なお、問題2の例文は、文学小説『人間失格』からとった例文である。そして、オノマトペだけを見せた場合（問題1）とオノマトペを含む例文を見せた場合（問題2）を比べ、どちらか正解率が高いか調べた。出題に際し、50%が擬声語（⑥～⑩）50%が擬態語（①～⑤）とした。

調査3：オノマトペはタイ語に翻訳される際に、どのような品詞が使われるか問う問題を与えた（調査目的3）。

調査4：日本語のオノマトペの意味をどのように推測したか、タイ語の音や言葉からの類推があるか調べる。（調査目的4）

4. 結果

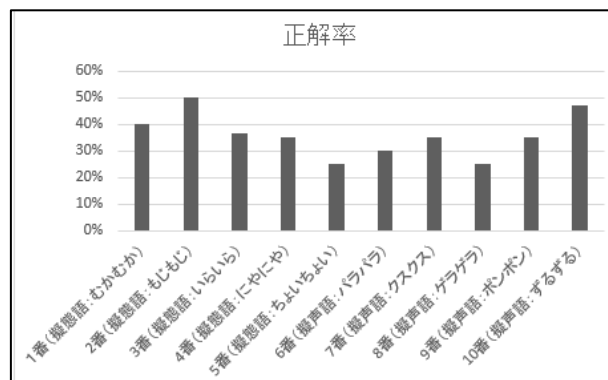
4. 1. タイ人の日本語のオノマトペの理解度（調査1と調査2）

調査1は、オノマトペだけを見せた場合、そのオノマトペの意味を理解しているか（調査目的1）を調べたものである。その結果を表2に示す。全体の正解率の平均は29.7%だった。また、擬態語の正解率の平均は30.2%、擬声語の正解率の平均は29.3%だった。（調査目的3）

表2 調査1の結果

番号	正解率
1番（擬態語：むかむか）	25%
2番（擬態語：もじもじ）	35%
3番（擬態語：いらいら）	40%
4番（擬態語：にやにや）	35%
5番（擬態語：ちょいちょい）	15.8%
6番（擬声語：パラパラ）	35%
7番（擬声語：クスクス）	26.3%
8番（擬声語：ゲラゲラ）	20%
9番（擬声語：ポンポン）	35%
10番（擬声語：ずるずる）	30%

図1 オノマトペの調査結果



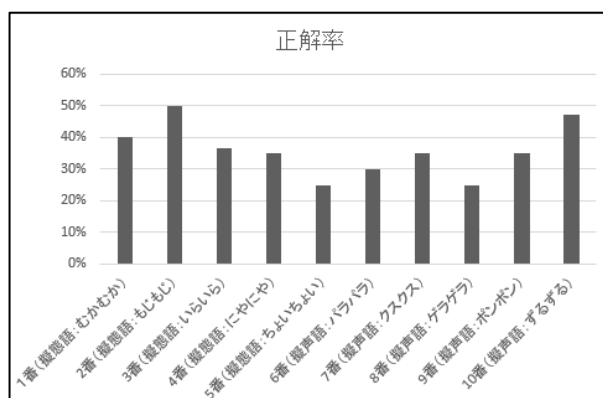
調査2は、オノマトペを例文の中で見た場合、そのオノマトペの意味が理解できるか

(調査目的2)について調べたものである。その結果を表3に示す。全体の正解率の平均は、35.9%だった。また、擬態語の正解率の平均は37.4%、擬声語の正解率の平均は34.5%だった。

表3 調査2の結果

番号	正解率
1番 (擬態語:むかむか)	40%
2番 (擬態語:もじもじ)	50%
3番 (擬態語:いらいら)	36.8%
4番 (擬態語:にやにや)	35%
5番 (擬態語:ちょいちょい)	25%
6番 (擬声語:パラパラ)	30%
7番 (擬声語:クスクス)	35%
8番 (擬声語:ゲラゲラ)	25%
9番 (擬声語:ポンポン)	35%
10番 (擬声語:ずるずる)	47.4%

図2 オノマトペの調査結果



調査1と調査2の結果、問題1のオノマトペだけを示した場合、タイ人日本語学習者が日本語のオノマトペを理解する率は低かった。オノマトペだけを見ても意味が推測できないことが分かる。一方、問題2のオノマトペを含む例文を見せた場合の方が、正解率が高かった。オノマトペの前後の文から意味が推測できると考えられる。また、オ

ノマトペだけを見た場合も、オノマトペを含む例文を見た場合も、擬声語よりも擬態語の方の正解率が高かった。

4. 2. タイ語に翻訳するときの傾向（調査3）

調査3は、オノマトペをタイ語に翻訳するときの品詞（調査目的3）について調べたものである。結果を表4に示す。擬態語をタイ語に翻訳する時に副詞で表す平均は32%、動詞で表す平均は37%、名詞で表す平均は24%、翻訳しない平均は7%だった。また、擬声語をタイ語に翻訳する時に副詞で表す平均は36%、動詞で表す平均は30%、名詞で表す平均は25%、翻訳しない平均は9%だった。

表4 調査3の結果

回答					
番号	副詞	動詞	名詞	翻訳しない	その他
1番（擬態語：むかむか）	40%	30%	25%	5%	0%
2番（擬態語：もじもじ）	25%	50%	20%	5%	0%
3番（擬態語：いらいら）	20%	45%	35%	0%	0%
4番（擬態語：にやにや）	30%	40%	20%	10%	0%
5番（擬態語：ちょいちょい）	45%	20%	20%	15%	0%
6番（擬声語：パラパラ）	35%	40%	20%	5%	0%
7番（擬声語：クスクス）	35%	35%	20%	10%	0%
8番（擬声語：ゲラゲラ）	40%	5%	40%	15%	0%
9番（擬声語：ポンポン）	35%	40%	15%	10%	0%
10番（擬声語：ずるずる）	35%	30%	30%	5%	0%

図3 オノマトペの調査結果

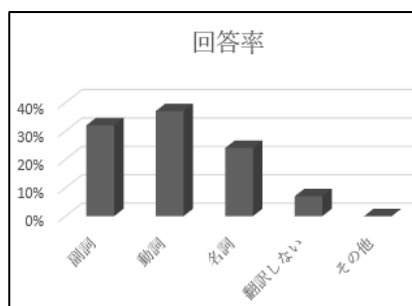
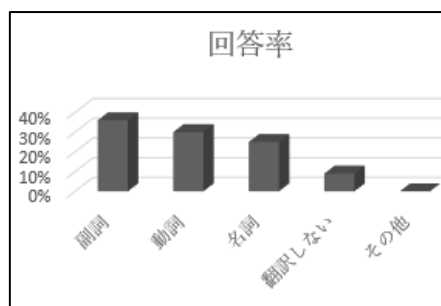


図4 オノマトペの調査結果



擬態語をタイ語に翻訳する時に動詞で表す傾向が強い。一方、擬声語をタイ語に翻訳する時に副詞で表す傾向が強い。また、翻訳しない場合は擬態語より擬声語の方が多いことが分かった。

4. 3. タイ人の日本語のオノマトペの推測の仕方（調査4）

調査4は、タイ人の日本語のオノマトペの推測する時の傾向（調査目的4）について調べたものである。結果を表5に示す。擬態語を推測する時に頭文字から推測した平均は32%、母音から推測した平均は25%、語尾音から推測した平均は28%、清音/濁音から推測した平均は11%、タイ語に似た音の言葉から推測した平均は3%だった。また、擬声語を推測する時に頭文字から推測した平均は35%、母音から推測した平均は25%、語尾音から推測した平均は16%、清音/濁音から推測した平均は21%、タイ語に似た音の言葉から推測した平均は3%だった。

表5 調査4の結果

回答					
番号	頭文字	母音	語尾音	清音／ 濁音	タイ語に似 た音の言葉
1番（擬態語：むかむか）	30%	35%	15%	20%	0%
2番（擬態語：もじもじ）	40%	15%	40%	5%	0%
3番（擬態語：いらいら）	40%	15%	35%	10%	0%
4番（擬態語：にやにや）	20%	20%	35%	15%	10%
5番（擬態語：ちょいちょい）	35%	40%	15%	5%	5%
6番（擬声語：パラパラ）	20%	30%	15%	35%	0%
7番（擬声語：クスクス）	30%	35%	25%	10%	0%
8番（擬声語：ゲラゲラ）	60%	15%	10%	10%	5%
9番（擬声語：ポンポン）	25%	30%	10%	35%	0%
10番（擬声語：ずるずる）	40%	15%	20%	15%	10%

図5 オノマトペの調査結果

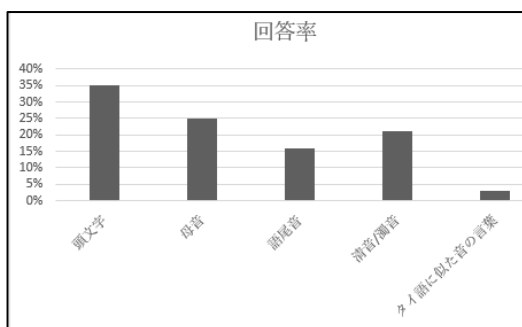
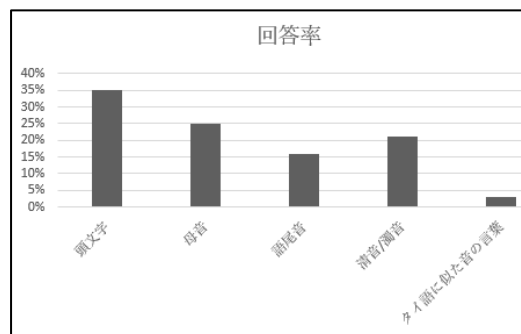


図6 オノマトペの調査結果



5. 考察

本研究では、タイ人の日本語学習者が日本語のオノマトペの習得状況について、4つの調査から次のことがわかった。

調査1と調査2の結果から、タイ人の日本語学習者が日本語のオノマトペを理解する率は低い。特に、オノマトペだけを見せた場合に低く、オノマトペだけを見ても意味が推測できないことが分かる。一方、オノマトペを含む例文を見せた場合の方が、正解率が高い。オノマトペの前後の文から意味が推測できると考えられる。また、オノマトペだけを見た場合も、オノマトペを含む例文を見た場合も、擬声語よりも擬態語の方が正解率が高い。その理由は国々の文化によって音の捉え方が異なっているからではないだろうか。例えば、鶏の声は、日本語では「コケコッコー」だが、英語では「クックドゥードゥルドゥー」である。このように音の捉え方の違いから、タイ語に翻訳できない擬声語もあると考えられる。

調査3の結果から、日本語の擬態語をタイ語に翻訳する時に動詞で表す傾向が強い。一方、日本語の擬声語をタイ語に翻訳する時に副詞で表す傾向が強い。また、翻訳しない場合は擬態語より擬声語の方が多いことが分かる。その理由はタイ語のオノマトペが副詞で表されているからだと考えられる。しかし、擬態語は動作の意味があるので、動詞で表す傾向が強い。

調査4の結果から、擬態語も擬声語も日本語のオノマトペを推測する時に頭文字と母音から推測した傾向が強い。また、清音/濁音から推測した場合は擬態語より擬声語の方が多いことが分かった。その理由は日本語のオノマトペもタイ語のオノマトペと同じように音と意味の関係があるからだと考えられる。つまり、Sorabud Rungrojsuwan (2008)によると、破裂音(Stop, Plosive)は「あたり」「突き当たる」「閉じ込める」「爆発」「割れる」という意味と関係があると述べる。タイ語のオノマトペは例を挙げれば、G1の「ŋan̄ŋ」（グンカン）車大工が固い地面にあたる音、G2の「ŋan」（ゴ

ック) ドアをノックする音、G3の「nɯn」(グリック) グラスや金属などの固い物が突き当たる音などである。これらの言葉から共通性が見られる。また、調査4の結果から、推測する時に頭文字から推測した場合、8番(擬声語: ゲラゲラ)は傾向が一番強い。「ゲラゲラ」は大声で無遠慮に笑う音という意味で、笑い声を「爆発」するという意味と関係がある。その上、タイ語のオノマトペの形態は畳語(reduplication)、順行同化(Progressive assimilation)⁽¹⁾、順行同化しない形態があるから、母音から推測した傾向も強いと考えられる。

最後に、これらの結果からタイ人の日本語学習者の日本語のオノマトペを勉強する方法としてから日本語のオノマトペを分別して方法を提案する。破裂音の意味を教えることによって、表6のように正解率の低かった擬声語の習得に役立てることができると考えられる。

表6 日本語の頭文字の音からのオノマトペの指導例

破裂音	意味
バラバラ	まばらに散らばっている様子/本をめくる音
クスクス	声をしのばせてひそかに続けて笑う音
ゲラゲラ	大声で無遠慮に笑う音
ポンポン	爆発音

以上、今後も継続して、タイ人の日本語学習者が日本語のオノマトペの習得状況に調査し、今後の指導に役立てたい。

6. 結論

調査の結果から、タイ人の日本語学習者の「オノマトペ」の能力はまだ、足りないと考えられる。オノマトペの多さは日本語の特徴なので、オノマトペを理解できないと、日本語の魅力も感じられない。今後、オノマトペの音と意味の関係性について、今後もタイ語と日本語の比較研究を行っていききたい。

注

1. 畳語(reduplication)、同一形態素の結合から成る合成語。「人々」「行く行く」「ほのぼの」など。また、同一形態素の結合によってつくられた語幹に接尾辞がついた「みずみずしい」のようなものも含める。擬声語や擬態語に特に多い。順行同化

(Progressive assimilation) とは、ある音素 X が、近接する音素 Y の影響により、Y の特徴を共有した異音 Y' として実現するという音韻過程を指す。例：liked/laik+d/ → [laikt] (ブリタニカ国際大百科事典)

参考文献

- 阿刀田稔子・星野知子 (1993) . 『正しい意味と用法がすぐわかる 擬音語擬態語使用方辞典』 . 創拓社出版.
- 金田一春彦 (1988) 『日本語』 (上・下) . 岩波新書.
- 修音ソフト (2013) . 『英語の発音方法』 . <
<http://pronounce.webcrow.jp/lateral.html>> 2020 年 1 月 25 日閲覧
- 曹 金波. (2016) 『日本語教育における オノマトペの研究—その学習内容と指導プロセスの構築を中心に—』 . 城西国際大学博士論文.
- 太宰治 (2009) . 『太宰治選集 3』 . 株式会社柏艚舎.
- 田守育啓 (1998) . 「日本音響学会誌」 『日本語オノマトペ多様な音と様態の表現』 . 54(3),pp. 215-222.
- Sorabud Rungrojsuwan (2008) . The Symbolization of Sounds in Thai Onomatopoeic Words. *Manusya: Journal of Humanities*, 10(2), 41-53.

<要約>

วิจัยฉบับนี้เป็นวิจัยที่ศึกษาความเข้าใจในคำเลียนเสียงธรรมชาติหรือโอะโนะมะโตะพะของนักเรียนภาษาญี่ปุ่นในประเทศไทยว่ามีความเข้าใจมากน้อยเพียงใด
อัตราความถูกต้องของข้อที่โจทย์มีแค่คำเลียนเสียงธรรมชาติและข้อที่โจทย์มีทั้งคำเลียนเสียงธรรมชาติและประโยคตัวอย่างมีความแตกต่างกันหรือไม่
นอกจากนี้ยังศึกษาแนวโน้มการแปลคำเลียนเสียงธรรมชาติญี่ปุ่นเป็นภาษาไทยว่ามีแนวโน้มแปลเป็นคำวิเศษณ์ คำกริยา คำนาม หรือไม่แปล
รวมถึงวิเคราะห์ว่านักเรียนภาษาญี่ปุ่นในประเทศไทยใช้หลักการอะไรในการเดาความหมายของคำเลียนเสียงธรรมชาติ เดาความหมายจากพยัญชนะต้น สระ พยัญชนะท้าย เสียงใสเสียงก้อง หรือคำที่มีเสียงคล้ายคำเลียนเสียงธรรมชาติของไทย

ผลวิจัยพบว่าความเข้าใจในคำเลียนเสียงธรรมชาติภาษาญี่ปุ่นของนักเรียนภาษาญี่ปุ่นในประเทศไทยนั้นยังคงต่ำ โดยเฉพาะกรณีที่ให้ดูเฉพาะคำเลียนเสียงธรรมชาติอัตราความถูกต้องนั้นยังต่ำ
กิตโตโกะมีอัตราความถูกต้องมากกว่ากิเซโกะ และเมื่อแปลคำเลียนเสียงธรรมชาติเป็นภาษาไทย
กิตโตโกะมีแนวโน้มถูกแปลเป็นคำกริยาในขณะที่กิเซโกะมีแนวโน้มถูกแปลเป็นคำวิเศษณ์
และกิเซโกะยังมีแนวโน้มไม่ถูกแปลมากกว่ากิตโตโกะ
นอกจากนี้เมื่อต้องเดาความหมายคำเลียนเสียงธรรมชาตินักเรียนภาษาญี่ปุ่นในประเทศไทยมีแนวโน้มเดาจากพยัญชนะหน้าและสระมากที่สุด และเมื่อเดาความหมายกิเซโกะมีแนวโน้มเดาจากเสียงใสและก้องมากกว่ากิตโตโกะ

จากผลวิจัยทำให้สามารถคิดว่าคำเลียนเสียงธรรมชาติญี่ปุ่น
เสียงและความหมายอาจมีความสัมพันธ์กันเช่นเดียวกับคำเลียนเสียงธรรมชาติในภาษาไทยตามรายงานวิจัยของดร. สรรพศย์
รุ่งโรจน์สุวรรณที่กล่าวว่าลักษณะทางเสียงของเสียงพยัญชนะต้นมีความสัมพันธ์กับองค์ประกอบทางความหมายของเสียงพยัญชนะต้นนั้นๆ กล่าวคือ พยัญชนะกักและพยัญชนะควบกล้ำ สัมพันธ์กับองค์ประกอบทางความหมาย [การกระทบ] [ชน] [กักกั้น] [ระเบิดออก] [แตก] พยัญชนะเสียดแทรก สัมพันธ์กับองค์ประกอบทางความหมาย [การเสียดสี] [แทรก] [ผ่าน] พยัญชนะนาสิก สัมพันธ์กับองค์ประกอบทางความหมาย [ความนุ่มนวล] [ก้อง] [อ่อน] [ไม่ชัดเจน]

จากแนวคิดนี้จึงสามารถคิดวิธีการเรียนการสอนคำเลียนเสียงธรรมชาติภาษาญี่ปุ่นที่เหมาะสมกับคนไทยได้โดยการแบ่งกลุ่มคำเลียนเสียงธรรมชาติตามลักษณะเสียงของพยัญชนะต้น เพื่อให้ง่ายต่อการจำและนำไปใช้

付録：調査用紙

問題 1

1. むかむか mukamuka は、どのような意味だと思えますか？

- ①固いものを食べる音
- ②やわらかいものを食べる音
- ③吐き気がこみ上げてくるように気分が悪い様子
- ④形の柔らかい物体が上へ上へとふくれあがってくる様子
- ⑤その他（書いてください： ）

2. もじもじ mojimoji は、どのような意味だと思えますか？

- ①液体が何度も揺れ動いてはねる音
- ②水滴が一つ落ちて当たる音
- ③遠慮、困惑、きおくれなどで行動をためらっている様子
- ④毛髪状のものが乱雑に入り乱れている様子
- ⑤その他（書いてください： ）

3. いらいら iraira は、どのような意味だと思えますか？

- ①大声などが空間に反響する音
- ②低い音うなり声
- ③期待がかなう予感があつて、動作が調子づく様子
- ④思い通りにいかず腹立たしくなり、落ち着かない様子
- ⑤その他（書いてください： ）

4. にやにや niyaniya は、どのような意味だと思えますか？

- ①物が軽く連続して打ち当たる音
- ②粘着性のものが粘りつくたびに出る音
- ③内心、悦に入ったり、てれたり、おかしかったりで声のない笑いを浮かべている様子
- ④口元に満足げな笑みを浮かべる様子
- ⑤その他（書いてください： ）

5. ちょいちょい choichoi は、どのような意味だと思えますか？

- ①はさみを小刻み連続して動かす音

- ②拍子木を打つ音
- ③動作や運動が短い時間をおいて繰り返される様子
- ④物事がかなり頻繁に繰り返される様子
- ⑤その他（書いてください： ）

6. パラパラ **parapara** は、どのような意味だと思いますか？

- ①粒状のものがまばらに降ったり散ったりする音
- ②本をめくる音
- ③連続して口を大きく開閉する様子
- ④形の柔らかい物体が上へ上へとふくれあがってくる様子
- ⑤その他（書いてください： ）

7. クスクス **kusukusu** は、どのような意味だと思いますか？

- ①鼻の奥に鼻水がつまって呼吸するたびに出る音
- ②声をしのばせてひそかに続けて笑う音
- ③子供が泣きむずかる様子
- ④物を弱火で煮込む時の様子
- ⑤その他（書いてください： ）

8. ゲラゲラ **geragera** は、どのような意味だと思いますか？

- ①大声で無遠慮に笑う音
- ②胃の中のものを続けて吐き出す音
- ③どぎついくらいはでな様子
- ④急に力をぬいて顔をうつむける様子
- ⑤その他（書いてください： ）

9. ポンポン **ponpon** は、どのような意味だと思いますか？

- ①水滴が1つ落ちて当たる音
- ②爆発音
- ③物の形、状態がはっきりとしない様子
- ④食品ができあがったばかりで湯げがたっている様子
- ⑤その他（書いてください： ）

10. ずるずる zuzuzuru は、どのような意味だと思いますか？

- ①物が軽く連続して打ち当たる音
- ②重くて動かしにくいもの、長いものを連続して引きずる音・様子
- ③短くて太い様子
- ④状態の進行、変化が目立ってはかどる様子
- ⑤その他（書いてください： ）

問題 2

1. 『へんにむかむかさせる表情の写真であった』

という文の中の「むかむか」は、どのような意味だと思いますか？

- ①固いものを食べる音
- ②やわらかいものを食べる音
- ③吐き気がこみ上げてくるように気分が悪い様子
- ④形の柔らかい物体が上へ上へとふくれあがってくる様子
- ⑤その他（書いてください： ）

2. 『自分が黙って、もじもじしているので、父はちょっと不機嫌な顔になる』

という文の中の「もじもじ」は、どのような意味だと思いますか？

- ①液体が何度も揺れ動いてはねる音
- ②水滴が一つ落ちて当たる音
- ③遠慮、困惑、きおくれなどで行動をためらっている様子
- ④毛髪状のものが乱雑に入り乱れている様子
- ⑤その他（書いてください： ）

3. 『ただもう不愉快、イライラしてつい眼をそむけたくなる』

という文の中の「イライラ」は、どのような意味だと思いますか？

- ①大声などが空間に反響する音
- ②低い音うなり声
- ③期待がかなう予感があって、動作が調子づく様子
- ④思い通りにいかず腹立たしくなり、落ち着かない様子
- ⑤その他（書いてください： ）

4. 『私が聞いた時には、にやにやして黙っていたが、あとで、どうしてもお獅子が欲しくて貯まらなくなったんだね』

という文の中の「にやにや」は、どのような意味だと思いますか？

- ①物が軽く連続して打ち当たる音
- ②粘着性のものが粘りつくたびに出る音
- ③内心、悦に入ったり、てれたり、おかしかったりで声のない笑いを浮かべている様子
- ④口元に満足げな笑みを浮かべる様子
- ⑤その他（書いてください： ）

5. 『自分は、ちょいちょい学校を休んで、さりとて東京見物などをする気も起こらず、本を読んだり、絵を画いたりしていました。』

という文の中の「ちょいちょい」は、どのような意味だと思いますか？

- ①はさみを小刻み連続して動かす音
- ②拍子木を打つ音
- ③動作や運動が短い時間をおいて繰り返される様子
- ④物事がかなり頻繁に繰り返される様子
- ⑤その他（書いてください： ）

6. 『手帖を取り上げ、パラパラめくって、お土産の注文記入の個所を見つける』

という文の中の「パラパラ」は、どのような意味だと思いますか？

- ①粒状のものがまばらに降ったり散ったりする音
- ②本をめくる音
- ③連続して口を大きく開閉する様子
- ④形の柔らかい物体が上へ上へとふくれあがってくる様子
- ⑤その他（書いてください： ）

7. 『廊下を歩きながら読みはじめて、クスクス笑い』

という文の中の「クスクス」は、どのような意味だと思いますか？

- ①鼻の奥に鼻水がつまって呼吸するたびに出る音
- ②声をしのはせてひそかに続けて笑う音
- ③子供が泣きむずかる様子

④物を弱火で煮込む時の様子

⑤その他（書いてください： ）

8. 『男はさすがにいつまでもゲラゲラ笑っていません。』

という文の中の「ゲラゲラ」は、どのような意味だと思いますか？

①大声で無遠慮に笑う音

②胃の中のものを続けて吐き出す音

③どぎついくらいはでな様子

④急に力をぬいて顔をうつむける様子

⑤その他（書いてください： ）

9. 『高い円タクは敬遠して、電車、バス、ポンポン蒸気など、それぞれ利用し分けて、最短時間で目的地へ着く』

という文の中の「ポンポン」は、どのような意味だと思いますか？

①水滴が1つ落ちて当たる音

②爆発音

③物の形、状態がはっきりとしない様子

④食品ができあがったばかりで湯げがたっている様子

⑤その他（書いてください： ）

10. 『ずるずるに、れいの不安の心から、この二人のご機嫌をただ懸命に取り結び、もはや自分は、金縛り同様の形になっていました。』

という文の中の「ずるずる」は、どのような意味だと思いますか？

①物が軽く連続して打ち当たる音

②重くて動かしにくいもの、長いものを連続して引きずる音・様子

③短くて太い様子

④状態の進行、変化が目立ってはかどる様子

⑤その他（書いてください： ）

問題3

1. 『へんにむかむかさせる表情の写真であった』

という文の中の「むかむか」は、タイ語に翻訳したら、どれが自然だと思いますか？

- ①รูปภาพที่แสดงสีหน้าอย่างพะอืดพะอมประหลาดๆ (副詞)
- ②รูปกสีหน้าพะอืดพะอมอย่างประหลาด (動詞)
- ③เป็นรูปสีหน้าการพะอืดพะอมอย่างประหลาด (名詞)
- ④เป็นรูปสีหน้าประหลาดๆ (翻訳しない)
- ⑤その他 (書いてください:)

2. 『自分が黙って、もじもじしているので、父はちょっと不機嫌な顔になる』
 という文の中の「もじもじ」は、タイ語に翻訳したら、どれが自然だと思いますか？

- ①พอเริ่มไม่พอใจนิดหน่อยเพราะฉันทุคตุคแล้วทำทำอย่างอึกอึก (副詞)
- ②พอเริ่มไม่พอใจนิดหน่อยเพราะฉันทุคตุคแล้วอึกอึก (動詞)
- ③พอเริ่มไม่พอใจนิดหน่อยเพราะฉันทุคตุคแล้วทำทำด้วยความอึกอึก (名詞)
- ④พอเริ่มไม่พอใจนิดหน่อยเพราะฉันทุคตุค (翻訳しない)
- ⑤その他 (書いてください:)

3. 『ただもう不愉快、イライラしてつい眼をそむけたくなる』
 という文の中の「イライラ」は、タイ語に翻訳したら、どれが自然だと思いますか？

- ①แค่ไม่รื่นรมย์ มีทำทำอย่างกระสับกระส่าย และเริ่มอยากหลบหน้า (副詞)
- ②แค่ไม่รื่นรมย์ กระสับกระส่าย และเริ่มอยากหลบหน้า (動詞)
- ③แค่ไม่รื่นรมย์ ทำทำด้วยความกระสับกระส่าย และเริ่มอยากหลบหน้า (名詞)
- ④แค่ไม่รื่นรมย์ และเริ่มอยากหลบหน้า (翻訳しない)
- ⑤その他 (書いてください:)

4. 『私が聞いた時には、にやにやして黙っていたが、あとで、どうしてもお獅子が欲しくて貯まらなくなったんだね』

という文の中の「にやにや」は、タイ語に翻訳したら、どれが自然だと思いますか？

- ①ตอนที่ฉันได้ยินก็ยิ้มอย่างเจ้าเล่ห์แล้วตุคตุคแต่หลังจากนั้นไม่ว่างยังงก็อยากได้สิงโตจนทนแทบไม่ไหว (副詞)
- ②ตอนที่ฉันได้ยินก็ยิ้มเจ้าเล่ห์แล้วตุคตุคแต่หลังจากนั้นไม่ว่างยังงก็อยากได้สิงโตจนทนแทบไม่ไหว (動詞)
- ③ตอนที่ฉันได้ยินก็ยิ้มด้วยความเจ้าเล่ห์แล้วตุคตุคแต่หลังจากนั้นไม่ว่างยังงก็อยากได้สิงโตจนทนแทบไม่ไหว (名詞)
- ④ตอนที่ฉันได้ยินก็ยิ้มตุคตุคแต่หลังจากนั้นไม่ว่างยังงก็อยากได้สิงโตจนทนแทบไม่ไหว ((翻訳しない)
- ⑤その他 (書いてください:)

5. 『自分は、ちょいちょい学校を休んで、さりとて東京見物などをする気も起こらず、

本を読んだり、絵を画いたりしていました。』

という文の中の「ちょいちょい」は、タイ語に翻訳したら、どれが自然だと思いますか？

- ① ฉินหยุดเรียนเป็นประจำแต่ก็ไม่ได้อยากเที่ยวชมเมืองโคเกียว ทำแค่อ่านหนังสือบ้างวาครูปบ้าง (副詞)
- ② ฉินหยุดเรียนช้าๆแต่ก็ไม่ได้อยากเที่ยวชมเมืองโคเกียว ทำแค่อ่านหนังสือบ้างวาครูปบ้าง (動詞)
- ③ ฉินหยุดเรียนด้วยความบอ่ย แต่ก็ไม่ได้อยากเที่ยวชมเมืองโคเกียว ทำแค่อ่านหนังสือบ้างวาครูปบ้าง (名詞)
- ④ ฉินหยุดเรียนแต่ก็ไม่ได้อยากเที่ยวชมเมืองโคเกียว ทำแค่อ่านหนังสือบ้างวาครูปบ้าง (翻訳しない)
- ⑤ その他 (書いてください:)

6. 『手帖を取り上げ、パラパラめくって、お土産の注文記入の個所を見つける』

という文の中の「パラパラ」は、タイ語に翻訳したら、どれが自然だと思いますか？

- ① หยิบสมุดบันทึกขึ้นมา พลิกหน้าหนังสือพื้บพื้ หาสถานที่ซื้อของตามรายการสั่ง (副詞)
- ② หยิบสมุดบันทึกขึ้นมา ค่อยๆพลิกหน้าหนังสือ หาสถานที่ซื้อของตามรายการสั่ง (動詞)
- ③ หยิบสมุดบันทึกขึ้นมา พลิกหน้าหนังสือเสียงเบาๆ หาสถานที่ซื้อของตามรายการสั่ง (名詞)
- ④ หยิบสมุดบันทึกขึ้นมา พลิกหน้าหนังสือ หาสถานที่ซื้อของตามรายการสั่ง (翻訳しない)
- ⑤ その他 (書いてください:)

7. 『廊下を歩きながら読みはじめて、クスクス笑い』

という文の中の「クスクス」は、タイ語に翻訳したら、どれが自然だと思いますか？

- ① ขณะเดินบนทางเดินก็เริ่มอ่านหนังสือพลางหัวเราะคิกคัก (副詞)
- ② ขณะเดินบนทางเดินก็เริ่มอ่านหนังสือพลางแอบหัวเราะ (動詞)
- ③ ขณะเดินบนทางเดินก็เริ่มอ่านหนังสือพลางหัวเราะกับตัวเอง (名詞)
- ④ ขณะเดินบนทางเดินก็เริ่มอ่านหนังสือพลางหัวเราะ (翻訳しない)
- ⑤ その他 (書いてください:)

8. 『男はさすがにいつまでもゲラゲラ笑ってもいません。』

という文の中の「ゲラゲラ」は、タイ語に翻訳したら、どれが自然だと思いますか？

- ① อย่างที่คาดไว้ผู้ชายนะไม่ว่าจะผ่านไปนานเท่าไรก็จะไม่หัวเราะอีกอีก (副詞)
- ② อย่างที่คาดไว้ผู้ชายนะไม่ว่าจะผ่านไปนานเท่าไรก็จะไม่หัวเราะหัวไห้ (動詞)
- ③ อย่างที่คาดไว้ผู้ชายนะไม่ว่าจะผ่านไปนานเท่าไรก็ไม่หัวเราะเสียงดัง (名詞)
- ④ อย่างที่คาดไว้ผู้ชายนะไม่ว่าจะผ่านไปนานเท่าไรก็ไม่หัวเราะ (翻訳しない)
- ⑤ その他 (書いてください:)

9. 『高い円タクは敬遠して、電車、バス、ポンポン蒸気など、それぞれ利用し分けて、最短時間で目的地へ着く』

という文の中の「ポンポン」は、タイ語に翻訳したら、どれが自然だと思いますか？

① 声調が上がるので、ポンポンと聞こえる。これは、タイ語のポンポンと同じ。 (副詞)

② 声調が上がるので、ポンポンと聞こえる。これは、タイ語のポンポンと同じ。 (動詞)

③ 声調が上がるので、ポンポンと聞こえる。これは、タイ語のポンポンと同じ。 (名詞)

④ 声調が上がるので、ポンポンと聞こえる。これは、タイ語のポンポンと同じ。 (翻訳しない)

⑤ その他 (書いてください:)

10. 『ずるずるに、れいの不安の心から、この二人のご機嫌をただ懸命に取り結び、もはや自分は、金縛り同様の形になっていました。』

という文の中の「ずるずる」は、タイ語に翻訳したら、どれが自然だと思いますか？

① 声調が上がるので、ずるずると聞こえる。これは、タイ語のずるずると同じ。 (副詞)

② 声調が上がるので、ずるずると聞こえる。これは、タイ語のずるずると同じ。 (動詞)

③ 声調が上がるので、ずるずると聞こえる。これは、タイ語のずるずると同じ。 (名詞)

④ 声調が上がるので、ずるずると聞こえる。これは、タイ語のずるずると同じ。 (翻訳しない)

⑤ その他 (書いてください:)

問題 4

1. むかむか mukamuka という言葉の意味を推測する時は、どうやって推測しますか？

① 頭文字の m 音から推測する。

② 母音から推測する。

③ 語尾音から推測する。

④ 清音 (/p//t//k/) ・ 濁音 (/b//d//g/) から推測する。

⑤ タイ語に似た音の言葉があるから。その言葉は、 (書いてください)

です。

⑥その他（書いてください： _____ ）

2. もじもじ **mojimoji** という言葉の意味を推測する時は、どうやって推測しますか？

①頭文字の **m** 音から推測する。

②母音から推測する。

③語尾音から推測する。

④清音 (/p//t//k/) ・ 濁音 (/b//d//g/) から推測する。

⑤タイ語に似た音の言葉があるから。その言葉は、（書いてください _____ ）

です。

⑥その他（書いてください： _____ ）

3. いらいら **iraira** という言葉の意味を推測する時は、どうやって推測しますか？

①頭文字の **i** 音から推測する。

②母音から推測する。

③語尾音から推測する。

④清音 (/p//t//k/) ・ 濁音 (/b//d//g/) から推測する。

⑤タイ語に似た音の言葉があるから。その言葉は、（書いてください _____ ）

です。

⑥その他（書いてください： _____ ）

4. にやにや **niyaniya** という言葉の意味を推測する時は、どうやって推測しますか？

①頭文字の **n** 音から推測する。

②母音から推測する。

③語尾音から推測する。

④清音 (/p//t//k/) ・ 濁音 (/b//d//g/) から推測する。

⑤タイ語に似た音の言葉があるから。その言葉は、（書いてください _____ ）

です。

⑥その他（書いてください： _____ ）

5. ちょいちょい **choichoi** という言葉の意味を推測する時は、どうやって推測しますか？

- ①頭文字の ch 音から推測する。
- ②母音から推測する。
- ③語尾音から推測する。
- ④清音 (/p//t//k/) ・ 濁音 (/b//d//g/) から推測する。
- ⑤タイ語に似た音の言葉があるから。その言葉は、(書いてください)
です。
- ⑥その他 (書いてください :)

6. パラパラ parapara という言葉の意味を推測する時は、どうやって推測しますか？

- ①頭文字の p 音から推測する。
- ②母音から推測する。
- ③語尾音から推測する。
- ④清音 (/p//t//k/) ・ 濁音 (/b//d//g/) から推測する。
- ⑤タイ語に似た音の言葉があるから。その言葉は、(書いてください)
です。
- ⑥その他 (書いてください :)

7. クスクス kusukusu という言葉の意味を推測する時は、どうやって推測しますか？

- ①頭文字の k 音から推測する。
- ②母音から推測する。
- ③語尾音から推測する。
- ④清音 (/p//t//k/) ・ 濁音 (/b//d//g/) から推測する。
- ⑤タイ語に似た音の言葉があるから。その言葉は、(書いてください)
です。
- ⑥その他 (書いてください :)

8. ゲラゲラ geragera という言葉の意味を推測する時は、どうやって推測しますか？

- ①頭文字の g 音から推測する。
- ②母音から推測する。
- ③語尾音から推測する。
- ④清音 (/p//t//k/) ・ 濁音 (/b//d//g/) から推測する。

⑤タイ語に似た音の言葉があるから。その言葉は、（書いてください）
です。

⑥その他（書いてください：）

9. ポンポン ponpon という言葉の意味を推測する時は、どうやって推測しますか？

①頭文字の p 音から推測する。

②母音から推測する。

③語尾音から推測する。

④清音 (/p//t//k/) ・ 濁音 (/b//d//g/) から推測する。

⑤タイ語に似た音の言葉があるから。その言葉は、（書いてください）
です。

⑥その他（書いてください：）

10. ずるずる zuruzuru という言葉の意味を推測する時は、どうやって推測しますか？

①頭文字の z 音から推測する。

②母音から推測する。

③語尾音から推測する。

④清音 (/p//t//k/) ・ 濁音 (/b//d//g/) から推測する。

⑤タイ語に似た音の言葉があるから。その言葉は、（書いてください）
です。

⑥その他（書いてください：）

日本の学校教育における英語教育の問題点とその改革 —改善案と実践活動—

トアベン・シュテীগミュラー

Problems and Reforms of the English Education in Japanese Schools: Improvement Plans and Practical Activities

STEGMUELLER, Torben

<要旨>

本プロジェクトでは、日本人の英語力の低さとその要因、また文部科学省の英語教育に対する改革について調査した。さらに、英語教師(ネイティブ及び日本人)と日本人に英語教育についての意見を調査し、現在の英語教育にはどのような問題があるか、それらをどう解決できうるかといった課題について考察した。これらの調査によって、日本の英語教育制度における問題は複雑であり、制度的な短所だけではなく、授業方針や内容面の問題があるということが明らかになった。また、英語教員と日本人の若者は文部科学省の改革に賛成しているものの、問題がより深いところにあるため、改善しにくいと考えられることを指摘した。

キーワード：英語教育、文部科学省の改革、改善案、アンケート調査、学校訪問

1. はじめに

このレポートの目的は、日本人の英語力とその低さの原因を分析することである。よく日本人の英語力は比較的低いと言われているが、それはどうしてだろうか。このレポートでは、まず、英語能力試験における日本人や他国の人々の点数を調べ、日本人の英語力を確認する。そして、日本の英語教育制度にはどのような問題点があり、文部科学省の改革によって英語教育の方針がどう変わってきたかを調査する。また、どうして日本人は欧米人より英語の勉強が難しいかという課題に答えるために、日本人の英語教員や学生にアンケート調査やインタビューを実施して意見を聴取し、さらに日本の教育制度の改正案を提案する。

2. 日本人の英語力の低さについて

2.1. 英語能力試験の国際比較

ここでは日本人の受けた様々な英語能力試験の結果をまとめ、紹介していく。一般的に TOEFL と略される Test of English as Foreign Language の結果によると、アジアの 33 諸国の中で、日本は 2017 年と 2018 年に 4 番目に点数が悪い国であった (TOEFL 2017, TOEFL 2018)。Percentile Rank でいうと、日本は 2017 年は 41 位、2018 年 43 位であり TOEFL の受験者の出身国別の平均より 8%ほど低い。また、TOEFL iBT の 2017 年の Total Score の結果表によると日本は 71 点で約 26 percentile である。

他に、TOEIC の 2017 年の結果によると日本人の平均点は 517 点で、47 か国の中で 9 番目に結果が低く、TOEIC の 2018 年の結果は 520 点で日本は 49 か国中 6 番目に結果が低かった (TOEIC 2017, TOEIC 2018)。

また、EF EPI (English Proficiency Index) の 2019 年の結果を見ると、日本は 100 か国の中で第 53 位であり、「英語能力が低い」と評価されている。

これらのデータは、日本が平均より少し結果が悪いということを示しているが、母語が英語と似ている諸国の人々だけでなく、様々な言語が話されている国の人々が日本人よりいい点数を取るの当然であるので、英語能力試験の結果によって一概に英語能力が「低い」または「高い」と判断することは公平ではないかもしれない。

2.2. 英語学習環境の国際比較

2.2.1. 他のアジアの諸国との比較

同じアジア圏にあり隣国でもある韓国の TOEFL と TOEIC の結果は日本より高い (TOEIC 2017, TOEIC 2018, TOEFL 2017, TOEFL 2018)。韓国の教育制度や英語教育に対する考え方は日本人のそれと違うだろうか。韓国人は、小学校から高等学校まで英語を勉強しているだけでなく、英語が教えられている幼稚園もあるし、多くの人は家庭教師を雇ったり子供を私立英会話教室に行かせたりしている。また、生活の中で英語に触れる機会が日本より豊富である。例えば、英語のラジオ番組、英語教育テレビ番組、英語のニュース、英語の新聞などは日本より多い。そして、韓国人は英語力の重要さがよくわかっており、グローバル化による変化に合わせてたり多国籍企業に勤めたりできるように英語の習得に力を入れている。将来、よりいい会社でたくさんのお金を稼ぎたいと思っている者も多い (Hi Expat 2015)。

その他のアジア諸国の英語教育事情を見てみると、日本より英語能力試験の結果が良いインドでは (2018 年 TOEIC は 49 か国中 31 位、2017 年 TOEFL は 78 Percentile Rank、2018 年

TOEFLは51 Percentile Rank)、英語は学校での指導媒体であり、授業が英語で行われている。またフィリピンの英語能力試験の結果も日本より良い(2017年TOEICは47カ国中7位、2018年TOEICは49カ国中4位、2017年TOEFLは77 Percentile Rank、2018年TOEFLは82 Percentile Rank)。そこでは、小学校1年生から学校の授業で英語を行い、英語が必修科目でもある。2012/13年度までは、3年生以降の授業は全て英語で教えられていた。しかし、母語で勉強している生徒の方が、英語以外の科目も含む全体的な成績が良いという調査結果があったため、近年、英語で教えていた一部の授業は母語で教えることになった(Martinez 2017)。

2.2.2. ドイツとの比較

ドイツの英語教育は連邦州(注1)によって違いがあるが、一般的な変化を経てきた。ハンブルク州では、1870年以来、全ての小学校に英語教育が義務付けられている(ハンブルク法律集 1890)。1998/99年度には、3年生以降の英語クラスの導入が始まった。そして2004/05年度以降、すべての連邦州の小学校で英語のクラスが全国的に提供されている。バーデンヴュルテンベルク州では、フランスとの国境沿いであるためフランス語の授業が義務付けられているが、その他の連邦州/地域では、小学校1年生から英語の授業が義務付けられている。

日本と比較すると、学校での英語教育開始学年はドイツの方が早く、小学校1年生からの英語授業を導入している。しかし、そのような制度的な違いだけでなく、英語の授業の内容も日本とドイツでは違う。後述するように、日本では入学試験に合格することを目的として読み書きを中心とした英語教育が行われがちであるが、ドイツの学校では入学試験がないので、そのために勉強している生徒や、書き読みを中心として教えている教員はいない。そのため、一般的な言語コミュニケーション能力が中心で、話す力と生徒に自分の意見を表現することがより優先されている。ザクセンという一つの連邦州の学習指導要領によると、ドイツの英語教育の中心的なタスクは、共感、寛容、視点の変化、柔軟性、および談話スキルなどの側面を含む、行動的な異文化能力の開発であるようだ。また、メディア教育は英語の授業に不可欠な部分だということである(Lehrplan Gymnasium 2019)。

以上、2.2節で述べた国際的な比較をまとめると、各国の教育制度の違いは、英語授業開始学年や授業の方針、また英語が指導媒体として使用されているかどうかなどに見られる。その上、インドや韓国には、日本よりも英語に触れる環境が多くあり、将来のための英語力の重要さがよく意識されていると考えられる。

2.3. 日本人の英語力が低い要因

ここでは、日本の英語教師へのインタビューで得られた意見を含め、日本人の英語力が不足している理由として考えられるものをいくつか挙げる。

一つの理由としては、日本国内で英語を話す必要緊急性がほとんど感じられない状況にあつて、大半の日本人にとって、英語に対する真剣な習得意欲が湧きにくいという点が考えられる（鈴木 1999）。日本では異文化交流が少ないため、国内での日本語以外の言語の使用機会が少ない。総務省（2020）によると、日本人の総数 127,095,100 人の中で日本国籍を持っている者は 124,248,098 人であり、つまり 97,76% が日本人であるということである。このように日本に住む外国人人口が非常に少ない環境にあつては、一生に一度も外国人と話すことなく過ごす可能性が十分あるということが示唆される。

更に、日本では異文化交流が少なく、日本人は英語が話せなくても困らないという環境には、歴史的な要因も影響している。例えば、フィリピン、インド、シンガポール、ケニア等の数多くのアジア・アフリカ諸国は長年にわたる欧米の植民地支配により、独立後も英語を使わなければ、教育、国内の行政や政治から、場合によっては日常生活まで円滑に行えないため、これらの国の知識階級は流暢に英語を話す能力が必要となった（鈴木 1999, RUB 2010）。一方日本は、第二次世界大戦後の数年間を除き、外国勢力による被植民地としての経験がないため、教育や政治において外国語能力が必要とされることはなかった。こうした歴史的背景を含めた要因から、日本においては英語を含む外国語を話す必要性が少なく、これが日本人が英語（またはその他の外国語）の能力が低い要因として考えられる。

三重県の中学校の英語教員である稲藪裕恵氏と小牧詩織氏へのインタビューによると、両者は意欲の乏しさがあることに同意した上で、韓国やインドで英語教育によく使われているテクノロジーを日本は重視していないことが英語学習の効果を得られていない原因の一つであるということであった。しかしその一方で、将来的により多くの外国人が日本に来ると予想されるので、これらの外国人とコミュニケーションがとれるように英語を勉強したほうが良いと両者は主張している。そして、英語能力試験の結果だけでは人々の実際の英語力は分からないという意見も得られた。なぜなら、TOEFL などの英語能力試験を受ける人の多くは大学に進学して既に高い教育を受けている一方で、高い教育を受けていない人々は英語能力試験を受けないと考えられ、さらに田舎に住んでいるために受験が難しい人もいるので、それらの人々を含めると全国的な日本人の英語力はさらに低い可能性があるということだった。

日本人にとっての英語の難しさについて、三重大大学の教育学部英語科の早瀬光秋特任教授の意見も聴取した。早瀬氏によると、日本人の乏しい英語力は大問題であり、日本語と英語の文法、特に文章の構造、主語や述語の位置、語彙が全く違うことがその原因の一つとして挙げられるという。また、こうした言語の違いはヨーロッパ言語の間には少なく、そのためヨーロッパの人の方が英語を覚えるのが簡単だと早瀬氏は説明した。端的に言うと、母語の言葉や慣用表現が英語の表現と似ていれば似ているほど、英語の習得が簡単であるということである。その上、日本の英語の授業は、目標が生徒を大学の入学試験に合格させることであり、話す力と聴解より読み書きに焦点を当てているため、コミュニケーション能力が低いそうである。他には、文化的な違いも重要であり、例えば日本人は自分の意見を表現することに慣れていないため、外国語が流暢に話せるようになりにくいということだった。

早瀬の挙げたポイントは言語者の鈴木（1999）の見解と一致している。鈴木によると、「日本語は、英語とは全く違う系統に属する言語であるばかりでなく、日本人の宗教や世界観、そして風俗習慣をも含む文化までも、欧米人のそれとは非常に異なるものであるから、彼らがお互いの言語を学ぶ際の苦勞と、日本人が彼らの言語を学習する時に経験する困難は比較にならない」ということである（鈴木 1999, p. 3）。

上記をまとめると、1) 日本では国際交流が少なく、英語が使えなくても困らないという環境、2) 日本は他国による植民地支配の経験が少ないという歴史的背景、3) 英語と日本語の文法的な違い、4) 大学合格を目的とした読み書き中心の英語教育、5) 日本と欧米の文化的な違い、などが、日本人の英語力が低い要因として挙げられる。

3. 日本の英語教育について

3.1. 歴史と改革

第2章の終わりに、日本人の英語力が低い理由を5つ挙げたが、その一つとして、大学合格を目的とした読み書き中心の英語教育がある。これ以外の理由、例えば歴史的背景や言語構造の違いなどは変えることはできないが、英語教育は唯一改善が可能なものだと考えられる。また2.2節で、韓国、インド、フィリピン、ドイツの学校での英語教育について述べたが、本節では日本の学校での英語教育について詳しく述べる。

日本では明治維新による近代化以降、第二次世界大戦後にかけて、官民ともに、第一外国語としての英語教育が強化されていった（八田 2001）。特に第二次世界大戦後、英語教育ブームはピークに達した。1947年、義務教育の6-3システムが開始され、選択科目とし

て義務教育に英語が最初に導入された。1956年までに、すべての公立高校の入学試験の対象として英語が割り当てられた (Bok-Myung 2011)。

1984年には内閣総理大臣中曽根康弘が招集した臨時教育審議会によって教育制度の改革が始まった。1986年に発表された教育審議会の二つ目の報告では、英語教育の方法について深刻な改革が要求された。その時から「英語がコミュニケーションに使える」ということを生徒に伝えるために、文部科学省は多くの改革を導入していった。例えば、2003年の改革は、外国人母語話者の教員数を増やし、聴解試験を全国のセンター試験に加え、英語を義務科目として小学校で導入するという事だった。その後5年の間に実現された。それらの変更と同時に、2002年～2009年にかけて、「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール」(SELHi)という高等学校における先進的な英語教育を研究するための文部科学省主導のプロジェクトも実施された。さらに2011年から、文部科学省の新学習指導要領で、小学校での外国語(英語)活動が必修となった(Lingua 英会話教室 2011)。ただし、実際には小学校の英語授業では、カリキュラムに沿って生徒が英語に慣れるだけであり、英語をより深く理解するのではなく、また読み書きは教えない。2013年から、英語の授業は高校1年生から原則として英語で行うこととなり(加藤 2013)、また、同じく2013年に文部科学省が、翌年度から全国約50校を、英語を重視した「スーパーグローバルハイスクール」(略称SGH)として指定する方針を発表した(琉球新報 2013)。

近年、文部科学省は様々なさらなる教育制度の改革を導入してきている。文部科学省の2014年の「今後の英語教育の改善・充実方策について」という報告によると、5つの改革が必要とされている。

改革1. 国が示す教育目標・内容の改善

改革2. 学校における指導と評価の改善

改革3. 高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善

改革4. 教科書・教材の充実

改革5. 学校における指導体制の充実

これらの改革の具体的な内容としては、例えば英語授業開始学年を5・6年から3・4年に変え、授業数を増やすということが提案されていた。2018年までに、小学校のそれぞれの学年の1年間の授業数を、3・4年は0から15に、5・6年は35から50に増やし、そして2020年までには3・4年は15から35に、5・6年は50から75に増やすことが計画された。且つ、覚える語彙は小学校では600から700に増やし、中学校では1200から1600～1800に増やし、高等学校では1800から2500に増やし、その結果合計4000～5000単語になるということであった。覚える英単語数については、3000語以上覚えれば大抵の(英字)書物

や新聞が読めるようになるという主張が明治期から見られるが、1960年代には6700～6800であった。それがゆとり教育時になると2200に減り、その後2600まで増えたものを（池上・佐藤 2018）、2020年までにさらに増やすという計画であった。

教材も変更される予定であり、教科書は「Hi, Friends!」という新しい本に変更され、その上、小学校では聞く・話すだけでなく読み書きも教え、また中学校では英語の授業を高等学校のように英語で教えることも目指すとされていた。

3.2. 問題点

上記の改革が良いと考える人もいるであろうが、特に授業の方針、あるいは読み書きよりコミュニケーションや話す力に焦点を当てることは良くないと言っている識者もいる。例えば鳥飼久美子（2018）は、日常会話はコミュニケーションではないと主張している。鳥飼によると、文法と語彙の理解は他のスキルの基礎である読解によって培われ、改善されるということである。読解力に基づいて、生徒は聴解と作文のスキルを習得し、それらのスキルを使用することで、自分自身の考えを言い表し、表現することを学ぶそうだ。英語教育改革について、鳥飼（2018）は下のように批判している。

読書は、外国語を学び、使用するための出発点であり基盤である。過去数十年にわたって行われた改革では、その基本的な基礎を無視し、代わりに「コミュニケーション」は単に日常の会話であるという考えに焦点を合わせた。その決定の悲惨な結果が、高校生英語能力に関する最近の調査に反映され始めている。（筆者による翻訳）

また、制度的な変更があっても、問題をあまり解決できないという識者もいる。例えば、鈴木（1999）は、学校で教授法や教育制度が悪いので日本人が英語ができないという見解には賛成しておらず、より深い所に原因があると主張している。また、三重大学、南山大学、岐阜大学などで英語科目を担当しているベン・ギボンも、日本人の英語力の低さの原因は、書き読み中心、詰め込み式の勉強、文法の基礎や高頻度の単語を習得しないといった時代遅れの授業方針だと考えている。これは、文部科学省が提案した英語学習開始学年の引き上げ、授業数の増加、学習語彙数の増加では解決できない問題だと思われる。文部科学省の制度的及び焦点の変更も悪いとは言えないが、もっと深い層にある英語授業の問題に取り組む必要があると言えないだろうか。

3.3. 英語教員へのアンケート調査

三重大学教育学部附属中学校の英語教員の城所先生、鹿島先生、石井先生、松本先生に調査票にて質問を聞き、聴取した意見をここで述べる。

この調査票に答えていただいた先生方は、中学校で1年生から3年生までの生徒を教え、英語教員として9年間から40年間までの職業経験を積んでいる教員である。先生は全員、35人か36人のクラスを教え、授業の半分以上の時間で英語を使用している。なお、職業経験を積んでいけば積んでいるほど英語の使用が増えているそうだ。自分の生徒の英語力と発言数は5点満点中の3か4、生徒の協力は5点満点で3～5までと評価された。英語以外に、道徳の科目を教えている方もいる。

「どうやって生徒のやる気を高めていますか」という質問に対し、様々な答えがあったが、特に達成感を持たせるように授業を一步ずつ進めて簡単な課題に取り組みさせているといういことであった。他には、生徒の興味のあるもの（アニメーション、音楽、映画、等）や実生活と繋がっている教材の使用と、間違えても良いと伝えることが多いという。その上、今後、どのような場合にその表現を使うかの具体的にイメージを持たせたりもしてる。英語が下手な生徒へのアドバイスとしては、わからないときにグループのメンバーに聞いてみることに、とにかく単語が読めるようになること、書いて聞いて読んで動いて、全身を使って覚えることが挙げられた。仕事に対する個人的なご意見としては、大体の先生は英語教員として忙しいにも関わらず、教師という仕事に満足していると答えた。

最後に、文部科学省の近年の改革については、それらのいい面として、取り扱う語彙数が増えていること、実生活にリンクした題材になってきていること、授業の増加、自分の意見を表現し、書けることが重視されてきていること、「生きる上で必要な英語」にポイントが当てられていること（生徒にとって知識で終わらない）ということが答えられた。一方、悪い面については、「高校・大学入試は今もなお『話す』、『コミュニケーション』の力を重要視できていない」、「小学校の先生の『意識』によって子供たちの英語力に差が出てくること」といった一般的な教育制度などに対する批判や、「実際に使える機会が少ないので、もっと実践的に使えるような場を設定する」という改正案や、「今の生徒が粘り強く学習していけるか。途中で挫折しても構わないか」のような生徒に対する心配が挙げられた。文部科学省の改革は、教員が自分の授業を変えていく必要があり、コミュニケーションの場面、プレゼン、発表などが増えるという影響を授業に与えるという意見も挙げられた。

質問に答えた英語教員の文部科学省の改革に対する意見をまとめると、英語授業を改革すること、特に発表、コミュニケーションの場面といった自由に英語で意見を表現するのは

良いのだが、高等学校や大学の入学試験が話す力とコミュニケーション力を重視していかないと、授業の方針を変えるのも意味がないようだ。

3.4. 学生へのインタビュー

英語教員の方の意見を知った上で、学習者である学生は具体的にどう思っているか、日本の英語教育の短所は何だと思われるのかということも調査対象とした。二人の日本人にインタビューした結果をここで報告する。

佐次田もも

三重大学生物資源学部の3年生の佐次田さんは自分の英語力を低く評価し、学校で受けた英語授業に満足していないと述べた。短所は「日本語的な英語」、「カタカナ英語」とも言えるところや、話す機会の少なさや、入学試験のための勉強が中心だったということ等を挙げた。特に高等学校では試験問題を練習し、発表などはしていなかったということに言及した。自習としては洋画を観たり、洋楽を聴いたりしていると言っていた。より良い英語授業を受けられればよかったと考えているようだ。他人と英語だけで話せるかと聞いたら、海外のカフェや空港で何とかなると言われた。

文部科学省の様々な改革(3.1.参照)については、英語授業を「早く始めるのは良いと思いますし、幼稚園の頃に初めてもいいです。しかし、私の意見では、教える方法が最も重要です。外国の教育援助者と話す機会があることは、より重要です。」という意見が得られた。また、鳥飼の意見(3.2.参照)に関しては「確かに、きちんと話せるようになるには語彙が必要です。しかし、話す能力は非常に重要だと思います。言語を習得するということは、それを話すことに熟達することを意味します。コミュニケーションと提示ができることなど、すべての分野のバランスが鍵になると思います」と言われた。

松田みなみ

2020年に三重大学法律経済学科を卒業した松田さんに聞いたところ、佐次田さんと同様の答えが多く出てきた。例えば、自分の英語力が低く、学校の授業に不満があり、書き読みが中心で話したり発表したりする機会が少なかったということなどである。一般的に日本では英語が不可欠なスキルだと思っていないが、彼女は会社で国際貿易部に勤めているので、海外の方とメールでのやりとり、交渉をするために英語が必要である。そのため、松田さんも学校でより良い英語授業が受けられたら良かったと思っているとのことである。

文部科学省の改革については、小学校から英語を勉強するのは良いが、教えの方が重要だということ考えているようだ。また、話せるのが大事なので、それをより優先するほうが役に立つが、すべての分野のバランスも重要だとのことであった。

3.5. 学生へのアンケート調査

日本の学校での英語教育とその改革について、英語教員以外の一般的な日本人の意見をさらに聞くために、アンケート調査を行った。その結果をここに報告する。アンケートは Google Forms で作成し、SNS を使って配ったり、友人にそれぞれの知り合いに転送してもらったりした（アンケートの URL は参考文献表を参照）。質問は次のようであった：

質問 1 「あなたの性別」（選択回答）

質問 2 「あなたの年齢」（短文回答）

質問 3 「あなたの学部／職業」（短文回答）

質問 4 「あなたの英語力はどうか。」（5段階で回答）

質問 5 「英語能力試験を受けたことがありますか。」（選択回答）

質問 6 「どちらの試験を受けましたか。」（選択回答、複数選択可）

質問 7 「学校で受けた英語教育に満足していますか。」（5段階で回答）

質問 8 「学校の英語授業における短所は何だと思えますか。」（長文回答）

質問 9 「学校で受けてきた英語の授業は具体的にどのような授業でしたか。（例）英語の読み書き中心の授業・英語での発表等、意見を表現する授業」（長文回答）

質問 10 「授業以外で英語を勉強しましたか／していますか。」（選択回答）

質問 11 「どうやって勉強しましたか／していますか。」（選択回答、複数選択可）

質問 12 「英語だけで他人と話せると思えますか。」（選択回答）

質問 13 「グローバル化が進む現代社会では英語力（読むこと、書きこと、聞くこと、話すこと）が不可欠なスキルだと思えますか。それはなぜですか。」（長文回答）

質問 14 「あなたが学校で受けてきた英語教育は、大学や人生のために十分であったと思えますか。」（選択回答）

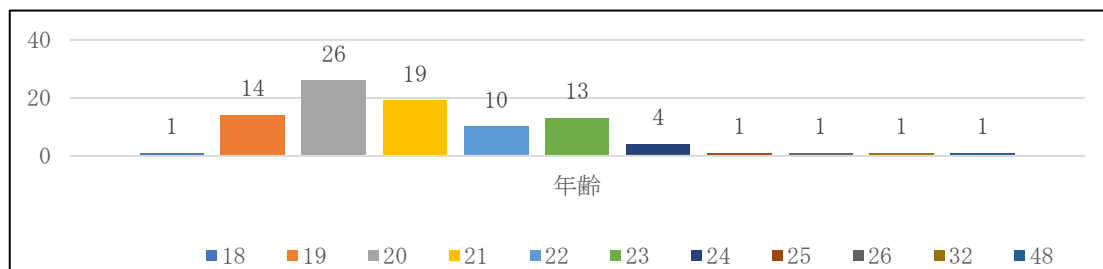
質問 15 「学校教育の中で、より質の高い英語教育を受けれた方が良かったと思えますか。」（選択回答）

質問 16 「文部科学省は今年度より小学校の英語授業開始学年を3年生に変え、学ぶ単語数を3000から4000～5000に増やしました。この変更に対してどう思いますか。（違いを生むと思えますか。）」（長文回答）

質問 17 「文部科学省は生徒の話す能力の向上に焦点を当てています。しかし「読むことは語彙や英語理解の基礎なので、ある言語を習得するには多読の必要性がある」と述べる人もいます。どちらの意見に賛成しますか。それは、なぜですか。」（長文回答）

回答者は 91 人で、性別の割合は男性 47.3%、女性 50.5%、他 2.2%である。また、図 1 が示すように、回答者の年齢は 19 歳から 20 歳が大半を占めた。

図 1 アンケート調査協力者の年齢



3.5.1 自分の英語力に対する自己評価

回答者の 95.6%は英語能力試験を受けたことがあり、一番多くの回答者が受けた英語能力試験は第 1 位が TOEIC、第 2 位が英検、第 3 位が TOEFL である。前述の 2.1 ではそのような英語能力試験の結果を国際比較したが、日本人は自分の英語力についてどう思っているのだろうか。筆者によるアンケート調査においては、を協力者に下のような質問を与えた。

質問 4 と質問 12 の、自分の英語力に対する評価について図 2、図 3 に示されるような回答が得られた。

図 2 質問「あなたの英語力はどうですか」の結果

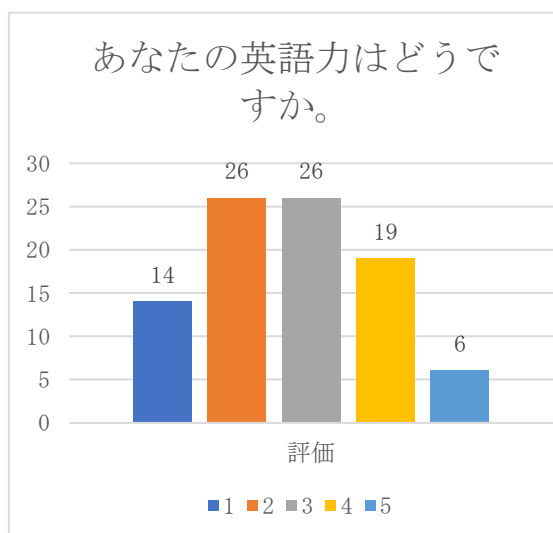
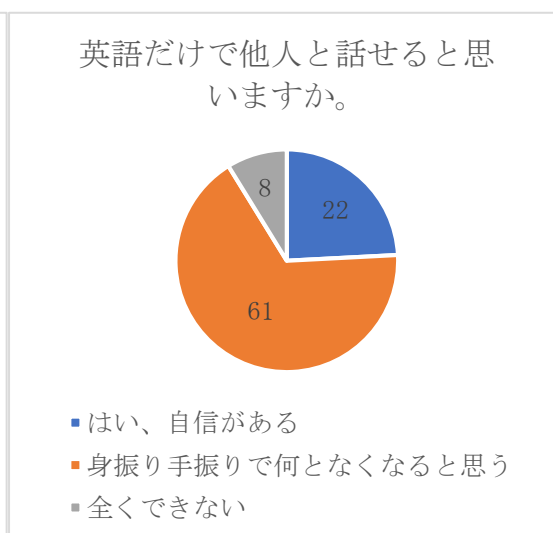


図 3 質問「英語だけで他人と話せると思えますか」の結果



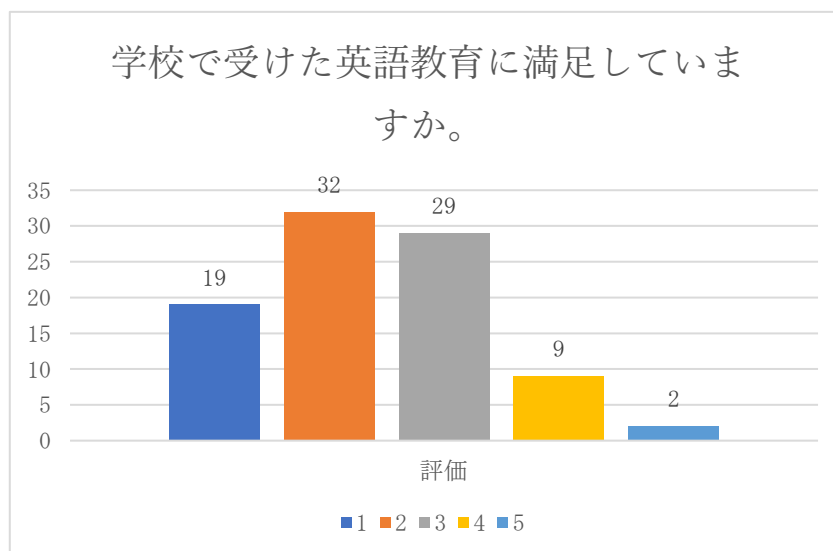
主観的な評価ではあるが、結果を見ると、1～5までの評価については40人が2点以下（平均以下）を選んだ。にも関わらず、質問12「英語だけで他人と話せると思います」に対しては、83人が他人と何となく英語で話せる自信があると思っていると回答した。

回答者の自己評価を所属・出身学部ごとに分けて平均値を計算すると、理系の平均値は2.54点で、文系な学部の平均値は2.88点である。なお、職業を2つのカテゴリのいずれかに割り当てることができる回答者（教師、ホテル、客室乗務員等は文系に含めるが、理系に割り当てることができる職業をしている回答者はいなかった）の回答を含めると、文系の回答者の平均値が2.98点に上がる。それほど大きな違いはないが、文系の方が英語に触れ、使用する可能性が高いため、英語力に自信を持っているという可能性がある。

3.5.2 英語教育に関する意見

回答者の自己評価だけではなく、その原因も知るために、質問7、8、9において学校での英語教育などについても調査した。質問3の結果を図4に示すが、学校で受けた英語授業に満足している回答者はあまりおらず、56%以上の回答者が不満であり、とても不満とする回答者は19人にのぼった。

図4 質問「学校で受けた英語教育に満足していますか」の結果



また、質問14の結果、学校で受けてきた英語教育は、人生のために十分だったと考えている回答者は16.5%しかいない。50%以上は、大学だけで十分だったと答え、33%はどちらも十分ではなかったと回答している。したがって、86.8%の回答者はより質の高い英語教育を受けられれば良かったと思っている。

その理由として質問 8「学校の英語授業における短所は何だと思いますか」を聞くと、第 1 位は「話す・聞く練習／機会が少ない (59.3%)」、第 2 位は「読み書き中心／入学試験のために勉強する (14%)」、第 3 位は「先生は英語が得意ではない／発音が良くない (10.9%)」、第 4 位は「実用的なことではなく、使わないことが教えられている (8.8%)」、第 5 位は「知識を暗記させられるだけ／詰め込ませられるだけ (6.6%)」という結果が得られた。

授業以外の英語勉強方法としては（複数選択可）、質問 11 の結果、第 1 位が「洋画を見る (58.4%)」、第 2 位が「洋楽を聴く (55.8%)」、第 3 位が「英語が話せる友達と練習する (33.8%)」、第 4 位が「英会話教室等に通う (21.1%)」、第 5 位が「自習（参考書、問題集、等） (14.3%)」という回答であった。生徒が自習として優先している勉強方法は、インタラクティブな勉強（映画、音楽、友達と会話）であるので、教員への調査票（3.3. 参照）で回答された教え方（全身を使って覚える）は生徒の意見と一致していると考えられる。

また、日本人の回答者には英語についてどう思っているのだろうか。質問 7 の結果から、91 人の協力者の中で 17 人しか「グローバル化が進む現代社会では英語力（読むこと、書きこと、聞くこと、話すこと）が不可欠なスキルである」という意見に賛成していない。不可欠だと回答した回答者は理由として様々なことを挙げた。例えば、「グローバル化が進んでいるので、日本に多くの外国の方が働きに来る」、「英語が仕事に便利」、「英語が世界の共通言語である」、「多くの文化的背景を持った人と交流できるように英語が必要である」などだった。不可欠ではない／あまり必要がないと答えた回答者は、「翻訳技術が進んでいるので、英語が話せなくても困らない」、「日本では必要ではない」などである。

質問 16 の結果、違いを生むと思っている回答者は 50 人で、あまり変わらないと答えた回答者は 20 人であった。単語数だけではなく、授業を楽しませることやコミュニケーション力を高めることも重要だという意見が得られた。また、英語の環境も必要であるという声や、小学生には英語より日本語（国語）を勉強させる方がいいという意見もあった。

さらに「文部科学省は生徒の話す能力の向上に焦点を当てています。しかし『読むことは語彙や英語理解の基礎なので、ある言語を習得するには多読の必要性がある』と述べる人もいます。どちらの意見に賛成しますか。それは、なぜですか。」という質問に対する回答の結果は次の通りである。41 人は話す力／コミュニケーション力に焦点にあてることに賛成し、19 人は多読の方が大事だと答え、28 人は両方を同じくらいするのが一番いいと回答した（その他の 3 人の回答は質問と関係ない答えだったので、ここでは言及しない。）。

上のように回答した理由として、話す力／コミュニケーション力の勉強を優先すべきとした回答者は「コミュニケーションが一番大事なので、話せるようにならないといけない」、「今までの授業では書き読み中心だったので、これから話す力を高めるのがいい」、「読むだけで流暢になれない」などを理由として挙げた。多読が必要だと思っている回答者は「日本ではあまり英語が話せる機会がないので、話せるようになるのは無駄で、読むことに焦点するほうがいい」、「英語の文法／難しいテキストをきちんと理解できるように多読が必要である」、「読んで単語を知れば知るほど英語を頑張るモチベーションが出てくる」と答えた。両方を同じように教えてほしいという回答者は「大学では読んで理解できるだけで十分かもしれないが、職業で英語を話すことができればいい」、「読書は一人でできることだから、授業で会話も練習すればいい」という意見であった。

4. 英語教育制度の改善案

日本の英語教育制度に短所があるという可能性を前述したが、本章ではこれらをどうやって改善できるのかについて論じる。上記に述べたアンケートでも様々な意見が得られたが、鈴木（1999）は、日本語の学校の教科書の英語を「冷たい英語」と呼び、英語作品を分解して理解し、結局覚えて暗記したりするのを「面倒な仕事」と言う。鈴木によると、教育制度よりも授業の内容に問題があると思われるので、いくらこのような形と内容の授業を増やしてみても、また学習年数をいくら伸ばしても、さっぱり効果が上がらないということである。「現在の英語の授業は今述べたような、色々な歴史的事情や行きがかりのために、私から見れば枝葉末節、あるいは見当違いなことに力が分散しているので、学生たちは英語を何年やっても一向にできるようにならないのです。」と鈴木は主張している（鈴木 1999, p. 97）。さらに鈴木的主張によると、英語が身につくようにするためには、学習目的を絞って、効率を上げる必要があるとされている。それは「英語教育の授業な柱の一つとして強調する「国際理解」や英米の文化や文学といったものすべてを英語のクラスから追い出すこと」を通じて達することができるということである（鈴木 1999, p. 97～98）。その代わりとして、「自分たちが日々の生活の中で経験する基本的な身体精神現象を、生徒たちが簡単な英語で表現できることを目標に指導する」ことが必要であると考えられる（鈴木 1999, p. 111）。例えば、英語で短い日記をつけることなどは、そうした取り組みの一例である。

また、三重大学教育学部の英語教員であるベン・ギボン氏の教育学哲学によると、日本の教育現場でアクティブ・ラーニングと呼ばれる active-learning philosophy (ALP) という考えは非常に重要であるという。生徒は、サッカーの選手のように、覚えたいスキルを使

わなければ習得できない。また、日本の外国語青年招致事業（JETプログラム）のような、ただ母語の英語で文章を繰り返してのティーチングアシスタントの雇用にはあまり意味ないとも言っている。ギボン氏が推奨するのは、間違いを恐れずに素早い回答を高く評価する採点システムで生徒のやる気を引き出すという方法である。また ESP (English for Special Purposes) というコンセプトもあり、それは授業がクラスのニーズに合わせて調整されるアプローチである。例えば工業大学では、「これはペンです」のような標準的なフレーズではなく、工業的な學術用語が教えられることになる。このような授業内容の適正化はクラスレベルで行うことができ、学生は少なくとも将来の職業で必要になる語彙を習得することができる。

5. 他の活動

5.1. ベン先生へのインタビュー

上述したイギリス出身の英語教員であるベン先生に行ったインタビュー結果についてここで述べる。

ベン先生は出身のウェールズの私立学校で7年間教え、3年前日本の教育制度を知りに来日した。日本で、私立高等学校で英語を教えてから、大学の英語嘱託講師になった。面白いのはベン先生の高等学校の行動であり、そこの英語授業を全く改善したということだ。学校に資金手当をもらって「Planet English」（英語惑星）という英語教室を創り出した。どうやって英語教員や校長などを説得できたかという、最初は学生を、毎日の英語の挨拶や親切に話してあげて説得し、他の教員や校長に英会話室の重要さや必要を説明し、飲み会にも行った。結局、資金手当をもらったので、新しい英会話室が創れた。それはどう普通の教室と違うだろうか。一つの壁に黒板があり、先生が前で生徒たちに話す部屋ではなく、各壁に黒板があり、机をパズルピースのように組み合わせることができてグループワークがやりやすく、自分で生徒に説明するより、先生は内容を教えて机を回っているというところは普通の教室と違う。

ベン先生の「Planet English」や学生に対する積極的なアプローチのおかげで、学校で英語が環境にあり、生徒は迷うことなくすぐ英語で答えたり、アクティブな仕方で英語が楽しめて勉強したりできるようになった。

5.2. 松阪市第3小学校における発表

毎年、三重大学に通っている留学生は松阪市の小・中学校で3・4年生に自分の国について発表することになっている。それは、日本の小学校を訪問できる機会であるだけでなく、

日本の生徒と先生にドイツの文化が紹介できるいい機会だと考えたため、2020年の発表会に申し込むことにした。

1月21日にディン・ゴック・チャン・アインさん（ベトナム）、チョウ・タンエイさん（中国）、サーティア・スイリンヤーさん（タイ）と一緒に松阪駅に向かった。そこで、発表会の前にメールをくださった中谷先生にお会いし、車で第三小学校まで送っていただいた。当日は生徒の保護者が学校を訪問する日であったので、生徒と先生に発表するだけでなく、保護者にも発表することになり、緊張した。発表会には、夕刊三重新聞の記者もいた。

(夕刊三重、2020年1月29日)

2020年(令和2年)1月29日 水曜日

夕 刊 三 重

第三小 外国人から文化学ぶ

3、4年生に
4人が授業
三重大留学生在が母国紹介

外国人児童が21人通学している松阪市西之庄町の市立第三小学校(小筆 邦昭校長、232人)で28日午後1時45分から、三重大留學生を招いての異文化学習と、インターネットビデオ電話を使ってフィリピンの児童と会話を楽しむ国際交流授業が行われた。

異文化学習は松阪市教育委員会事務局学校支援課と市子ども支援研究センター、三重大学芸術情報部国際交流チームの主催。三重大の留學生で中国出身のチョウ・タンエイさん(21)、ドイツ出身のシューゲミユラー・トアベンさん(22)、ベトナム出身のディン・ゴック・チャン・アインさん(22)の4人が来校し、3、4年生計83人と交流した。トアベンさんは3年生にクイズ形式でドイツについて紹介した。ドイツの学校では児童が掃除をせずに掃除専門の人がいると話す児童たちは「いいな」と声を上げていた。食べ物も紹介し、「パンとビールが有名。パンは日本と違って学ぶ3年生たち

トアベンさんからはドイツの通貨などの文化について学ぶ3年生たち

田中凛乃さんは「ドイツの食べ物がおもしろくて食べてみたい」と紹介すると、児童たちは興味津々の表情で聞き入っていた。



筆者はチョウ・タンエイさんと共に3年生にドイツと中国の紹介をし、サーティア・スイリンヤーさんとディン・ゴック・チャン・アインさんは4年生にタイとベトナムを紹介した。より多くの生徒が参加できるように、発表に選択問題を加えた。ドイツの地理、通貨、食事、スポーツなどについて発表し、ドイツと日本の学校の違いも紹介した。ドイツには生徒が教室を掃除しないで掃除婦にしてもらおうということを知り、「いいな」と答えた生徒もいた。最後にドイツの名所を紹介し、発表を終えた。

(ドイツの紹介に用いたスライド)



発表の後、質疑応答を行ったところ、少々ためらってから一人の男の子が手を挙げて「足を包帯で巻いていて、どうしましたか」と聞いた。（バレーボール練習で足首を捻挫したので松葉杖で学校に行ってきた）その質問に答えたところ、他の生徒も勇気を持って、ドイツの食文化や自分が子供のころに見ていたアニメをはじめとしていろいろな質問をした。

留学生は発表終了後、小筆邦昭校長と田川先生に会い、外国での経験について話し合った。その後、中谷先生が留学生の私達を駅まで見送ってくださった。そこで、これまでは「先生には絶対になりたくない」と思っていた考えが変わった貴重な体験が終わった。

6. 終わりに

本稿では、なぜ日本が国際的な平均より英語能力試験の結果が低く、特にコミュニケーション力が低いかについて考察した。その結果、以下の5点が明らかになった。

1) 他国に比べて国際交流の機会が少なく、英語が使えなくても困らないという環境、2) 他国による植民地支配の経験が少ないという歴史的背景、3) 英語と日本語の文法的な違い、4) 大学合格を目的とした読み書き中心の英語教育、5) 日本と欧米の文化的な違いなどが要因として挙げられた。また、日本と他国の英語教育制度や環境を比較すると、1) 英語授業開始学年や授業の方針、2) 英語が指導媒体として使用されているかどうか、3) 英語に触れる環境があるかどうか、4) 将来のための英語力の重要さがよく意識されているかなどという違いが見られる。さらに、文部科学省が導入した改革についても調査を行った。その結果、改革は実際にあまり違いを生まないという意見が多いことが明らかになった。こうした考察や調査協力者の意見から、日本の学校における英語教育は、「国際理解」という内容より、実生活と繋がっている英語を中心とした授業方針を重視すべきであることが分かった。

例えば、英語での日記課題、active-learning philosophy、特定の目的を持った生徒に応じた英語教育、ESP などが改善案として考えられよう。

2020年の今年は新型コロナウイルスの影響で様々な予期せぬことがあり、残念ながら計画通り実際に中・高等学校を訪問することは叶わなかったが、多くの方のインタビューと松阪市第3小学校の訪問によって、教師という仕事の魅力を改めて感じた。そして、将来、教師として働いてみたいという気持ちも生まれた。一人の教員として、学校制度や教育制度をより良くしていけたらと考えている。

謝辞

この実践報告書を作成するにあたり、多くの方にお世話になりました。指導教員の松岡先生、レポートの書き方を教え、手伝ってくださった正路先生、英語の先生を紹介してくださった吉田さん、インタビューに協力してくださったベン先生、稲藪先生、小牧先生、早瀬先生、三重大学教育学部附属中学校の新田校長先生、アンケート調査票に回答くださった城所先生、鹿島先生、石井先生、松本先生、松阪市第3小学校の小筆校長先生、中谷先生、田川先生、チューターの佐次田ももさん、大切な落合均美さん、友達の松田みなみさん、ティム・ホルツシュウさん、比嘉夢佳さん、アンケートに回答くださった皆様に心からお礼申し上げます。

注

注1 連邦州は連邦共和国の一部であり、州独自の立法機関、行政機関、司法機関がある。ドイツには16の連邦州がある（CECU.DE）。

参考文献

- 池上彰・佐藤優（2018）．『知らなきゃよかった 予測不能時代の新・情報術』．文春新書．
- 加藤由美子（2013）．「2013年度新課程・高校英語『授業は英語で』は何のため？【前編】
高校の授業は既に、英語で行われている!？」，『ベネッセ 教育情報サイト』
<<https://benesse.jp/eigo/201309/20130903-1.html>> 2020年7月4日閲覧．
- 学生へのアンケート：<https://forms.gle/eygxQupRYPAnJwAa8>．
- 鈴木孝夫（1999）．『日本人はなぜ英語ができないか』．株式会社岩波書店．
- 総務省統計局（2020）．「世界の統計2020」，『総務省統計局ホームページ』．<<https://www.stat.go.jp/data/sekai/pdf/2020al.pdf#page=9>> 2020年6月25日閲覧．
- 鳥飼久美子（2018）．「Chronic Reforms and the Crisis in English Education」，
『Nippon.com ホームページ』．<<https://www.nippon.com/en/currents/d00412/chronic-reforms-and-the-crisis-in-english-education.html>> 2020年6月25日閲覧．

- 八田洋子 (2001) . 「世界における英語の位置」, 『文教大学文学部紀要委員会 編』 . <
<https://www.bunkyo.ac.jp/faculty/lib/klib/kiyo/lit/11402/1140203.pdf>>
2020年7月4日閲覧.
- ハンブルクの自由およびハンザ同盟都市の法律集 (1890) . 「Gesetzsammlung der freien
und Hansestadt Hamburg」 . Th. G . Meißner , E . H . Senats Buchdrucker,
Hamburg, § 32.
- 文部科学省 (2014) . 「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化
に対応した英語教育改革の五つの提言～」 『文部科学省ホームページ』 . <https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352464.htm
> 2020年6月25日閲覧.
- 琉球新報 (2013) . 「『グローバル高校』50校指定へ 英語で授業も、来年度から」,
『琉球新報のホームページ』 . <<https://archive.fo/20130625134525/http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-207244-storytopic-1.html>> 2020年7月4日閲覧.
- Bok-Myung Chang (2011) . 「The Roles of English Language Education in Asian Con-
text」, 『Journal of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics (191-
206)』 . <<https://files.eric.ed.gov/fulltext/EJ939947.pdf>> 2020年7月4
日閲覧.
- CECU.DE (2020) . 「Bundesland」, 『Lexikon Politik, CECU ホームページ』 . <<https://www.cecude.de/lexikon/politik/1707-bundesland.htm>> 2020年7月8日閲覧.
- EF EPI (2019) . 「EF English Proficiency Index, A Ranking of 100 Countries and
Regions by English Skills」, 『EF ホームページ』 . <[https://www.ef.com/
~/media/centralefcom/epi/downloads/full-reports/v9/ef-epi-2019-
english.pdf](https://www.ef.com/~media/centralefcom/epi/downloads/full-reports/v9/ef-epi-2019-english.pdf)> 2020年6月25日閲覧.
- Hogan, Jemal (2015) . 「Koreans and Studying English (part I)」, 『Hi Expat ホーム
ページ』 . <[https://www.englishspectrum.com/koreans-and-studying-english-
part-i/](https://www.englishspectrum.com/koreans-and-studying-english-part-i/)> 2020年7月8日閲覧.
- Lehrplan Gymnasium (2019) . 「Lehrplan Gymnasium Englisch」 . Sächsisches
Staatsministerium für Kultus, Dresden. <[https://www.schule.sachsen.de/
lpdb/web/downloads/2456_lp_gy_englisch_2019_final.pdf](https://www.schule.sachsen.de/lpdb/web/downloads/2456_lp_gy_englisch_2019_final.pdf)> 2020年7月4日閲覧.

- Lingua 英会話教室 (2011) . 「NEWS - 2011 年 4 月より小学校 5,6 年生の英語が必修化に」, 『Lingua 英会話教室のホームページ: 英語・海外関連のニュース』 . <<https://linguaenglishschool.wordpress.com/2011/01/08/%E5%B0%8F%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E8%8B%B1%E8%AA%9E%E7%BE%A9%E5%8B%99%E5%8C%96/>> 2020 年 7 月 4 日閲覧.
- Martinez, Julius C. (2017) . 「English language education in Japan, Indonesia and the Philippines: A Survey of Trends, Issues and Challenges」, 『新潟国際情報大学国際学部紀要, 2, 83-93』 . <<http://cc.nuis.ac.jp/library/files/kiyou/vol021/7%E3%83%9E%E3%83%AB%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%8D%E3%82%B9.pdf>> 2020 年 7 月 8 日閲覧.
- RUB (Ruhr University Bochum) (2010) . 「Kenya」, 『The Bochum Gateway to World Englishes ホームページ』 . <<https://www.ruhr-uni-bochum.de/wegate/Africa/Kenya.html>> 2020 年 7 月 1 日閲覧.
- Tran, M. (2018) . 「How Singapore became an English-speaking country」, 『The PIE Blog ホームページ』 . <<https://blog.thepienews.com/2018/12/how-singapore-became-an-english-speaking-country/>> 2020 年 7 月 1 日閲覧.
- TOEFL ITP TEST (2017). 「Test and Score Data Summary」, 『ETS TOEFL ITP ホームページ』 . <https://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227_unlweb.pdf> 2020 年 6 月 25 日閲覧.
- TOEFL ITP TEST (2018) . 「Test and Score Data Summary」, 『ETS TOEFL ITP ホームページ』 . <https://www.toefl-ibt.jp/dcms_media/other/toefl_data.pdf> 2020 年 6 月 25 日閲覧.
- TOEIC (2017) . 「Report on Test Takers Worldwide」, 『ETS TOEIC ホームページ』 . <<https://www.ets.org/s/toeic/pdf/2017-report-on-test-takers-worldwide.pdf>> 2020 年 7 月 6 日閲覧.
- TOEIC (2018) . 「Report on Test Takers Worldwide」, 『ETS TOEIC ホームページ』 . <<https://www.ets.org/s/toeic/pdf/2018-report-on-test-takers-worldwide.pdf>> 2020 年 7 月 6 日閲覧.

<要約>

In this project I looked at the English education system in Japan, specifically its history and reforms, and worked out flaws and possible improvement strategies by interviewing English teachers (Japanese and Welsh) of junior high school, high school and university. By handing out surveys to over 90 young Japanese people I was able to get a grasp of their thoughts and worries about the English education in Japanese schools. Furthermore, I visited a Japanese elementary-school and presented my home country, Germany.

In my search for the reasons why Japanese score below average on standardized English tests and why they lack communication skills in comparison to their written performance, I discovered the following five things: 1. Compared to other countries, there are little possibilities for international exchange in Japan and Japanese people don't need to be able to speak English in their daily lives; 2. Japan wasn't under the same kind of colonization that other countries experienced, so English never became a main language; 3. There are substantial grammatical and pronunciation differences between English and Japanese, which make it difficult for Japanese to learn English; 4. The goal of the Japanese English education is to prepare the students for their entrance exams for high school and university, which don't yet have a speaking test included, making reading and writing skills the most prominent focus of English classes; 5. There are cultural differences between Western people and Japanese, which stand in the way of properly learning and practicing the English language (i.e. expressing ones opinion openly, holding presentations, etc.). A comparison between the Japanese English education system and its English environment with other countries shows the following differences: 1. The starting year for English classes in Japan is later and their contents differ; 2. English is not being used as a teaching tool in Japan outside of English classes; 3. In Japan there is no environment which provides contact with the English language (e.g. English movies and newsletters, etc.); 4. Japanese don't have the same kind of awareness of the importance of English skills as other countries (e.g. Korea). In relation to the reforms the Ministry for Education has put in place in the last couple of years, a lot of people, teachers and students alike, do not think that they are going to have the desired effect. One would need to shift the focus of the English classes even more, away from the so-called "international understanding" (*kokusairikai*), and focus on exercises, that are linked to the daily lives of the students, like writing a diary, etc. (active learning-philosophy).

Lastly, I want to mention that due to the COVID-19 pandemic this year I was unfortunately not able to go to junior high schools and high schools, to personally partake in English classes and experience them first hand, however, because of the many interviews I did and my visit to the elementary school in Matsusaka-shi (松阪市第3小学校) I was once more impressed with the work teachers do and see it now as a reasonable possibility to work in education myself in the future.



三重大学 (三重県)



将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指し、国際的に活躍する人を育てるためのコースです。

■大学紹介

①大学の特色及び概要

◆三重大学は総合大学で、人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部の5学部があります。また、大学院は地域イノベーション学研究科を加えた6研究科があり、キャンパスは津市にあります。自然環境に恵まれ、キャンパスのすぐ東側には海岸の波が打ち寄せ、北西には鈴鹿の山が連なります。

◆学生数・教員数：

学部学生数：6,055名

大学院生数：1,138名

教員数：792名

外国人留学生数：298名（35カ国）

〈2018年5月1日現在〉

◆環境先進大学：

本学は国際規格であるISO 14001の認証を受けて様々な環境・マネジメントシステムを構築しています。

②国際交流の実績

◆三重大学は、外国の119大学・機関と、大学間または学部間の学術交流協定を結んでいます。これらの大学とは、教員・学生の交流、学術情報の交換などを行っています。

〈2018年5月1日現在〉

③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研究生）の受入れ実績

	留学生	日研究生
2016年度	313名	4名
2017年度	316名	4名
2018年度	298名	4名



④地域の特徴

◆津市は、三重県の県庁所在地です。人口は約28万人、温暖な気候で暮らしやすいところです。交通も便利で、大阪へのアクセスは約1時間半、京都へは約2時間、東京へも約3時間です。

◆三重県は、歴史や文学・国学の豊かなところです。すでに8世紀には『万葉集』の詩歌にうたわれ、多くの小説の舞台となりました。三島由紀夫が小説『潮騒』に描いた神島も、ここ三重県にあります。俳句を詠んだ松尾芭蕉は現在の三重県の地に生まれ、「文学の神様」と呼ばれる横光利一も中学時代を三重県で過ごしました。

◆県内には多くの史跡や名勝があり、観光客もたくさん訪れます。伊勢神宮を中心とした歴史的建造物、古い宿場町や歴史街道も残っています。また、熊野古道は、2004年7月に世界遺産に登録されました。

◆県内にある鈴鹿サーキットは、「日本のモータースポーツの聖地」と言われてきました。F1日本グランプリが開かれることにより、世界各国から多くのファンが集まります。

◆三重大学国際交流センターは、三重大学における国際交流の要として、本学の国際的な教育研究の充実、および地域の国際化に寄与することを目的とし、様々な国際的な活動の企画・推進を行っています。



伊勢神宮 内宮



鈴鹿サーキット



伊賀上野城



86 三重大学国際交流センター

■コースの概要

① 研修目的

日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行います。

② コースの特色

- 将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目標している人のためのコースです。
- 自分のレベルに合わせて、中級後半から上級レベルの日本語を集中的に学習します。
- それぞれの指導教員の下、各自が設定したテーマや、基礎的な研究や報告書の書き方について学ぶことができます。
- 地域住民および三重大学生、在日外国人・留学生との相互交流を通して、日本文化や異文化への理解を深めることができます。

③ 受入定員

5名（大使館推薦1名，大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

次の(1)と(2)の両方の条件を満たすこと。

- (1) 本国の4年制大学において、日本語・日本語教育・日本文化関係を専攻している人（2年生以上）。
- (2) 日本語能力試験N2以上か、それに相当する日本語力がある人（語彙を約4,000～6,000語、漢字を約600～800字以上、既に習得している人）。

⑤ 達成目標

日本語・日本文化研究を通して、母国と日本のかけはしとなる学生の育成。

⑥ 研修期間

2019年10月1日～2020年8月31日
修了式は8月31日までに開催予定

⑦ 研修科目の概要・特色

コースに入りしだい、日本語レベル判定試験を受けます。その結果により中級Ⅱレベルと上級レベルにわかれます。

1) 必修科目

◆中級Ⅱ

授業名 (90分×16回)	主な目標
文法・読解	中・上級レベルの表現文型を体系的に学び、運用する力を身につける。
読解・作文	大学の専門分野の学習への橋渡しとして、高度な文章を総合的に読解できる力をつける。
聴解・会話	映画・アニメーション・ドラマ等の視聴を通して、生の日本語を聞き取り、意見交換を通して聴解・会話力を高める。
日本語・日本文化演習	自分の専門分野に関する研究を進め、研究レポートを書くための指導を受ける。
日本事情Ⅰ (三重の社会と文化)	日本と三重県の社会文化環境を学外研修などを通して理解し、楽しむ。

◆上級

授業名 (90分×16回)	主な目標
上級総合日本語Ⅰ	論文の読解を通して学術的な文章の基礎を学ぶ。また、実際の調査活動を通して小論文の作成方法を学ぶ。
上級総合日本語Ⅱ	三重大学生とのディスカッションを通して、日本社会・文化への理解を深めたり、自分の意見を発表したりする。
日本語・日本文化演習	自分の専門分野に関する研究を進め、研究レポートをまとめるための指導を受ける。
日本事情Ⅰ (三重の社会と文化)	日本と三重県の社会文化環境を学外研修などを通して理解し、楽しむ。

*上級レベルの人は中級Ⅱの授業科目を、中級Ⅱレベルの人は中級Ⅰの授業科目を選択して受講することもできます。合計7科目を履修します。

2) 見学、地域交流等の参加型科目

「日本事情Ⅰ：三重の社会と文化」（必修）では、三重県内の農園公園（モクモクファーム）や寺社等について調べ、実際にバスで訪問して地域の社会や文化、産業について学びます。

3) 修了研究の内容

日本語や日本文化、または三重県に関するテーマを決めて、担当教員の指導のもと研究を進めます。
2月初旬：中間発表会 7月中旬：最終発表会
8月末：研究レポート提出〆切

4) 日本人学生との共修の機会

国際交流センターが全学（教養教育院）に開放している科目では、すべて日本人学生と共に学ぶことができます。日本語による科目は以下の通りです。

- 上級総合日本語Ⅱ（留学生と共に学ぶ日本）
- 日本事情Ⅱ（メディアと日本）

5) その他の講義、選択科目等

- 必修科目のほかに、以下のような選択科目があります：上級へのステップアップ・メディアと日本・英語等による国際教養科目（世界遺産と私たち・環境問題と地球・英語でエッセイ）
- 上記の国際交流センターの科目のほかに、5学部の科目を選択し、受講することもできます。



研究発表会の模様（昨年度）

⑧ 年間行事

◆秋学期（後期）

- 9月下旬 渡日
オリエンテーション
クラス分けテスト
ウェルカムパーティ
授業開始
- 10月
- 11月 大学祭
- 12月 研修旅行
国際交流ディズ
- 2月 期末テスト
プロジェクト中間発表



◆春学期（前期）

- 4月 授業開始
- 7月 プロジェクトの最終発表
- 8月 盆踊り大会参加
プロジェクトのレポート提出
修了判定/修了式/帰国



⑨ 指導体制

- 福岡昌子教授（専門：音声・第二言語習得）
- 松岡知津子准教授（専門：文法）
- 栗田聡子准教授（専門：メディア心理学）
- 正路真一助教（専門：心理言語学）

⑩ コースの修了要件

日本語日本文化演習AB及び各レベルの必修科目及び選択科目から合計7コマ以上受講し、日本語による研究成果発表会を行います。成績判定は、教員による成績会議で総合的に判断されます。コース修了が認められた学生には、成績証明書を発行します。

■宿 舎

三重大には現在留学生用の宿舎が3つあり、「外国人留学生寄宿舍」は、留学生と日本人学生が部屋をシェアして共同生活し、異文化交流を通してグローバルな視点を持てる場となっています。

- ①外国人留学生会館（1988年建設）
月額 6,900円～14,000円
- ②外国人留学生寄宿舍（2009/15年建設）
月額 7,500円～30,000円
- ③国際女子学生寄宿舍（1973年建設）月額 5,900円



上（左）外国人留学生寄宿舍外観
（右）同 共用キッチン
下（左）同 シェアルームのダイニング
（右）国際女子学生寄宿舍居室

■修了生へのフォローアップ

修了生と在校生の交流を目的に、12月の国際交流ディズで交流パーティを開く予定をしています。

■その他の学習支援体制

- ①日本語チューター
三重大学生が留学生の日本語の向上や日本文化への理解を深める機会を与えます。日常生活のサポートもします。
- ②てらこやサークル
三重大学生による日本語学習のボランティアサークルです。一緒に会話の練習をしたり、日本語の宿題をみてもらうことができます。

■ホストファミリー・プログラム

希望する留学生は「セカンド・ホーム」というプログラムに登録し、週末や休日を一緒に楽しく過ごすためのホスト・ファミリーを持つことができます。約30年の歴史を持つ市民交流プログラムです。



三重大上浜キャンパス

シロモチくん
(津市PRキャラクター)

■問合せ先

<担当部署>
三重大学学術情報部国際交流チーム

住所： 〒514-8507
三重県津市栗真町屋町1577

TEL： +81-59-231-9688（直通）
FAX： +81-59-231-5692
Email： ryugaku@ab.mie-u.ac.jp

<ウェブサイト>
三重大学国際交流センター：
<http://www.mie-u.ac.jp/international/index.html>
三重大学：
<http://www.mie-u.ac.jp/>



Mie University (Mie)



This course is for international students who intend to research or work on Japan or the Japanese language and play globally active roles in their futures.

University Overview

(1) Outline of University

◆ Mie University consists of five undergraduate faculties (Humanities, Law & Economics/ Education / Medical study / Engineering / Bioresources) and six graduate schools including the Graduate School of Regional Innovation Studies. The campus is located in Tsu city, which is blessed with an excellent natural environment facing a beach to the east and the Suzuka Mountains to the north-west.

◆ Numbers of Students and Staff :

Undergraduate Students : 6,055

Graduate Students : 1,138

Teaching Staff: 792

International Students : 298 (35 countries)

< As of May 1, 2018 >

◆ Environmentally Friendly and Advanced University :

Mie University was granted the certification for ISO14001, Environmental International Standards, and has established a variety of environmental management systems.

(2) International Exchanges

◆ Mie University has partner-university or partner-faculty academic exchange agreements with 119 institutions for the advancement of the exchange of students, researchers, and academic information.

< As of May 1, 2018 >

(3) Numbers of International Students (IS) and those in the Japanese Language and Culture Studies (JLCS) Course

	IS	JLCS
Year 2016	313	4
Year 2017	316	4
Year 2018	298	4



Ise Grand Shrine



Suzuka Circuit



Iga Ueno Castle



89 CIER, Mie University

(4) The Region

◆ Tsu city is the prefectural capital of Mie prefecture with a population of approx. 280,000. It is comfortable to live in with a mild climate throughout the year and convenient to access other cities: 1.5 hours to Osaka; 2 hours to Kyoto, and 3 hours to Tokyo.

◆ Mie prefecture is known for its rich history and culture. The region has been referred to in many literature works, including *Manyoshu*, a poetry anthology compiled as early as the 8th century. Also, *Shiosai*, a novel written by Yukio Mishima, is set in Kamijima Island of Mie, Matsuo Basho, the greatest haiku poet, was born in Iga in Mie, and Riichi Yokomitsu, known as the "God of Literature," spent his junior high school days in Iga.

◆ Mie is known for its rich historical sites and resort areas. Historical architectures such as the Ise Grand Shrine, traditional towns, and ancient streets have been well preserved. *Kumano-kodo* (the ancient pilgrimage routes of Kumano) was registered as a World Heritage Site in July, 2004.

◆ The Suzuka Circuit is referred to as the "Holy place of Japanese motorsports" and is the site of the Formula 1 Japanese Grand Prix. This event attracts fans from all over the world.

◆ Center for International Education and Research (CIER) of Mie University plays a central role for the international relations of the university and is engaged in international activities, events and projects with the intention of the globalization of the university education and its region.

■ Course Overview

① Course Objectives

A course intended mainly to study about Japan and Japanese culture with supplementary study to improve Japanese language proficiency.

② Course Features

- This course is designed for students who plan to do research or work in a field related to Japan or the Japanese language.
- Students will engage in intensive Japanese language study according to their respective proficiency levels, upper-intermediate (Intermediate II) or advanced.
- Each student is assigned an academic advisor and receives personalized tutoring in basic research methods and writing research articles.
- Through interaction with Japanese students, foreign nationals living in Japan and other international students, course participants will gain deeper understanding of the Japanese and other cultures.

③ Number of Students to be Accepted

5 students (1 with Embassy Recommendation & 4 with University Recommendations)

④ Qualifications and Conditions

Applicants should meet both conditions (1) & (2):

- (1) Undergraduate students (in the second year or above) at home institutions who major in Japanese language, Japanese language education, Japanese culture, or related fields.
- (2) Students who have passed the Japanese Language Proficiency Test Level 2 or 1, or who those have the equivalent proficiency (e.g., Those who have mastered 4,000 to 6,000 words and 600 to 800 Kanji).

⑤ Course Goal

To develop abilities to build cultural-interactive bridges between home countries and Japan through the study of Japanese culture and language.

⑥ Duration

October 1, 2019 to August 31, 2020
Closing Ceremony will be held before August 31, 2020.

⑦ Outline of Classes

New students in this program take a placement test to be placed either in the advanced course or the upper intermediate (Intermediate II) course

1) Requisite Classes

◆ Upper Intermediate Level (Intermediate II)

Class (90 min x 16 class meetings)	Objectives
<i>Grammar & Reading</i>	To study intermediate and advanced levels of expression patterns and to acquire the ability to use them properly.
<i>Reading & Writing</i>	To acquire the ability to read advanced academic writings as the preparation for the study in one's major field in Japanese.
<i>Listening & Conversation</i>	To improve listening and conversational abilities through movies, animation and drama, as well as through active conversation exchanges with classmates.
<i>Japanese Language and Culture Studies (JLCS)</i>	To study in one's major field and to write a research paper in Japanese with tutorials from academic advisors.
<i>Japanese Culture & Society I</i>	To learn and enjoy the society and culture of Mie prefecture through field studies.

◆ Advanced Level

Class (90 min x 16 class meetings)	Objectives
<i>Advanced Comprehensive Japanese I</i>	To read journal articles to study the basis of academic writing and to learn how to write a research paper in Japanese.
<i>Advanced Comprehensive Japanese II</i>	To discuss with Japanese students, to present one's own opinions, and to gain deep understanding of Japanese society and culture.
<i>Japanese Language and Culture Studies (JLCS)</i>	To study in one's major field and to write a research paper in Japanese with tutorials from academic advisors.
<i>Japanese Culture & Society I</i>	To learn and enjoy the society and culture of Mie prefecture through field studies.

* Advanced level students can also take upper intermediate (Intermediate II) classes as needed. Upper intermediate (Intermediate II) level students can also take lower intermediate (Intermediate I) level classes as needed. A student is required to take 7 or more classes per semester.

2) Field-Study & Region-Interactive Class

- *Japanese Culture & Society I (The Society and Culture of Mie)* requires students to visit regional farming park, shrines, etc. as field trips to learn culture and industries in Mie prefecture.

3) Research for Japanese Language and Culture Studies (JLCS)

Students select a research topic that is relevant to Japanese language, Japanese culture, or Mie prefecture and conduct the research under advisors' directions.

4) Studies with Japanese Students

Mie University Center of International Education and Research (CIER) opens classes to entire university (College of Liberal Arts and Sciences), which both international students and Japanese students may enroll. Among the classes, those taught in Japanese are:

- *Advanced Comprehensive Japanese II (The study of Japan with International Students)*
- *Japanese Culture and Society II (Media and Japan)*

5) Other Classes, Elective Courses, etc.

- In addition to the requisite classes, students may also enroll in the following elective classes, *Step-up to Advanced class* and *Japanese Culture & Society II (Media and Japan)*, as well as International Career Development Courses (taught in English) such as *Our World Heritage* and *English Short Composition*.

- In addition to the above Center for International Education and Research (CIER) courses, students may also enroll in classes offered by the five faculties (Humanities, Law & Economics / Education / Medical study / Engineering / Bioresources).



JLCS presentations from last year

⑧ Events

- ◆ Fall Semester (Latter Semester of Sept.)
 - Arrival at Mie Orientation
 - Placement Test
- Oct. Welcome Party
- Beginning of Classes
- Nov. University Festival
- Dec. Field Study
- International Exchange Days
- Feb. Final Exam Week
- JLCS Mid-term Presentations



◆ Spring Semester (First Semester of Mie Univ.)

- Apr. Beginning of Classes
- July JLCS Final Presentations
- Aug. Bon-dance Festival
- JLCS Research Paper Due
- JLCS Final Grading / Closing Ceremony / Departure from Mie



⑨ Teaching Staffs

- Dr. Masako Fukuoka, Professor (Phonetics, Second Language Acquisition)
- Dr. Chizuko Matsuoka, Associate Professor (Grammar)
- Dr. Satoko Kurita, Associate Professor (Media Psychology)
- Dr. Shinichi Shoji, Assistant Professor (Psycholinguistics)

⑩ Criteria for Course Completion

Students must pass 7 or more courses including Japanese Language and Culture Studies (JLCS) as well as other requisite classes, conduct research, and present outcomes in Japanese. Grades will be given through comprehensive evaluations by teaching staffs. Certificates of completion will be issued for students who have successfully completed the requirements and received satisfactory grades.

■ Accommodation

Mie University has three accommodations for international students. One of which, Foreign Students' Dormitory, is a place where international students and Japanese students live together to gain global perspectives through cultural interactions.

- ① University Foreign Students House (Build 1988) 6,900~14,000 yen per month
- ② Foreign Students' Dormitory (Build 2009 / Reno. 2015) 7,500~30,000 yen per month
- ③ Women's Dormitory for International Students (Build 1973) 5,900 yen per month



- Top (L) Foreign Students' Dormitory
(R) Foreign Students' Dormitory, Kitchen
Bottom (L) Foreign Students' Dormitory, Dining
(R) Women's Dormitory for International Students

■ Follow-up for Graduates

There is an international party during the International Exchange Days in December to encourage interactions between graduates and current students.

■ Other Study Support Programs

- ① Japanese Tutors
International students can be assigned a Japanese student as a tutor. Japanese tutors assist in improving and understanding Japanese language and culture. They can also support international students' daily lives.
- ② Terakoya Circle
Terakoya Circle is a student organization which assists international students' study of Japanese language. They offer opportunities to practice Japanese conversation and help with Japanese homework.

■ Host Family Program

International students may apply for "Second Home Program" to have a host family to visit and to spend time with on weekends and holidays. This host family program is a student-citizen interactional program that has 30 years of history.



Kamihama Campus, Mie University

Shiro-mochi kun
(Tsu-city PR character)



■ For Further Inquiry

International Relations Office, Academic Affairs and Information Department, Mie University

Address: 1577 Kurimamachiya-cho, Tsu city, Mie,
514-8507 JAPAN
Phone: +81-59-231-9688
Fax: +81-59-231-5692
E-mail: ryugaku@ab.mie-u.ac.jp
< Website >

Center for International Education and Research, Mie University:
<http://www.mie-u.ac.jp/international/index.html>
Mie University:
<http://www.mie-u.ac.jp/>



編集後記

『日本語・日本文化研修留学生 研究レポート集 XVII』をお届けします。今年度三重大学国際交流センターが受け入れた日本語・日本文化研修留学生（第17期生日研究生）は、大学推薦による国費外国人留学生4名で、カンボジアから1名、タイから1名、ドイツから1名、中国から1名と、国際色豊かな構成となりました。

日研究生たちは、三重大学に在籍した2019年10月から2020年8月にかけて、三重大学国際交流センターが開講する日本語および日本事情の授業を履修して日本語能力等を磨くとともに、各自指導教員の指導を受けながら研究レポートの作成に取り組んできました。それまで日本語でこれほど長いレポートを書いた経験のない日研究生たちは、この1年弱の間にテーマの設定、調査方法、結果報告などについての様々な指導を受け、その中で様々な苦勞をしながらレポート作成に励んできました。特に2020年4月からは、コロナ禍のため直接指導教員に会いに行くことができないという難しい環境にありながら、メールやZoom等を使って一生懸命指導を受けてきました。また、研究成果中間発表会（2020年2月14日）や研究成果最終発表会（2020年7月17日；オンライン開催）でも、見やすく美しいスライドを呈示しながら、流暢な日本語で素晴らしい発表を披露してくれました。指導教員としては、Zoom越しに見られた彼、彼女らの堂々とした姿を誇らしく思います。

こうして、4名の日研究生たちが、指導教員および発表会の出席者から受けた様々な提案やアドバイスをもとに何度も書き直し、推敲して書き上げたものが、本レポート集にまとめられました。ここに収録されたレポートを書き上げた経験が、4名の日研究生たちの努力の証として、本人たちの自信となり、そして彼、彼女らの今後の生きる力となることを願っています。

最後になりましたが、2019年度日本語・日本文化研修プログラムの運営には、例年と同じく多くの皆様にご協力をいただきました。あたたかいご指導を賜りました先生方、ならびに職員、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

2020年9月

日本語・日本文化研修コース

コーディネーター 正路 真一